

卵及び乳アレルギーに係る食品表示についての
食品健康影響評価のための調査
報告書

平成30年2月

エム・アール・アイリサーチアソシエイツ株式会社

目次

1. 業務名	2
2. 調査の背景・目的	2
3. 調査内容	3
3.1 調査の基本方針	3
3.2 検討会の設置	3
3.3 文献等の検索及びリスト化	4
3.3.1 アレルゲンの特徴	6
3.3.2 交差性	7
3.3.3 疫学調査等	7
3.3.4 摂取量	9
3.3.5 加工等による影響	9
3.3.6 閾値	11
3.3.7 その他アレルゲン性に影響を与える要因	12
3.3.8 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況	13
3.3.9 その他	14
3.3.10 上記以外の方法でリストアップされた文献等	14
3.4 必須文献等の抽出	15
3.5 概要の取りまとめ	15
3.6 リストの並び替え	15
3.7 原著の収集	15
4. 調査結果	16
4.1 文献等数	16
4.2 必須文献等のリスト	17
4.3 除外文献等のリスト	91

調査の概要

食品安全委員会が自ら行う食品健康影響評価の中で現行の表示等についての検証を行うため、本調査では、我が国の食物アレルギーの主要原因食品である卵及び乳アレルギーに関する諸外国や国際機関等におけるリスク評価書等や国内外における調査・研究文献等、食品健康影響評価に必要な科学情報の収集・整理を行った。

【調査内容と結果】

本調査は、食品安全委員会が自ら行う食品健康影響評価に必要となる、卵及び乳アレルギーに関する文献等をもれなくリストアップし、重要な文献等を抽出し簡潔な抄録を作成することを基本方針とした。

はじめに、卵及び乳アレルギーに関連のある文献等を、諸外国や国際機関等における評価書及び評価書中に引用されている文献やMEDLINEや医学中央雑誌等の文献データベースにおける国内外の文献等を検索し、各文献等の書誌情報等をリスト形式で整理した。その結果、文献等リストには、562件の文献等がリストアップされた。

次に、リストアップした文献等のうち、特に食品健康影響評価を実施するために必須となる文献等を抽出した。抽出は、事前に決めた優先度を踏まえ、さらに各文献のアブストラクトの内容を確認することで行った。その結果、355件の文献等が必須文献等として抽出された。

また、これら文献等の原著を入手するとともに、その概要を和文で取りまとめ、抄録集を作成した。

1. 業務名

卵及び乳アレルギーに係る食品表示についての食品健康影響評価のための調査

2. 調査の背景・目的

食物アレルギーは、我が国の全人口の1～2%が有していると考えられており、食物アレルギーを有する者がアレルゲンを含む食品を摂取すると、過剰な免疫反応により、血圧低下、呼吸困難等の症状を引き起こし、最悪の場合は死に至る。

このような被害を未然に防ぐため、国は、食品表示法（平成25年法律第70号）に基づき、アレルゲンを含む諸品に対し、原材料の表示を義務化又は推奨している。

また、平成27年12月に施行されたアレルギー疾患対策基本法（平成26年法律第98号）の第15条では「国はアレルギー物質を含む食品に関する表示の充実を図るための措置を講ずる」と定められており、これを踏まえ、食品安全委員会は現行の表示等についての科学的検証を行うこととされている。

そこで、食品安全委員会が自ら行う食品健康影響評価の中で現行の表示等についての検証を行うため、本調査において、我が国の食物アレルギーの主要原因食品である卵及び乳アレルギーに関する諸外国や国際機関等におけるリスク評価書等や国内外における調査・研究文献等、食品健康影響評価に必要な科学情報について調査を行う。

3. 調査内容

3.1 調査の基本方針

本調査では、食品安全委員会が自ら行う食品健康影響評価に必要となる、卵及び乳アレルギーに関する文献等をもれなくリストアップし、重要な文献等を抽出し簡潔な抄録を作成することを基本方針とした。なお、本調査において卵とは日本標準商品分類に基づく食用卵（鶏、あひる、うずら等）を、乳とは牛、水牛、めん羊及び山羊の乳をいう。

3.2 検討会の設置

本調査では、食品科学、臨床アレルギー学、疫学に関連する分野の有識者3名から構成される検討会を設置した。検討会では、文献等の収集方法等について助言を行うとともに、文献等の収集及び抽出の過不足や成果報告書案の過誤等について確認した。検討会の委員と各検討会の主な議題は、表 3-1 及び表 3-2 に示す通りである。

表 3-1 検討会の委員

氏名	所属・職位	専門分野
安達 玲子	国立医薬品食品衛生研究所 生化学部第三室 室長	食品科学
宇理須 厚雄	藤田保健衛生大学医学部 客員教授 うりすクリニック 名誉院長	臨床医学
丸井 英二	人間総合科学大学 人間科学部人間科学科 教授	疫学

表 3-2 各検討会の議題

検討会	主な議題
第1回検討会 (平成29年9月7日)	・ 調査計画の確認 ・ 文献等リスト案の確認 ・ 文献の抽出基準の確認 ・ 文献の概要の様式確認
第2回検討会 (平成29年10月19日)	・ 修正した文献リスト案の確認 ・ 抽出文献の確認 ・ 先行して作成した概要の確認
第3回検討会 (平成30年2月1日)	・ 成果の取りまとめ

3.3 文献等の検索及びリスト化

卵及び乳アレルギーに関連のある文献等のうち、表 3-3 に示す各項目について、諸外国や国際機関等における評価書や評価書中に引用されている文献、文献データベースにおける国内外の文献等を検索し、情報を収集した。文献等の情報は、文献名や著者名、書誌情報、表 3-3 に示す各項目等についてリスト形式で整理した。

また、文献等の検索は以下の方法で行った。以降括弧内の数はリストアップした文献数を示す。

(1) 文献データベースの検索

海外の文献については ProQuest Dialog (MEDLINE 及び EMBASE を利用) を、国内の文献については医学中央雑誌 (以下、「医中誌」という。) を利用し、検索した。

(2) 食品表示のためのアレルゲン性食品の評価に関する科学的意見書 (EFSA) の引用文献

文献等を効率よく収集するため、EFSA が 2014 年に公表した「食品表示のためのアレルゲン性食品の評価に関する科学的意見書」(以下、「EFSA 意見書」という。) において、総論及び卵及び乳の項目の中で引用されている文献等のうち、食品健康影響評価を実施するために必須となる文献を抽出した。また、EFSA 意見書自体も重要な情報であるため、リストアップの対象とした。

(3) 各国の公表資料

諸外国や国際機関等における評価書及び評価書中に引用されている文献や、公表されている調査研究資料について、各国のホームページから検索した。

(4) 書籍

多くの知見が集積されており、書籍に情報がまとまって掲載されている項目については、書籍から情報を収集した。

(5) 検討会での推薦

その他、検討会委員が本調査の目的に沿った文献を推薦した。

(6) その他

アブストラクトがなくて内容を確認できないもの、アブストラクトを読んでも文献等の内容が本調査の目的から明らかに外れているもの、学会発表及びポスター発表であったものについては、リストから削除した。

表 3-3 項目

項目	概要
(ア) アレルゲンの特徴	卵及び乳に含まれるアレルゲンの名称、化学構造、溶解性、分類、分子量、含有率、機能、関連する病型、アレルゲン性の強さ等
(イ) 交差性	交差抗原性及び抗体の特異性
(ウ) 疫学調査等	国内外における発症数、有病率、症状別の発症数、重篤症状を示した症例数、死亡者数等の疫学データ
(エ) 摂取量	卵及び乳の摂取量、アレルゲンの推定ばく露量
(オ) 加工等による影響	加工（熱処理、酸処理、加水分解、高圧処理、油脂の抽出、保存等）や消化液等によるアレルゲン性への影響
(カ) 閾値	閾値と算出根拠
(キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因	患者側における要因（年齢、既往歴、遺伝的要因、他疾患の有無等）、環境要因（食習慣、母乳、摂食の開始時期等）
(ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況	諸外国や国際機関等におけるリスク評価及びリスク評価を踏まえたリスク管理状況。ただし、リスク管理のみの情報は今回の調査対象外とする。
(ケ) その他	卵及び乳由来の添加物、卵及び乳を産生する動物の科学的分類（系統分類、遺伝学的分類等）

3.3.1 アレルゲンの特徴

アレルゲンの特徴は、文献データベースの検索の結果ヒットした文献、EFSA 意見書、書籍及び各国の公表資料をリストアップした。

(1) 文献データベースの検索（アレルゲンの強さに関する情報）

アレルゲンの強さ（アレルゲン性）は特に重要な項目であるため、以下のキーワードで検索を行い、ヒットした文献のうち本調査の目的にあったものをリストアップした。（対象期間：2007-2017 年）

①"potency"をキーワードとした検索

◆ (su(allergy) OR allerg*) AND "egg allergen potency" (11 件)

◆ (su(allergy) OR allerg*) AND "milk allergen potency" (13 件)

※"egg allergen potency", "milk allergen potency"とまとめているが、それぞれの単語を区切った上でも検索を実施。

②"allergenicity"をキーワードとした検索

◆ ((su(allergy) OR allerg*) AND egg AND human AND allergenicity)(3 件)

◆ ((su(allergy) OR allerg*) AND milk AND human AND allergenicity)(4 件)

(2) EFSA 意見書

EFSA 意見書"Scientific Opinion on the evaluation of allergenic foods and food ingredients for labelling purposes (2014) "をリストアップした。

(3) 各国の公表資料

「食物アレルギー診療ガイドライン 2016」において紹介されている、以下のアレルゲンデータベースをリストアップした。

- ・ WHO/IUIS Allergen Nomenclature Sub-committee
- ・ Allergome
- ・ AllFam
- ・ Food Allergy Research and Resource Program Allergen Database
- ・ Structural Database of Allergenic Proteins (SDAP)
- ・ Immune Epitope Database and Analysis Resource
- ・ Allergen Online

また、検討会委員が、以下のデータベースを推薦した。

- ・ Allergen Database for Food Safety (ADFS)

(4) 書籍

食物アレルギーの診療において必須の資料とされていることから、「食物アレルギー診療ガイドライン 2016」をリストアップした。

3.3.2 交差性

交差性は、文献データベースの検索の結果ヒットした文献及び EFSA 意見書の引用文献をリストアップした。

(1) 文献データベースの検索（動物種間の交差性に関する情報）

卵については鶏卵とその他の食用鳥卵との交差性、乳については牛乳と水牛、めん羊又は山羊の乳との交差性について、以下のキーワードで検索を行い、ヒットした文献のうち本調査の目的にあったものをリストアップした。（対象期間：2007-2017 年）

- ◆ (su(allergy) OR allerg*) AND cross reactivity AND egg AND (hen OR quail OR duck OR ostrich)(9 件)
- ◆ (su(allergy) OR allerg*) AND cross reactivity AND milk AND cow AND (nanny OR buffalo OR ox OR goat OR sheep) (31 件)

(2) EFSA 意見書

EFSA 意見書中の「15. Allergy to milk and dairy products (15.4. Cross-reactivities)」及び「16. Allergy to eggs (16.4. Cross-reactivities)」で引用されている文献をリストアップした。（対象期間：2007-2014 年）

3.3.3 疫学調査等

疫学調査等は、文献データベースの検索の結果ヒットした文献、EFSA 意見書の引用文献及び各国の公表資料をリストアップした。

(1) 文献データベースの検索（アレルギーの症状別・重症度別に関する情報）

1) 海外文献の検索

卵及び乳アレルギーの疫学調査等については、アレルギーの有病率とともに症状別や重症度別の情報が重要であるため、以下のキーワードで検索を行い、ヒットした文献のうち、本調査の目的にあったものをリストアップした。（対象期間：2007-2017 年）

① "severity"、"anaphylaxis"をキーワードとした検索

- ◆ (egg AND (su(allergy) OR allerg*) AND severity AND (reaction OR anaphylaxis) AND (su(epidemiology) OR epidemiolo*)) (81 件)
- ◆ (milk AND (su(allergy) OR allerg*) AND severity AND (reaction OR anaphylaxis) AND (su(epidemiology) OR epidemiolo*)) (100 件)

②全身症状"systemic symptom"、"general symptom"、咽頭浮腫"pharyngeal edema"をキーワードとした検索

- ◆ (su(allergy) OR allerg*) AND egg AND severity AND (su(epidemiology) OR epidemiolo*) AND (systemic OR "general symptom" OR "pharyngeal edema")(1 件)
- ◆ (su(allergy) OR allerg*) AND milk AND severity AND (su(epidemiology) OR epidemiolo*) AND (systemic OR "general symptom" OR "pharyngeal edema")(2 件)

③②に喉頭浮腫"laryngeal edema"を追加して検索（リストアップした文献はなし）

- ◆ (su(allergy) OR allerg*) AND egg AND severity AND (su(epidemiology) OR epidemiolo*) AND (systemic OR "general symptom" OR "pharyngeal edema" OR laryngeal edema)
- ◆ (su(allergy) OR allerg*) AND milk AND severity AND (su(epidemiology) OR epidemiolo*) AND (systemic OR "general symptom" OR "pharyngeal edema" OR laryngeal edema)

2) 国内文献の検索

日本国内あるいは日本人を対象としている疫学調査を把握するため、以下のキーワードで検索を行い、ヒットした文献のうち本調査の目的にあったものをリストアップした。

（対象期間：2000－2017 年）

- ◆ アレルギーAND 卵 AND （症状別 OR 重症度 OR アナフィラキシーOR 咽頭浮腫 OR 全身症状）（34 件）
- ◆ アレルギーAND 乳 AND （症状 OR 重症度 OR アナフィラキシーOR 咽頭浮腫 OR 全身症状）（34 件）

(2) EFSA 意見書

EFSA 意見書中の「15. Allergy to milk and dairy products (15.2. Epidemiology)」及び「16. Allergy to eggs (16.2. Epidemiology)」で引用されている文献をリストアップした。（対象期間：2007-2014 年）

(3) 各国の公表資料

各国の統計局及び保健省等が出している食物アレルギー疾患に関する統計データ及び研究を調査し、有用な資料をリストアップした。また、厚生労働科学研究成果データベースと消費者庁ウェブサイトで該当研究を確認し、卵及び乳アレルギーに関する研究をリストアップした。

3.3.4 摂取量

摂取量は、文献データベースの検索の結果ヒットした文献及び各国の公表資料をリストアップした。

(1) 文献データベースの検索（食事一回あたりの摂取量・ケーキやクッキー等の加工品中のアレルゲンタンパク含有量に関する情報）

食事一回あたりの摂食量（serving size, portion size）に関する文献について、以下のキーワードで検索を行い、ヒットした文献のうち本調査の目的にあったものをリストアップした。なお、一回の食事あたりの摂取量を把握できる文献を選定した。また、ケーキやクッキー等の加工品中のアレルゲンタンパク含有量に関する情報は見つからなかった。（対象期間：2007-2017 年）

- ◆ egg AND (“serving size” OR “portion size”) AND (“dietary intake” OR dietary)(3 件)
- ◆ milk AND (“serving size” OR “portion size”) AND (“dietary intake” OR dietary)(8 件)

(2) 各国の公表資料

各国が実施している食事摂取量調査を調べてその調査結果のデータ（1 日摂取量）をリストアップした。カナダ、豪州、ニュージーランド、米国、英国、フランス、オランダ及び韓国を調査対象とした。また、厚生労働省（科学研究費補助金）により作成された加工食品中のアレルゲン含有量の早見表もリストアップした。

3.3.5 加工等による影響

加工等による影響は、文献データベースの検索の結果ヒットした文献及び EFSA 意見書の引用文献をリストアップした。

(1) 文献データベースの検索（卵・乳の加工等がアレルギーに与える影響）

1) レビュー文献の検索とその引用文献

加工等が卵及び乳アレルギーに与える影響については、これまでに多数のレビュー文献がまとめられている。そのため、本調査では、最新のレビュー文献を数報選び、当該レビュー文献をリストアップするとともに、重要な引用文献をリストアップした。（対象期間：2007-2017 年）

【レビュー文献の検索】

以下のキーワードで検索を実施し、内容を確認して、10 件のレビュー文献をリストアップした。

- ◆ egg AND (su(allergy) OR allerg*) AND "food processing" AND (decrease OR increase OR change) AND review
- ◆ milk AND (su(allergy) OR allerg*) AND "food processing" AND (decrease OR increase OR change) AND review

【レビュー文献の引用文献】

上記レビュー文献の引用文献のうち、下記の条件に当てはまる引用文献をリストアップした。(レビュー文献と合わせて 36 件をリストアップ)

- ・ 2007－2017 年に発行されている。
- ・ 卵・乳に関連する文献である。
- ・ インパクトファクターが 5.0 以上である雑誌に掲載されている。

2) EFSA 意見書の項目を踏まえた文献検索

EFSA 意見書の「7. Influence of environmental and individual factors in the distribution of food allergies」の小項目（7.1.2 Food processing and preparation）をキーワードとして検索を行い、ヒットした文献のうち本調査の目的にあったものをリストアップした。（対象期間：2014－2017 年）

- ◆ egg AND (su(allergy) OR allerg*) AND "food processing" OR "food preparation"(19 件)
- ◆ milk AND (su(allergy) OR allerg*) AND "food processing" OR "food preparation"(46 件)

3) 卵・乳の加工等がアレルギーに与える影響に関する文献の検索

加工等がアレルギーに与える影響に関する文献について、以下のキーワードで検索を行い、ヒットした文献のうち本調査の目的にあったものをリストアップした。（対象期間：2000-2017 年）

- ◆ ((su(allergy) OR allerg*) AND "chicken egg" AND (hydrolysis OR heat* OR pressurization))
- ◆ ((su(allergy) OR allerg*) AND "cow milk" AND (hydrolysis OR heat* OR pressurization))
(卵 7 件)
- ◆ ((su(allergy) OR allerg*) AND "egg" AND "food processing" AND (hydrolysis OR heat* OR pressurization))
- ◆ ((su(allergy) OR allerg*) AND "milk" AND "food processing" AND (hydrolysis OR heat* OR pressurization))
(乳 7 件)

(2) EFSA 意見書

EFSA 意見書中の「15. Allergy to milk and dairy products (15.5. Effects of food processing on allergenicity)」及び「16. Allergy to eggs (16.5. Possible effects of food processing on allergenicity and derived products)」で引用されている文献をリストアップした。(対象期間：-2014 年)

3.3.6 閾値

閾値は、文献データベースの検索の結果ヒットした文献及び EFSA 意見書の引用文献をリストアップした。

(1) 文献データベースの検索 (閾値に関する情報)

1) 海外文献の検索

閾値と閾値を算出する方法を含む文献について、以下のキーワードで検索を行い、ヒットした文献のうち本調査の目的にあったものをリストアップした。(対象期間：2014-2017 年)

- ◆ egg AND (su(allergy) OR allerg*) AND (threshold OR “eliciting dosed”)(30 件)
- ◆ milk AND (su(allergy) OR allerg*) AND (threshold OR “eliciting dosed”)(35 件)

2) 国内文献の検索

日本国内あるいは日本人を対象としている閾値に関する文献について以下のキーワードで検索を行い、ヒットした文献のうち本調査の目的にあったものをリストアップした。

(対象期間：2000-2017 年)

- ◆ アレルギー AND 卵 AND 閾値(8 件)
- ◆ アレルギー AND 乳 AND 閾値(4 件)

(2) EFSA 意見書

EFSA 意見書中の「15. Allergy to milk and dairy products (15.7. Minimal (observed) eliciting doses)」及び「16. Allergy to eggs (16.7. Minimal (observed) eliciting doses)」で引用されている文献をリストアップした。(対象期間：2007-2014 年)

3.3.7 その他アレルゲン性に影響を与える要因

その他アレルゲン性に影響を与える要因は、文献データベースの検索の結果ヒットした文献及び EFSA 意見書の引用文献をリストアップした。

(1) 文献データベースの検索（アレルゲン性に影響を与える要因に関する情報）

1) EFSA 意見書によるキーワードで検索

EFSA 意見書の「7. Influence of environmental and individual factors in the distribution of food allergies」の 5 つの小項目（food consumption, genetic background, age and sex ,socio-economic , ethnicity）をキーワードとして検索を行い、ヒットした文献のうち本調査の目的にあったものをリストアップした。また、“ethnicity”（民族性）と合わせて“race”（人種）もアレルゲン性に影響を与える要因と考えられるため、キーワードとして検索を行った。

（対象期間：2014-2017 年）

- ◆ egg AND (su(allergy) OR allerg*) AND “food consumption”
- ◆ egg AND (su(allergy) OR allerg*) AND genetic AND epidemiol*
- ◆ egg AND (su(allergy) OR allerg*) AND age AND sex AND epidemiol*
- ◆ egg AND (su(allergy) OR allerg*) AND socio-economic
- ◆ egg AND (su(allergy) OR allerg*) AND ethnicity
- ◆ egg AND (su(allergy) OR allerg*) AND race

- ◆ milk AND (su(allergy) OR allerg*) AND “food consumption”
- ◆ milk AND (su(allergy) OR allerg*) AND genetic AND epidemiol*
- ◆ milk AND (su(allergy) OR allerg*) AND age AND sex AND epidemiol*
- ◆ milk AND (su(allergy) OR allerg*) AND socio-economic
- ◆ milk AND (su(allergy) OR allerg*) AND ethnicity
- ◆ milk AND (su(allergy) OR allerg*) AND race

（卵乳合わせて 109 件をリストアップ）

2) 食習慣等のキーワードで検索

食習慣等の新たなキーワードを含めて検索を行い、ヒットした文献のうち特に重要な文献をリストアップした。（対象期間：1990 年-）

- ◆ (egg AND (su(allergy) OR allerg*)) AND ("eating habit" OR "dietary habit" OR "food habit" OR "diet pattern" OR "food habit" OR "eating pattern")
- ◆ (milk AND (su(allergy) OR allerg*)) AND ("eating habit" OR "dietary habit" OR "food habit" OR "diet pattern" OR "food habit" OR "eating pattern")

（卵乳合わせて 9 件をリストアップ）

3) 国内のアレルゲン性に影響を与える要因に関する情報

アレルゲン性に影響を与える要因（遺伝、アトピー、食習慣及び食事傾向）に関する日本国内の文献あるいは日本人を対象とした文献について、以下のキーワードで検索を行い、ヒットした文献のうち本調査の目的にあったものをリストアップした。また、(ウ)疫学調査等で検索された文献にも、いくつか要因に関するものがあったため、これをリストアップした。(対象期間：1995-2017年)

①遺伝・民族・アトピーをキーワードとして検索

◆ アレルギー AND 卵 AND (遺伝 OR 民族 OR アトピー) (10件)

◆ アレルギー AND 乳 AND (遺伝 OR 民族 OR アトピー) (7件)

②食習慣・食事傾向をキーワードとして検索

◆ アレルギー AND 卵 AND (食習慣 OR 食事傾向)

◆ アレルギー AND 牛乳 AND (食習慣 OR 食事傾向)

※乳で検索すると乳児もヒットしてしまうためキーワードは牛乳とした。

(卵乳合わせて2件をリストアップ)

(2) EFSA 意見書

EFSA 意見書中の「7. Influence of environmental and individual factors in the distribution of food allergies」で引用されている文献のうち、卵・乳に関連する文献をリストアップした。(対象期間：-2014年)

3.3.8 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況

諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況は、文献データベースの検索の結果ヒットした文献及び各国の公表資料をリストアップした。

(1) 文献データベースの検索（一貫したリスク評価・リスク管理に関する情報）

リスク評価からリスク管理までが一貫して実施されている文献について、以下のキーワードで検索を行い、ヒットした文献のうち本調査の目的にあったものをリストアップした。(対象期間：2007-2017年)

◆ (egg AND (su(allergy) OR allerg*) AND “risk assessment” AND (“eliciting dose” OR ED))

◆ (egg AND (su(allergy) OR allerg*) AND “risk management”

◆ (milk AND (su(allergy) OR allerg*) AND “risk assessment” AND (“eliciting dose” OR ED))

◆ (milk AND (su(allergy) OR allerg*) AND “risk management”

(卵乳合わせて21件をリストアップ)

(2) 各国の公表資料

米国、ニュージーランド、オーストラリア、カナダ、英国、フランス、オランダ、ドイツ、スペイン、イタリア等を中心に調査を行い、アレルギー食品の表示に関連する各国の規制や法律などをリストアップした

3.3.9 その他

その他は、各国の公表資料、書籍をリストアップした。

(1) 各国の公表資料

国内外における卵及び乳由来の添加物一覧を調査し、リストアップした。

(2) 書籍

卵や乳を産生する動物の科学的分類について、農学部等で使用している書籍・参考文献等をリストアップした。

3.3.10 上記以外の方法でリストアップされた文献等

3.3.1 ～3.3.9 以外に、検討会委員が推薦した Scott H. Sicherer 氏及び Hugh A. Sampson 氏のレビュー文献で、卵及び乳アレルギーに言及している文献をリストアップした。また、J Allergy Clin Immunol の最新文献のうち卵・乳に関連する文献をリストアップした。

3.4 必須文献等の抽出

3.3 で収集し、リストアップした文献等のうち、特に食品健康影響評価を実施するために必須となる文献等を抽出した。文献等の抽出は以下に示す優先度を踏まえて実施した。

- ・ 文献を①原著（メタアナリシスに基づく研究）、②原著（その他）、③レビュー、④その他に分類し、優先度は①②③の順とする。④その他については、症例報告を含め参考程度に記載する。
- ・ （ウ）疫学調査等の優先順位は、メタアナリシス、ランダム化比較試験、コントロールスタディの順とする。
- ・ 国や地域によりデータ傾向が異なる可能性のある、（ウ）疫学調査、（エ）摂取量、（カ）閾値及び（キ）その他アレルゲン性に影響を与える要因については、国内の調査研究データを優先する。

3.5 概要の取りまとめ

3.4 で抽出した文献等について概要を和文で作成した。文献はアブストラクトを和訳した上で、その他重要な情報があれば追加した。各国の公表資料は統計データの内容と情報源を取りまとめた。データベースは検索対象や卵及び乳のアレルゲンを検索した場合の情報を整理した。書籍は本調査の目的にあった項目の概要を取りまとめた。

3.6 リストの並び替え

以下の手順で文献等を並び替えた。

- ① 抽出した文献（抽出文献）を選択し、その他の文献（除外文献）は別表とする。
- ② 文献等の検索及びリスト化で使った分野項目（ア）～（ケ）の順に並べる。
- ③ 書籍、データベース、レビュー、公的機関資料、原著の順に並べる。
- ④ 卵・乳の両方、卵のみ、乳のみの順に並べる。
- ⑤ 英語、日本の順に並べる。
- ⑥ 著者のラストネームのアルファベット順に並べる。
- ⑦ 同じ著者の場合、古い年代を並べる。

3.7 原著の収集

3.4 で抽出した必須文献等は、原著を入手し、Thomson Reuters 社 EndNote 形式のフォーマットに変換した上で、CD-ROM 形式として納品した。

4. 調査結果

4.1 文献等数

調査の結果、文献等リストとして 562 件の文献等がリストアップされた。この文献等リストから、207 件を除外とし、355 件が必須文献等として抽出された。項目ごとに整理した結果は、表 4-1 に示す通りである。

表 4-1 項目ごとの文献等の数

項目	文献等リスト	抽出した必須文献等	除外した文献等
(ア) アレルゲンの特徴	36 件	25 件	11 件
(イ) 交差性	37 件	31 件	6 件
(ウ) 疫学調査等	153 件	98 件	55 件
(エ) 摂取量	15 件	13 件	2 件
(オ) 加工等による影響	115 件	68 件	47 件
(カ) 閾値	30 件	25 件	6 件
(キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因	134 件	68 件	66 件
(ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況	27 件	19 件	8 件
(ケ) その他	8 件	8 件	0 件
区分無し	6 件	—	6 件
合計	562 件	355 件	207 件

4.2 必須文献等のリスト

3.3 で検索及びリストアップし、3.4 において抽出された文献等は、表 4-2 に示す通りである。

表 4-2 抽出文献等

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要 な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
1	19	ア	卵ア 乳ア	日本医師会生涯教育シリー ズ：アレルギー疾患のすべて	足立 満、斎 藤 博久監修	日本医師会発 行、メジカル ビュー社（東 京）出版・発 売（小川 郁、片山 一 朗、山口 正 雄編集）	2016	アレルギー疾患発症のメカニズムから 検査、診断、治療まで全体を網羅して おり、食物アレルギーの診断や重症度 の判定、重症度に対応する治療法を解 説。	書籍	書籍	-	
2	20	ア	卵ア 乳ア	食物アレルギーのすべて 基 礎から臨床・社会的対応まで	伊藤 浩明 編集	診断と治療社 出版・販売	2016	第1章：食物アレルギーを巡る動向と その歴史、診断、予防と関連因子、第2 章：各アレルギーの最新研究紹介、第 3章：アレルギーに対する臨床現場で の対処法、第4章：アナフィラキシー など特に重要な課題の考察、第5章： 患者が社会の中で直面する問題	書籍	書籍	-	
3	23	ア	卵ア 乳ア	食物アレルギー診療ガイドラ イン 2016	海老澤 元 宏、伊藤 浩 明、藤澤 隆 夫監修	日本小児アレ ルギー学会作 成、協和企画 出版・販売	2016	食物アレルギーについて概説してお り、鶏卵や牛乳の主なアレルギーを解 説。	書籍	書籍	-	
4	11	ア	卵ア 乳ア	Allergome	Allergy Data Laboratories s.c	http://www.a llergome.org/ index.php		データベース：アレルギーに関する情 報を提供するデータベース。	アレルギー 分子に関連 した研究の データベー ス	データベ ース	-	http://ww w.allergo me.org/ind ex.php
5	12	ア	卵ア 乳ア	AllFam	Medical University of Vienna	http://www. meduniwien. ac.at/allfam/		データベース：アレルギー物質をタン パク質ファミリーとして分類するデー タベース。	VIENNA 大 学のデータ ベース	データベ ース	-	http://ww w.meduni wien.ac.at /allfam/

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルギーの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルギー性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類(代表項目)	分類(詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類(大分類)	文献種類(小分類)	情報源
6	15	ア	卵ア 乳ア	Immune Epitope Database and Analysis Resource	National Institute of Allergy and Infectious Diseases	http://tools.ie db.org/main/		データベース：米国の国立感染症研究所（NIAID）の支援を受け、アレルギー・免疫学研究所（LIAI）の科学者によって作成されたデータベース。エピトープに関する情報を提供。		データベース	-	http://ww w2.immun eepitope.o rg/
7	16	ア	卵ア 乳ア	Structural Database of Allergenic Proteins(SDAP)	The University of Texas Medical Branch	http://fermi. utmb.edu/		データベース：アレルギーに関連する構造生物学の研究を支援する様々な計算ツールとアレルギー性タンパク質のデータベースを統合する Web サーバ。米国環境保護庁（STAR）及び国立衛生研究所の助成を受けている。		データベース	-	http://fer mi.utmb.e du/
8	14	ア	卵ア 乳ア	Food Allergy Research and Resource Program Allergen Database	University of Nebraska Lincoln	http://farrp.u nl.edu/infor mallbig8		データベース：ネブラスカリンカーン大学が作成したデータベース。No.9 の Allergen Online と InformAll の二つのデータベースを提供。		データベース	-	http://farr p.unl.edu/ informallb ig8
9	695	ア	卵ア 乳ア	Allergen Online	University of Nebraska Lincoln	http://www.a llergenonlin e.org/databa sebrowse.sht ml	2017	データベース：包括的な 808 の分類学上のタンパク質グループに分類されたシーケンス表を含むリスト。アレルギーを含む食物タンパク質はピアレビューされており、2017 年にデータはアップデートされている。		データベース	-	http://ww w.allergen online.org/
10	18	ア	卵ア 乳ア	WHO/IUIS Allergen Nomenclature Sub-committee	WHO/IUIS Allergen Nomenclature Sub-committee et al	http://allerge n.org/		データベース：世界保健機構/国際免疫学会のアレルギー命名委員会（WHO/IUIS Allergen Nomenclature Sub-committee）によって承認された体系的なアレルギー命名法の公式サイト。		データベース	-	http://aller gen.org/
11	611	ア	卵ア 乳ア	Allergen Database for Food Safety (ADFS)	国立医薬品食品衛生研究所	http://allerge n.nihs.go.jp/ ADFS/	ー	データベース：新開発食品のアレルギー性を予測する目的でアレルギーに関する既存の各種データベースや文献情報を集積。		データベース	-	http://allerg en.nihs.go.j p/ADFS/

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルギー性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類(代表項目)	分類(詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類(大分類)	文献種類(小分類)	情報源
12	13	ア	卵ア 乳ア	DRAFT SCIENTIFIC OPINION Scientific Opinion on the evaluation of allergenic foods and food ingredients for labelling purposes. EFSA Panel on Dietetic Products, Nutrition and Allergies (NDA)	EFSA	EFSA Journal 2014; 12: 3894 (286 pages)	2014	卵及び牛乳を含む各アレルギー誘発性食物に関する文献レビュー。	EFSA の評価書	レビュー	-	EFSA 意見書
13	75	ア	卵ア 卵イ 乳ア 乳イ	Allergic cross-reactivity: from gene to the clinic.	Ferreira F et al	Allergy. 2004; 59: 243-267.	2004	タンパク質間の構造的類似性に関するレビュー。卵と乳のアレルゲンの一覧表を掲載。タンパク質ファミリーとして交差性についても少し触れている。		レビュー	-	EFSA 意見書
14	726	ア	卵ア 卵ウ 乳ア 乳ウ	Food allergy and the potential allergenicity-antigenicity of microparticulated egg and cow's milk proteins.	Sampson HA et al	J Am Coll Nutr. 1990; 9: 410-417	1990	タンパク質の微粒子化がアレルギー性の変化に与える影響について、卵白や牛乳から作られた Simplese と濃縮乳清から作られた BetaIL についてイムノブロットを行い、アレルゲン性の変化を確認。		レビュー	-	文献検索
15	739	ア	卵ア 卵ウ 乳ア 乳ウ	Making the Most of In Vitro Tests to Diagnose Food Allergy	Santos AF et al	J Allergy Clin Immunol Pract. 2017; 5: 237-248	2017	特異的 IgE 依存性食物アレルギーの根底にある免疫機構を評価するための様々な <i>in vitro</i> 試験のレビュー。臨床現場で診断及び検査に用いる際の解釈等を整理。		レビュー	-	委員推薦
16	358	ア	卵ア 卵オ	Egg proteins as allergens and the effects of the food matrix and processing	Benedé S et al	Food Funct. 2015; 6: 694-713.	2015	卵を強力なアレルゲンとする卵タンパク質の構造的又は機能的特性に関するレビュー。		レビュー	-	文献検索
17	31	ア	卵ア	Food Processing: The Influence of the Maillard Reaction on Immunogenicity and Allergenicity of Food Proteins.	Teodorowicz M et al et al	Nutrients. 2017; 9: 835	2017	メイラード反応によるタンパク質の修飾が、オボアルブミンの免疫原性及びアレルギー性に与える影響を研究。		レビュー	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
18	308	ア	乳ア	Proteomic applications in food allergy: Food allergenomics	Di Girolamo F et al	Curr Opin Allergy Clin Immunol. 2015; 15:259-66.	2015	牛乳などのアレルゲンとなる食品タンパク質のプロテオミクス解析の総説。	http://journals.lww.com/co-allergy/Abstract/2015/06000/Proteomic_applications_in_food_allergy___food.12.aspx	レビュー	-	文献検索
19	30	ア	卵ア	Influence of the carbohydrate moieties on the immunoreactivity and digestibility of the egg allergen ovomucoid	Benedé S et al	PLoS ONE 2013; 8: e80810.	2013	オボムコイドについている糖鎖が抗原性に与える影響を研究。卵アレルギー患者の血液を用いて糖鎖のついたオボムコイドとそうでない場合の IgE 結合及び好塩基球活性を比較。		原著	-	文献検索
20	35	ア	卵ア 卵オ	The thermal aggregation of ovalbumin as large particles decreases its allergenicity for egg allergic patients and in a murine model	Claude M et al	Food Chem. 2016; 203:136-44.	2016	大きな形態で凝集したオボアルブミンのアレルギー誘発性の比較。オボアルブミンの熱凝集が IgG 産生を増強し、IgG2a 産生を促進することを示した。		原著	-	文献検索
21	342	ア	卵ア	A clinical and immunological study of allergy to hen's egg white.	Langeland T et al	Allergy, 1982;37: 521-530.	1982	ニワトリの卵白のアレルゲン物質を交差免疫電気泳動法 (CRIE)を用いて研究。		原著	-	EFSA 意見書
22	631	ア	乳ア	Residual allergenicity of amino acid-based and extensively hydrolysed cow's milk formulas	Levin ME et al	SAMJ. 2017;107: 763-767.	2017	加水分解された牛乳について、残留アレルゲン含有量、タンパク質サイズ及びアミノ酸含量を評価。		原著	-	文献検索
23	630	ア	乳ア	Allergenicity of Bos d 5 in Children with Cow's Milk Allergy is Reduced by Transglutaminase Polymerization	Olivier CE et al	Pediatr Allergy Immunol. 2012; 25: 30-33	2012	アレルギーを誘発する牛乳タンパク質の中で最も一般的な低 IgE 依存性 Bos d 5 過敏症と診断された子供を対象に重合ウシ乳清 β -ラクトグロブリンのアレルギー誘発性を評価。		原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要 な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
24	52	ア	乳ア	Epitope mapping and identification of amino acids critical for rabbits IgG-binding to linear epitopes on buffalo beta-lactoglobulin	Xin L et al	Protein Pept Lett. 2012; 19: 1103-11.	2012	パッファロー乳の β -ラクトグロブリンの糖鎖（アミノ酸の構成など）の特徴を、ウサギ血清を用いて同定。	パッファロー乳のエピトープ mapping で交差性に関してはアブストラクトにはない。	原著	-	文献検索
25	693	ア	乳ア	牛乳アレルギー患者におけるカゼイン、 β ラクトグロブリン感作に関する研究	中野 泰至 他	アレルギー, 2010; 59: 117-122.	2010	牛乳特異的 IgE 値陽性で牛乳摂取により何らかの即時型症状を呈した 115 名の患者を対象として β -ラクトグロブリン、カゼインに対する感作率を解析。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
26	82	イ	卵イ乳イ	Cross-reactivity Syndromes in Food Allergy	García BE et al	J Investig Allergol Clin Immunol 2011;21 :162-170	2011	食品間の感作性についてのレビュー。		レビュー	-	文献検索
27	45	イ	乳イ	Clinical implications of cross-reactive food allergens.	Sicherer SH et al	J Allergy Clin Immunol. 2001;108: 881-90.	2001	食物アレルギーの交差性に関する臨床データのレビュー文献。多数の食品を対象とする。	臨床現場での問題に取り組むための枠組みを提供することが目的。	レビュー	-	EFSA 意見書
28	76	イ	卵イ	Allergy to eggs from duck and goose without sensitization to hen egg proteins.	Añíbarro et al	J Allergy Clin Immunol. 2000 ;105: 834-6.	2000	鶏卵アレルギーをもたない成人患者での、アヒルとガチョウの卵を摂取した後の食物アレルギーの症例報告。皮膚試験はアヒル及びガチョウの卵白につき陽性。皮膚試験及び特異的血清 IgE は、鶏卵タンパク質につき陰性。	症例報告	原著	症例報告	EFSA 意見書

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
29	78	イ	卵イ	Allergy to quail's egg without allergy to chicken's egg. case report.	Caro Contreras FJ et al	Allergol Immunopathol (Madr). 2008; 36: 234-7	2008	鶏卵アレルギーを持たない 10 歳女児のウズラの卵によるアナフィラキシーショック発生に関する症例報告。ウズラの卵に特定のアレルゲン（オボトランスフェリンが原因）鶏卵とウズラの卵では交差性を持たないことが示唆された。	症例報告	原著	症例報告	文献検索
30	90	イ	卵イ	Is aboriginal food less allergenic? Comparing IgE-reactivity of eggs from modern and ancient chicken breeds in a cohort of allergic children.	Egger M et al	PLoS One. 2011; 6: e19062.	2011	卵アレルギーを有する子供 25 名を対象として、古代ニワトリ種（アローカナ及びマラン）と飼育鶏の卵を用いて、皮膚プリックテストと DBPCFC、Gal d 1-5 に対する感作性検査、イムノプロットを行い、IgE 結合能を比較。古代ニワトリ種と飼育鶏の卵では感作性が異なることが示唆された。		原著	DBPCFC	EFSA 意見書
31	377	イ	卵ア 卵イ	Prevalence of lysozyme sensitization in an egg-allergic population.	Fremont S et al	Allergy, 1997;52:224-228.	1997	卵アレルギーを持つ患者のうち、卵タンパク質であるリゾチームに感作された患者の割合を調査。調査した 卵アレルギー患者の 35%が抗リゾチーム IgE を有していた。	Cap RAST を用いて測定。	原著	-	EFSA 意見書
32	81	イ	卵イ	Common allergens in avian meats.	Kelso JM et al	J Allergy Clin Immunol. 1999;104, 202-204.	1999	いくつかの鳥類の肉にアレルギー反応があるが、卵についてはアレルギー反応がないと報告した 3 例の患者を評価。鶏、七面鳥、市販の卵抽出物、鳩肉・ウズラ肉加工品の抽出物、黄熱病ワクチンを用いて皮膚試験を実施。また、皮膚試験と同じ材料に加えてアヒルとガチョウの肉を用いて IgE のイムノプロットを実施。皮膚試験は卵を除いて全て陽性、イムノプロットでは卵黄と黄熱病ワクチン以外は結合。		原著	-	EFSA 意見書

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
33	74	イ	卵イ	A clinical and immunological study of allergy to hen's egg white. VI. Occurrence of proteins cross-reacting with allergens in hen's egg white as studied in egg white from turkey, duck, goose, seagull, and in hen egg yolk, and hen and chicken sera and flesh	Langeland T et al	Allergy. 1983;38: 399- 412.	1983	鶏の卵白中のアレルゲンと交差反応するタンパク質があるか、七面鳥、アヒル、ガチョウ、カモメの卵白、鶏の卵黄、鶏（雌鶏）と雛鳥の血清と肉で調査。全ての鳥類の卵白は、鶏卵の卵白中の多くのアレルゲンと交差反応するタンパク質を含むことが判明したが、交差反応の程度は各卵白の間で大きく異なった。		原著	-	EFSA 意見書
34	88	イ	卵イ	Identification of a serine protease inhibitor homologue in Bird's Nest by an integrated proteomics approach.	Ou K et al	Electrophoresis. 2001; 22: 3589-3595.	2001	海燕の巣のアレルゲンを調査し、その特徴を調査。鶏卵の卵白に含まれる主要なアレルゲンの一つであるオボインヒビターとの相同性が見られた。		原著	-	EFSA 意見書
35	381	イ	卵イ 卵ウ	Recurrent angioedema due to lysozyme allergy.	Perez-Calderon R et al	J Invest Allergol Clin Immunol. 2007; 17: 264 - 266.	2007	54 歳女性の症例報告。スペインで販売されているトローチ（リゾチームを含む）を摂取後、呼吸困難や浮腫を発症。リゾチームに対する特異的血清が存在した。		原著	症例報告	EFSA 意見書
36	80	イ	卵イ	Chicken serum albumin (Gal d 5*) is a partially heat-labile inhalant and food allergen implicated in the bird-egg syndrome.	Quirce S et al	Allergy. 2001; 56: 754-762.	2001	卵黄に対する食物アレルギーを有し、かつ鳥へのばく露によって生じる呼吸器症状を有する患者 8 人を調査対象とし、卵黄及び鳥抗原に対する感作を皮膚テスト及び血清検査により調査。すべての患者で、卵黄、ニワトリ血清、鶏肉、鳥羽毛、ニワトリアルブミンに対して、皮膚テスト陽性及び血清 IgE の存在が確認された。		原著	-	EFSA 意見書

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要 な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
37	84	イ	卵イ	Egg yolk alpha-livetin (chicken serum albumin) is a cross-reactive allergen in the bird-egg syndrome.	Szepfalusi Z et al	J Allergy Clin Immunol, 1994; 93, 932-942.	1994	卵アレルギー、鳥類アレルギー、又は鳥類及び卵アレルギーの臨床歴を有する 31 例の患者血清についてイムノブロット法を用いて調査し、鳥の羽根、卵黄、及び卵白の抽出物中の IgE 結合成分を比較。セキセイインコと鶏の羽と卵黄 α -リベチンの共通エピトープが示唆された。		原著	-	EFSA 意見書
38	54	イ	乳イ	Goat milk allergenicity as a function of α S1-casein genetic polymorphism	Ballabio C et al	J Dairy Sci, 2011; 94: 998-1004	2011	ヤギ乳中の α -S1 カゼインの遺伝子 (CSN1S1) の多型による違いが、牛乳アレルギーと交差性に与える影響を調査。異なる CSN1S1 遺伝子型を有する 25 頭のヤギの個々の乳サンプル、ウシ α -カゼインに特異的なモノクローナル抗体及び牛乳にアレルギーを有する小児由来の血清を用いてイムノブロットを実施。遺伝子多型の違いによってアレルギー性に差が見られた。		原著	-	文献検索
39	56	イ	乳イ	IgE Cross-reactivity with Caseins from Different Species in Humans Allergic to Cow's Milk. Food and Agricultural Immunology	Bernard H et al	Food Agr Immunol. 1999; 11:101-111.	1999	ウシ、ヒツジ、ヤギ、ウサギ及びラットなどの種々の反芻動物種及び非反芻動物種由来の乳中のカゼイン画分に対する IgE 反応の特異性について、牛乳タンパク質アレルギーである 58 例の血清を分析。交差性が広範囲で起こることが示唆された。	一部の患者は、他の種のミルクを代替することが不可能。	原著	-	EFSA 意見書
40	69	イ	乳イ	Specificity of IgE antibodies from patients allergic to goat's milk and tolerant to cow's milk determined with plasmin-derived peptides of bovine and caprine β -caseins	Bernard H et al	Mol Nutr. 2012 ;56 :1532-1540	2012	10 人の牛乳アレルギー患者及び 12 人の ヤギ乳アレルギー/ 牛乳アレルギー耐性患者由来の血清を用いて、ヤギ乳中の β カゼインのペプチドとの IgE 結合能を分析。分析の結果、ヤギ乳アレルギー/ 牛乳アレルギー耐性患者ではヤギ乳 β カゼインのペプチドの 3 つのアミノ酸の違いがその耐性に影響していることが示唆された。		原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
41	58	イ	乳イ 乳オ 乳キ	In vitro allergenicity of cows' milk substitutes	Dean TP et al	Clin Exp Allergy.1993; 23: 205-210	1993	牛乳タンパク質不耐性 (CMPI) を持つ患者の血清を用いて、加水分解乳や、ヤギやヒツジの乳、豆乳などのいくつかの代替物でアレルギー活性を調査。カゼイン加水分解物は低い阻害を示し、ホエイ加水分解物はより高い阻害を生じた。	アトピー性疾患患者を対象。	原著	-	EFSA 意見書
42	753	イ	乳イ	Evaluation of the residual antigenicity and allergenicity of cow's milk substitutes by in vitro tests.	Docena G et al	Allergy. 2002; 57:83-91.	2002	牛乳の代替品 (ヒツジ、牝馬、ヤギ、ヒトの乳や加水分解物) の抽出物についてイムノプロットを実施。哺乳類乳中で交差反応成分を検出。		原著	-	
43	43	イ	乳イ	Camel milk as an alternate milk and pure nutritional feeding mode in allergic children	Ehlayel M et al	Allergy Asthma Proc. 2011 ;32: 255-8.	2011	ラクダ乳が牛乳を代替することができるか評価。牛乳アレルギーの子供で、牛乳、ラクダ乳での交差反応を皮膚プリックテストなどで検証。ラクダ乳と牛乳は交差反応が少ないことが示唆された。		原著	-	文献検索
44	44	イ	乳イ	Camel milk is a safer choice than goat milk for feeding children with cow milk allergy	Ehlayel M et al	ISRN Allergy. 2011; Article ID 391641	2011	ラクダ乳を対象とし、他の哺乳類の乳との交差反応性、及びラクダ乳が牛乳アレルギーを持つ子供にとって代替となるか調査。皮膚プリックテストの結果、ラクダ乳と牛乳との間の交差反応性は低かった。		原著	-	文献検索
45	24	イ	乳ア 乳イ	Goat's milk allergy without cow's milk allergy: Suppression of non-cross-reactive epitopes on caprine β -casein	Hazebrouck S et al	Clin Exp Allergy. 2014; 44: 602-10.	2014	牛乳アレルギーに対するヤギ乳アレルギーの非交差反応性を調査。ヤギ乳アレルギーに罹患し牛乳に耐性を持つ患者の IgE 抗体は、ヤギ β カゼイン (β cap) のみを認識する。本研究では、 β cap の非交差反応性 IgE 結合エピトープを調査。		原著	-	文献検索

分類 (代表項目・詳細項目) の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルギー性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
46	49	イ	乳イ	Cross-sensitization between milk proteins: Reactivity to a "Kosher" epitope?	Katz Y et al	Isr Med Assoc J. 2008; 10:85-8.	2008	IgE 依存性牛乳アレルギー患者が、鹿、アイベックス、バップアロー、ブタ、及びラクダのような他種動物の乳に交差感作されるかどうかを調査。牛乳アレルギー患者 24 名に他の動物種の乳について皮膚プリックテストを実施。牛乳アレルギー患者 24 名の全てが、アイベックス、ヤギ、バップアローの乳のプリックテストで陽性。		原著	-	文献検索
47	57	イ	乳ア 乳イ	Immunoglobulin E epitope mapping by microarray immunoassay reveals differences in immune response to genetic variants of caseins from different ruminant species	Lisson M et al	J Dairy Sci. 2014; 97: 1939-54.	2014	ウシカゼイン変異体の IgE エピトープに対する、遺伝的多型の影響を研究。さらに、ヤギと水牛のエピトープとの間での IgE 結合の違いについても分析。		原著	-	文献検索
48	48	イ	乳イ	Cross-reactivity between milk proteins from different animal species.	Restani P et al	Clin Exp Allergy 1999; 29: 997-1004.	1999	種々の動物種の乳タンパク質間交差反応性を評価。牛乳アレルギー児の IgE は、欧州各国で飼育されている哺乳類（ヒツジ、ヤギ、バップアロー）の乳タンパク質のほとんどの部分を認識する能力を示すが、本研究で使用了血清には、ラクダの乳タンパク質に反応する IgE は含まれていなかった。		原著	-	EFSA 意見書
49	42	イ	乳イ	Allergy to goat's and sheep's milk in a population of cow's milk-allergic children treated with oral immunotherapy	Rodríguez del Río P et al	Pediatr Allergy Immunol. 2012; 23: 128-32	2012	牛乳アレルギーを持つ患者で経口免疫療法による耐性を獲得した者 58 人について、ヤギとヒツジ乳へのアレルギー性を評価。対象者にプリックテストを行い、IgE 判定 ELISA によりアレルギー性を評価。58 人中 15 人で ヤギ又はヒツジ乳にアレルギー性があることが分かった。	経口免疫療法コホート (牛乳)	原著	コホート	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要 な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
50	50	イ	乳イ	Detection and identification of a soy protein component that cross-reacts with caseins from cow's milk.	Rozenfeld P et al	Clin Exp Immunol,2002; 130: 49-58.	2002	乳アレルギーと大豆タンパク質との交差性を調査。乳アレルギーの子供 10 名の血清を用いて、大豆タンパク質とイムノプロットを実施。その結果、A5・B3 グリシニン分子を含有する大豆ベースの配合物が牛乳アレルギーに関与する可能性があることが示唆された。		原著	-	EFSA 意見書
51	37	イ	乳イ 乳キ	Allergenicity of alphacaseins from cow, sheep, and goat	Spuergerin P et al	Allergy. 1997; 52: 293-298.	1997	ウシ、ヒツジ、ヤギ乳由来の α -カゼインの共有するアレルギー性を比較。即時型牛乳アレルギーを有する子供 17 人、アトピーを有する子供 59 人、食物アレルギーを伴わない子供、及びアトピー疾患のない健康な子供 27 人の血清を用いて、ウシ、ヒツジ、ヤギの乳由来の α -カゼインと IgE 及び IgG 結合性を比較。牛乳アレルギー群では 3 種すべての α -カゼインと抗体の結合が有意に高かった。全ての群で ヒツジと ヤギに比較して牛の α -カゼインと抗体との結合が高かったが、特にアトピー疾患と健康群で有意に高かった。	ヒツジ及びヤギミルクもアレルギーの可能性を秘めており、牛乳の代替には適していない。	原著	-	EFSA 意見書
52	36	イ	乳イ	Severe anaphylaxis to sheep's milk cheese in a child desensitized to cow's milk through specific oral tolerance induction.	Tripodi S et al	Eur Ann Allergy Clin Immunol. 2013 ;45: 56-60.	2013	牛乳アレルギーであったが、経口免疫療法により牛乳に脱感作された 5 歳女児が、リコッタチーズ（ヒツジ乳のチーズ）を食した際にアナフィラキシー症状を発症。SDS-PAGE 及びイムノプロットにより、ヒツジの乳特異的アレルゲン（アルファカゼインの誘導体、54 kDa）を同定。		原著	症例報告	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
53	66	イ	乳イ	Sensitization to serum albumins in children allergic to cow's milk and epithelia	Vicente-Serrano J et al	Pediatr Allergy Immunol. 2007; 18: 503-507	2007	牛アレルギー患者の、肉（牛、子ヒツジ、鹿、豚）、上皮（猫、犬、牛）との交差性を調査。牛乳アレルギー患者の血清、対照として非アレルギー性の脾臓由来の血清、動物由来のアレルギー患者の血清を用いてイムノプロットを実施。牛乳アレルギーと肉、皮の間に交差性があることが示唆された。	血清アルブミンや肉、皮膚などとの交差性	原著	-	文献検索
54	40	イ	乳イ	Allergy to goat and sheep cheese with tolerance to cow's milk and its derivatives	Viñas M et al	Allergol Immunopathol (Madr). 2014; 42: 186-90.	2014	チーズ摂取後にアレルギー反応を起こした患者（大人 2 人、子供 3 人）について、牛乳分画で皮膚試験を、ヤギ、ヒツジ及びウシの乳から製造したチーズを用いてブリッカーブリックテストを実施し特異的 IgE を測定、SDS-PAGE によりアレルゲンを同定して、イムノプロットにより交差性を調査。3 種類のチーズの交差反応性が示唆された。		原著	症例報告	文献検索
55	283	イ	乳イ	Clinical reactivity to beef in children allergic to cow's milk.	Werfel SJ et al	J Allergy Clin Immunol, 1997;99: 293-300	1997	アトピー性皮膚炎であり食物アレルギーの可能性のある子供 335 名に対して、牛肉への DBPCFC を実施し、牛乳アレルギーと牛肉との交差性を分析。このうち 11 名が牛肉に反応しうち 8 名は牛乳アレルギーであった。加熱の少ない肉の方が、反応性が高い。	http://www.jacionline.org/article/S0091-6749(97)70045-9/abstract	原著	DBPCFC	EFSA 意見書

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
56	39	イ	乳イ	Allergy to cheese produced from sheep's and goat's milk but not to cheese produced from cow's milk.	Wuthrich B et al	J Allergy Clin Immunol. 1995; 96: 270-273.	1995	ヒツジ、ヤギ乳から製造されたチーズによるアレルギーについて調査。ヒツジ、ヤギ乳から製造されたチーズによるアレルギーを発症した 10 名の患者の血清を用いて、ウシ・ヒツジ・ヤギのアレルゲン（カゼイン、ラクトグロブリン、ラクトアルブミン）との交差性を比較。患者によって交差性には差が見られた。		原著	-	EFSA 意見書
57	203	ウ	卵ウ 乳ウ	Food Allergy and Anaphylaxis	Keet CA et al	Immunol Allergy Clin North Am. 2007;27: 193-212	2007	食物由来で発症するアナフィラキシーに関する総論。		レビュー	-	文献検索
58	242	ウ	卵ウ 乳ウ	Advances in allergic skin disease, anaphylaxis, and hypersensitivity reactions to foods, drugs, and insects in 2008	Sicherer SH et al	J Allergy Clin Immunol. 2009; 123: 319-27	2009	アナフィラキシー、食物、薬物及び昆虫などに対する過敏性反応、及びアレルギー性皮膚疾患について 2008 年に学術雑誌で報告されたいくつかの研究に焦点を当てたレビュー。		レビュー	-	文献検索
59	160	ウ	卵ウ 乳ウ	Food allergy epidemic - Is it only a western phenomenon?	van der Poel L et al	Curr Allergy Clin Immunol. 2009;22: 121	2009	途上国における食物アレルギーの有病率及び有病率を評価するために、小児期の年齢層に重点を置いて世界的な発生率に関する文献をレビュー。地域別のデータあり。		レビュー	-	文献検索
60	247	ウ	卵ウ 乳ウ	Frequency, severity and causes of unexpected allergic reactions to food: a systematic literature review	Versluis A et al	Clin Exp Allergy. 2015 ; 45: 347-67.	2015	12 歳以上の食物アレルギー患者における予期せぬアレルギー反応の頻度、重症度及び原因を明らかにするために関連文献をレビュー。		レビュー	-	文献検索
61	221	ウ	卵ウ	Egg allergy: are all childhood food allergies the same?	Allen CW et al	J Paediatr Child Health. 2007; 43: 214-218.	2007	卵アレルギーとその他一般的な食物アレルギーの類似点と相違点に関する報告。		レビュー	-	EFSA 意見書

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
62	238	ウ	卵ウ 卵キ	The natural history of IgE-mediated food allergy: can skin prick tests and serum-specific IgE predict the resolution of food allergy?	Peters RL et al	Int J Environ Res Public Health, 2013 ;10:5039-5061.	2013	ピーナッツ、卵、牛乳アレルギーの診断を受けた児童のアレルギー耐性の発達における皮膚ブリックテストと血清特異的 IgE レベルの測定に関するレビュー。		レビュー	-	EFSA 意見書
63	704	ウ	卵ウ	Advances in allergic skin disease, anaphylaxis, and hypersensitivity reactions to foods, drugs, and insects	Sicherer SH et al	J Allergy Clin Immunol. 2007;119:1462-9.	2007	アナフィラキシー、食物、薬物及び昆虫などに対する過敏性反応、及びアレルギー性皮膚疾患について 2006 年に学術雑誌で報告されたいくつかの研究に焦点を当てたレビュー。皮膚ブリックテストの臨床的な有用性について報告しており、皮膚ブリックテストによる有病率が報告されている。		レビュー	-	文献検索
64	208	ウ	乳ウ	Food Allergies	Grief SN et al	Prim Care. 2016; 43:375-391	2016	食物アレルギーの治療に対する新たな戦略に関する報告。		レビュー	-	文献検索
65	73	ウ	乳イ 乳ウ 乳カ	Cow's milk allergy: Where have we come from and where are we going?	Host A et al	Endocr Metab Immune Disord Drug Targets. 2014;14:2-8.	2014	牛乳アレルギーに関する有病率、症状、交差性、治療に関するレビュー。		レビュー	-	文献検索
66	474	ウ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	The prevalence of food allergy: a meta-analysis.	Rona RJ et al	J Allergy Clin Immunol, 2007;120: 638-646.	2007	報告された食物アレルギーの有病率についてメタ分析を行い評価。51 件の論文から評価し、自己申告から得られた有病率は、牛乳では 1.2%～17%、卵では 0.2%～7%。有病率の推定は研究デザインや方法論の違い、母集団の違いにより著しく異なることが示唆された。	メタアナリシス	メタアナリシス	-	EFSA 意見書
67	161	ウ	卵ウ 乳ウ	Food Allergy Facts and Statistics for the U.S.	Food Allergy Research & Education	米国	2011	米国における食物アレルギー疾患とアナフィラキシーに関する統計データ。	国民を対象とした大規模調査の結果を用いている	公的機関資料	-	

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
68	613	ウ	卵ウ 乳ウ	食物アレルギーに関連する食 品表示に関する調査研究事業 報告書 即時型食物アレルギーによる 健康被害に関する全国実態調 査	海老澤 元宏 他	消費者庁 ア レルギー表示 に関する調査 研究事業（平 成 27 年度）	2015	即時型食物アレルギーの変遷と現 状を明らかにし、“食品表示法に 基づくアレルゲンを含む食品に関 する表示”の特定原材料等の妥当 性や改正の必要性を検討、また、 同法の遵守の状況を推測。	消費者庁 HP	公的機関 資料	消費者庁 研究	消費者庁 HP
69	614	ウ	卵ウ 乳ウ	食物アレルギーに関連する食 品表示に関する調査研究事業 報告書 アレルギー表示制度及びアレ ルゲン情報の提供に関する実 態調査	海老澤 元宏 他	消費者庁 ア レルギー表示 に関する調査 研究事業（平 成 28 年度）	2015	容器包装された加工食品摂取及び 飲食店での食物アレルギー患者の 誤食状況とその原因を調査。	消費者庁 HP	公的機関 資料	消費者庁 研究	消費者庁 HP
70	514	ウ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Epidemiological survey of pediatric food allergy in Mashhad in Northeast Iran	Ahanchian H et al	Electron Ph ysician. 201 6; 8: 1727-1 732	2016	小児患者を対象に、食物アレルギー の原因となる食品と有病率の変 化を調査。 3 ヶ月から 18 歳までの年齢の患 者 371 人（男性 53.9%、女性 46. 1%）を横断調査。		原著	-	文献検索
71	145	ウ	卵ウ 乳ウ	Changes in prevalence and characteristics of IgE- mediated food allergies in children referred to a tertiary care center in 2003 and 2008	Amin AJ et al	Allergy Asth ma Proc. 20 12 ;33: 95-1 01	2012	2003 年と 2008 年に大都市で医師 に診断された小児食物アレルギー の有病率及び臨床症状の傾向を把 握するために実施された研究。対 象者は 2003 年が 1,852 名、2008 年が 2,364 名。電子カルテの情報 をもとに、食物の種類ごと（卵・ 乳含む）のアレルギーの患者数、 重症度などを分析。人種別の有病 率も見ている。	電子カルテシ テムを用いて調 査	原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
72	184	ウ	卵ウ 乳ウ	Rate, triggers, severity and management of anaphylaxis in adults treated in a Canadian emergency department	Asai Y et al	Int Arch Allergy Immunol. 2014; 164: 246-52.	2014	アナフィラキシーの誘発を評価し、重篤なアレルギー反応及びエピネフリン使用の予測因子を分析。カナダのモントリオールの成人の3次ケア救急部(ED)を受診した37,730例のうち、0.26%(95%CI 0.21-0.32)がアナフィラキシーの定義を満たしており、症例のほぼ60%は食物に誘発された疑いがあった。	アナフィラキシー又はアレルギー反応に関連するICD-10コードを使用し、潜在的なアナフィラキシー症例を同定した。	原著	-	文献検索
73	126	ウ	卵ウ 乳ウ	Causes of Food-Induced Anaphylaxis in Italian Adults: A Multi-Centre Study	Asero R et al	Int Arch Allergy Immunol. 2009; 150: 271-7.	2009	アナフィラキシーを引き起こす主な食物/食物アレルギーを把握するために、2007年1月1日から12月31日まで、イタリア全土に散在する19のアレルギーセンターで、食物アレルギーの診断を受けた成人患者1,110人を対象にアナフィラキシーの頻度及び多くのアレルギー誘発食品の相対的重要度を評価。		原著	-	文献検索
74	233	ウ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Risk factors for severe pediatric food anaphylaxis in Italy	Calvani M et al	Pediatr Allergy Immunol 2011; 22: 813-819	2011	イタリアでアレルギークリニックを受診しているアナフィラキシー患者163名を対象に、皮膚プリックテストを実施、アンケートで過去の病歴や症状についても把握し、アナフィラキシーの重篤度を与える要因を分析。喘息などが慢性/再発性胃腸症状が影響することが示唆された。		原著	-	文献検索
75	191	ウ	卵ウ 乳ウ	The prevalence of food allergy in infants in Chongqing, China.	Chen J et al	Pediatr Allergy Immunol, 2011; 22: 356-360.	2011	中国の重慶の子供477名を対象に皮膚プリックテストを実施し、陽性の者には食物負荷試験を実施。		原著	-	EFSA 意見書

分類(代表項目・詳細項目)の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
76	531	ウ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Pediatric emergency department visits and hospitalizations due to food-induced anaphylaxis in Illinois	Dyer AA et al	Ann Allergy Asthma Immunol. 2015; 115: 56-62.	2015	イリノイ州の子供の食物誘発性アナフィラキシーに起因する救急搬送及び入院の傾向を分析。分析には、2008-2012 年のイリノイ州病院における食物誘発性アナフィラキシーの入院患者（0-19 歳）のデータを使用。 人種/民族性及び社会経済的地位に関係なく、食物誘発性アナフィラキシーによる緊急搬送及び入院が 5 年間にわたって増加。		原著	-	文献検索
77	109	ウ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Food allergy and food sensitization in early childhood: results from the DARC cohort.	Eller E et al	Allergy. 2009; 64: 1023-1029.	2009	デンマークアレルギー研究センターでのコホート研究。562 人の子供を対象に、皮膚プリックテストを実施し、特異的 IgE の測定、経口免疫療法を実施。20 人が牛乳、卵、ピーナッツに食物・高度感受性（FHS）を示した。FHS は 18 ヶ月でピーク。症状別の割合も報告。		原著	コホート	EFSA 意見書
78	586	ウ	卵ウ 卵カ 卵キ 卵カ 乳ウ 乳カ 乳キ	The EuroPrevall outpatient clinic study on food allergy: Background and methodology	Fernández-Rivas M et al	Allergy. 2015; 70: 576-84.	2015	食物アレルギーの効果的な管理戦略を策定することを目的とし、欧州全土の 12 の外来診療所で横断的調査として、病歴の収集を含む標準されたアレルギー検査を受診。食品及びアレルゲンに対する感作の評価、食品に対する DBPCFC による臨床反応性及び食物閾値を確認。		原著	DBPCFC	文献検索
79	136	ウ	卵ウ 乳ウ	Allergic reactions to foods in preschool-aged children in a prospective observational food allergy study	Fleischer DM et al	Pediatrics. 2012 ;130: 25-32.	2012	卵アレルギーの可能性があると報告された 3-15 ヶ月の乳児 512 人を対象に観察研究を実施。重篤な反応の割合を分析。	コホート研究	原著	コホート	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
80	138	ウ	卵ウ 乳ウ	Anaphylaxis in children and adolescents: The European Anaphylaxis Registry	Grabenhenrich LB et al	J Allergy Clin Immunol. 2016; 137: 1128-37.	2016	2007 年～2015 年の間にアナフィラキシーが確認された 18 未満の 1,970 名を対象に分析。誘発食物や症状などを整理。	10 の国を対象に、医療記録からデータを検索。	原著	-	文献検索
81	478	ウ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	The Prevalence, Severity, and Distribution of Childhood Food Allergy in the United States.	Gupta RS et al	Pediatrics. 2011; 128: 9-17	2011	米国における小児期の食物アレルギーの有病率及び重症度を推定。40,104 人の子供のデータを収集、食物アレルギーの有病率は 8.0% (95%信頼区間[CI] : 7.6-8.3) であった。		原著	-	EFSA 意見書
82	147	ウ	卵ウ 乳ウ	Comparison of food allergy prevalence among Chinese infants in Chongqing, 2009 versus 1999.	Hu Y et al	Pediatr Int. 2013; 52: 820-824.	2010	中国重慶の乳児におけるアレルギー有病率を時系列に (1999 年と 2009 年) で比較。アレルギー性は食物負荷試験によって確認。対象者は 401 名。アレルギーの有病率は 10 年で増加。	食物アレルギーの有病率及び特徴を時系列的に示した中国で最初の研究。	原著	-	EFSA 意見書
83	142	ウ	卵ウ 乳ウ	Biphasic reactions in children undergoing oral food challenges	Lee J et al	Allergy Asthma Proc. 2013; 34:220-226	2013	経口食物負荷試験を受けている食物アレルギーの小児において、二相性反応の割合を把握。	2007 年 7 月から 2011 年 3 月までの間に行われた経口食物負荷試験の結果を検討	原著	-	文献検索
84	174	ウ	卵ウ 乳ウ	IgE mediated food allergy in Korean children: Focused on plant food allergy	Lee SY et al	Asia Pac Allergy. 2013;33:15-22.	2013	韓国の子供を対象に、IgE 依存性食物アレルギーを 1995 年と 2000 年の韓国語バージョン ISAAC を用いて、全国規模の食物アレルギーの有病率を調査。	全国規模の調査	原著	-	文献検索
85	401	ウ	卵ウ 乳ウ	National prevalence and risk factors for food allergy and relationship to asthma: results from the National Health and Nutrition Examination Survey 2005-2006.	Liu AH et al	J Allergy Clin Immunol. 2010; 126: 798-806.	2010	米国国民健康栄養調査 (NHANES) の結果を用いて、食物アレルギーと関連する喘息患者の有病率及び危険因子を調査。		原著	-	Stephanie A. Leonard (2016)

分類 (代表項目・詳細項目) の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文 献 名	著 者 名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文 献 概 要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
86	143	ウ	卵ウ 乳ウ	BSACI guideline for the diagnosis and management of cow's milk allergy	Luyt D et al	Clin Exp Allergy. 2014; 44: 642-72.	2014	牛乳アレルギー患者の管理について助言を行うガイドライン。	疫学、自然史、臨床発表、診断、治療に関して報告	原著	-	文献検索
87	188	ウ	卵ウ 乳ウ	Safety of open food challenges in the office setting	Mankad VS et al	Ann Allergy Asthma Immunol. 2008; 100: 469-74.	2008	経口食物負荷試験の記録をレビューし経口食物負荷試験による症状などを分析。対象は 109 名の食物アレルギー患者。牛乳アレルギー患者は 39 名、卵アレルギー患者は 29 名。		原著	-	文献検索
88	197	ウ	卵ウ 乳ウ	Prevalence of self-reported food allergy in the National Health and Nutrition Examination Survey (NHANES) 2007-2010	McGowan EC et al	J Allergy Clin Immunol. 2013; 132:1216-1219	2013	米国民健康栄養調査 (NHANES) での食物アレルギーに関する自己申告から、食物アレルギーの有病率を推定。	国民を対象とした大規模調査の結果を用いている	原著	-	
89	178	ウ	卵ウ 乳ウ	Paediatric food allergy trends in a community- based specialist allergy practice, 1995-2006	Mullins RJ et al	Med J Aust. 2007;186:618-21.	2007	オーストラリアにおいて、1995 年から 2006 年までの 12 年間にわたり、0-5 歳までの子供用の専門的な食物アレルギーサービスの需要の変化を調査。対象者数は 1,489 名。食物アレルギーの有病率や重症度を把握。	0-5 歳の小児 1489 人の記録を回帰分析	原著	-	文献検索
90	190	ウ	卵ウ 乳ウ	Severe allergic reactions to food in Norway: A ten year survey of cases reported to the Food Allergy Register	Namork E et al	Int J Environ Res Public Health. 2011; 8: 3144-55.	2011	10 年間の間に報告された症例から、ノルウェーにおける重度のアレルギー事例の情報 877 例を収集し、データを分析。		原著	-	文献検索
91	205	ウ	卵ウ 卵力 乳ウ 乳力	Prevalence of immunoglobulin E- mediated food allergy in 6- 9-year-old urban schoolchildren in the eastern Black Sea region of Turkey.	Orhan F et al	Clin Exp Allergy. 2009; 39:1027-1035.	2009	トルコの都市部に住む 6-9 歳の小学生 2,739 名を対象に IgE 依存性食物アレルギーの有病率と特徴を調査。アンケートのほかに皮膚プリックテストと DBPCFC を実施。	無作為抽出された児童 3,500 人を対象とした横断調査	原著	DBPCFC	EFSA 意見書

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
92	249	ウ	卵ウ 乳ウ	Reported symptoms of food hypersensitivity and sensitization to common foods in 4-year-old children.	Ostblom E et al	Acta Paediatr. 2008; 97: 85-90.	2008	出生コホートの4歳の幼児 3,694 名を対象に、自己申告と IgE 検査により食物過敏症を特徴付けた。血液を採取、卵、牛乳、魚、小麦、ピーナッツに対する IgE 抗体を調査。4 歳児でのアレルギーの症状の調査。症状別の割合も把握。	コホート研究	原著	コホート	EFSA 意見書
93	182	ウ	卵ウ 乳ウ	Prevalence of challenge-proven IgE-mediated food allergy using population-based sampling and predetermined challenge criteria in infants.	Osborne NJ et al	J Allergy Clin Immunol. 2011;127: 668-76	2011	オーストラリアの 2,848 人の乳児を対象に IgE 依存性食物アレルギーの有病率を調査。食物負荷試験でアレルギー性を判断。	予防接種時に研究への参加を募集、皮膚穿刺試験を実施	原著	-	EFSA 意見書
94	490	ウ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Food hypersensitivity in the population of school children in Opole	Pawlińska-Chmara R et al	Pomeranian J Life Sci 2015, 61: 120-3	2015	ポーランドのオポーレ地方の子供 450 名を対象に、アンケートに基づく自己申告による食物過敏症の有病率を把握。		原著	-	文献検索
95	245	ウ	卵ウ 乳ウ	Advances in the diagnosis and management of allergic disease: Applications to South African practice	Pentz A et al	SAMJ. 2014; 104: 794.	2014	南アフリカでの診断と管理に関するガイドライン。		原著	-	文献検索
96	744	ウ	卵ウ 乳ウ	The prevalence of food allergy and other allergic diseases in early childhood in a population-based study: HealthNuts age 4-year follow-up	Peters RL et al	J Allergy Clin Immunol 2017;140: 145-53	2017	オーストラリアの 1 歳児の子コホートを対象に、4 歳まで追跡し、食物アレルギー、喘息、湿疹及びアレルギー性鼻炎の有病率を調査。食物アレルギーは皮膚プリックテスト及び経口食物試験で診断。(コホートは 5,276 名)	コホート研究	原著	コホート	委員推薦

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
97	211	ウ	卵ウ 乳ウ	Health-related quality of life in children with objectively diagnosed staple food allergy assessed with a disease-specific questionnaire	Protudjer JL et al	Acta Paediatr. 2015; 104:1047-1054.	2015	スウェーデンの 0-12 歳の子供を対象に、牛乳、鶏卵及び/又は小麦アレルギーを有する子供の健康に関する QOL と食物のばく露状況をアンケートにより調査。対象者数は 94 名。アレルギーの重症度も把握。	アンケートを用いて調査	原著	-	文献検索
98	229	ウ	卵ウ 乳ウ	Occurrence of parent-reported food hypersensitivities and food allergies among children aged 1-4 yr.	Pyrhonen K et al	Pediatr Allergy Immunol. 2008;20: 328-338.	2009	フィンランドの 1-4 歳の子供を持つ親を対象として食物アレルギー及び食物過敏症の発生状況に関するアンケート調査を実施、4,779 件のアンケートのうち 3,308 件が返送された。医師の診断による食物アレルギーの生涯有病率は 9%。	アンケート調査を実施。	原著	-	EFSA 意見書
99	198	ウ	卵ウ 卵力 乳ウ 乳力	Outcome of oral food challenges in children in relation to symptom-eliciting allergen dose and allergen-specific IgE	Rolinck-Werninghaus C et al	Allergy. 2012; 67:951-957.	2012	869 名の食物アレルギーを持つ子供を対象に牛乳、鶏卵、小麦、大豆の経口食物負荷試験を実施し、重症度を I から V までにレベル分け。	牛乳又は卵にアレルギーのある子供の 10%がアレルギー症状を誘発した。	原著	-	EFSA 意見書
100	166	ウ	卵ウ 乳ウ	Incidence of Food anaphylaxis in Piemonte Region (ITALY): Data from the regional registry of severe allergic reactions	Rolla G et al	Intern Emerg Med. 2013; 8: 615-20	2013	食物過敏症の発生率を Piemonte Region (Italy) 重症アレルギー反応基準センターのデータベースに基づいて推定。アナフィラキシーの発現数と発症率の検討。	2010 年に報告された重度の食物アレルギー反応すべての症例を研究	原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
101	119	ウ	卵ウ 乳ウ	Overall prevalence of self-reported food allergy in Canada.	Soller L et al	J Allergy Clin Immunol. 2012; 130: 986-988.	2012	カナダにおける食物アレルギーの状況を把握するため電話によるインタビュー調査を実施。3,666 世帯、9,667 名が回答。自己申告による食物アレルギーの有病率を推計。	無作為に選択された家庭を対象に電話調査を実施 Ben-Shoshan et al. ” A population-based study on peanut, tree nut, fish, shellfish, and sesame allergy prevalence in Canada.” J Allergy Clin Immunol. 2010; 125: 1327-1335 の補遺	原著	その他	EFSA 意見書
102	130	ウ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	The prevalence and characteristics of food allergy in urban minority children	Taylor-Black S et al	Ann Allergy Asthma Immunol. 2012; 109: 431-7.	2012	ニューヨークのイーストハーレムの病院や診療所を訪れた 9,184 名の子供を対象として食物アレルギーの有病率を調査。原因食物ごと(卵・乳含む)、人種ごとに分析。	2005-2006 年の国民健康栄養調査調査 (NHANES) の結果を用いている	原著	-	文献検索
103	244	ウ	卵ウ 乳ウ	Prevalence and cumulative incidence of food hypersensitivity in the first 3 years of life.	Venter C et al	Allergy. 2008; 63:354-359.	2008	英国の出生コホート (1,997 名) を対象に、前向きに追跡調査を実施し、食物過敏症の発症率、有病率及び傾向を調査。対象者には皮膚プリックテストが実施され、DBPCFC も実施された。	コホート研究	原著	DBPCFC	EFSA 意見書
104	183	ウ	卵ウ 乳ウ	Prevalence of self-reported food allergy in U.S. adults: 2001, 2006, and 2010	Verrill L et al	Allergy Asthma Proc. 2015; 36: 458-467.	2015	自己申告による食物アレルギーの有病率を報告し、10 年間で 3 つの時点での差異を比較。対象者数は各年 4,500 名程度。人種別、症状別のデータもあるが、卵・乳に特定したデータはない。	横断調査	原著	-	文献検索

分類 (代表項目・詳細項目) の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
105	146	ウ	卵ウ 乳ウ	Characteristics of anaphylaxis in children referred to a tertiary care center	Vezir E et al	Allergy Asthma Proc. 2013; 34:239-246.	2013	2010－2012 年の間にアナフィラキシーを発症して入院した患者 96 名を対象に、原因食物（卵・乳含む）やアナフィラキシー時の症状を把握。前向き研究。		原著	-	文献検索
106	665	ウ	卵ウ 乳ウ	当院における 5 年間のアナフィラキシー症例の検討	阿部 容子 他	徳島赤十字病院医学雑誌 2015; 20: 25-29	2015	2009 年 4 月から 2014 年 3 月までに当院を受診した 15 歳以下のアナフィラキシー症例 76 症例を対象に、重症度を整理。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
107	675	ウ	卵ウ 卵カ 乳ウ 乳カ	当科におけるオープン法による牛乳・鶏卵・小麦負荷試験	伊藤 浩明 他	アレルギー 2008; 57: 1043-1052.	2008	牛乳、卵、小麦負荷試験延べ 438 件について、陽性の場合の症状を整理。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
108	659	ウ	卵ウ 乳ウ	10 年間に救急受診した全年齢層のアナフィラキシー患者の原因アレルゲンに関する検討	今井 祥恵 他	アレルギー・免疫 2016; 23: 536-1541.	2016	過去 10 年間に当院救急外来を受診した全年齢層のアナフィラキシー症例の原因アレルゲンについて検討、対象はのべ 387 例。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
109	685	ウ	卵ウ 乳ウ	小児アレルギー患者における外来経口食物負荷試験の検討	岡山 良樹 他	津山中央病院医学雑誌 2015 ;29 :9-14	2015	外来で経口食物負荷試験を行った 15 例 25 件について、陽性の場合の症状を整理。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
110	678	ウ	卵ウ 乳ウ	六甲アイランド病院小児科における食物負荷試験の検討	梶山 瑞隆 他	甲南病院医学雑誌 2005 ;22 :21-26	2005	37 件の食物負荷試験の結果について、陽性の場合の症状を整理。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
111	671	ウ	卵ウ 卵カ 乳ウ 乳カ	外来でおこなう食物負荷試験の有用性と問題点について	数間 紀夫 他	埼玉県医学会雑誌 2009; 44 :299-301.	2009	外来にて負荷試験を行った 147 例を対象に、陽性の場合の症状を整理。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
112	680	ウ	卵ウ 乳ウ	食物アレルギー患者がアナフィラキシーを誘発した際の食品形態、販売形態、対処方法及び食品原材料名等の調査結果について	神奈川 芳行 他	日本小児アレルギー学会誌 2005 ;19 :78-86.	2005	1,510 家族に対して、郵送による「食物アレルギー発症回避のためのアンケート調査」を実施。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
113	670	ウ	卵ウ乳ウ	開業外来における経口食物負荷試験 2010 年実施症例のまとめ	川田 康介 他	日本小児アレルギー学会誌 2011;25:785-793.	2011	平成 22 年 1 月から 10 月までに負荷試験を実施した 333 件について、陽性の場合の症状を整理。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
114	664	ウ	卵ウ乳ウ	アナフィラキシーを呈した小児即時型食物アレルギーの年齢と原因食物に関する検討	國吉 保孝 他	日本プライマリ・ケア連合学会誌 2015; 38: 116-120	2015	2008 年 1 月～2013 年 12 月までの 6 年間に、救急外来を受診した 15 歳以下のアナフィラキシーを呈した即時型食物アレルギー 49 例について原因食物を整理。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
115	666	ウ	卵ウ乳ウ	当院における過去 5 年間の小児アナフィラキシー入院例の検討	齋藤 圭一 他	山梨医学 2015; 42 :152-159	2015	2009 年 1 月～2013 年 12 月にアナフィラキシーが原因で入院した小児 40 人、のべ 43 例を対象とし、原因食物と重症度を整理。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
116	682	ウ	卵ウ乳ウ	アナフィラキシー型食物アレルギーの予後	柴田 瑠美子 他	日本小児アレルギー学会誌 2002 ;16 :149-153	2002	アナフィラキシー型食物アレルギー 101 例を対象に、早期の除去食解除が可能であった群と、解除の困難な群に分けてアナフィラキシー型食物アレルギーの予後を考察。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
117	643	ウ	卵ウ卵キ乳ウ乳キ	抗原感作及びアレルギー疾患の自然経過—4 歳までの出生コホート研究	渋谷 紀子 他	日本小児アレルギー学会誌 2015; 29: 284-293	2015	出生コホートを追跡し、アレルギー疾患の経過を検討	日本人を対象	原著	コホート	医中誌 Web
118	672	ウ	卵ウ卵カ乳ウ乳カ	当院における食物負荷試験	鈴木 喬悟 他	陶生医報 2009 ;25:7-12	2009	食物負荷試験 48 例について、陽性の場合の症状を整理。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
119	669	ウ	卵ウ乳ウ	小児病院におけるアナフィラキシーと二相性反応	長野 智那 他	アレルギー 2013; 62: 163-170.	2013	2002 年から 2010 年の 8 年間にアナフィラキシー症状を呈して当センターを受診した 345 例を対象に原因食物や症状を整理。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
120	694	ウ	卵ウ乳ウ	アレルギー専門医による経口食物負荷試験の実施状況	二村 昌樹 他	日本小児アレルギー学会誌 2009; 23: 279-286.	2009	全国のアレルギー専門医(小児科)を対象として郵送によるアンケートを行い、我が国における経口食物負荷試験の実施状況を把握。	日本人を対象	原著	-	医中誌Web
121	656	ウ	卵ウ乳ウ	当院の経口食物負荷試験と小児食物アレルギー診療の実態について	八代 敦子 他	松仁会医学誌 2017; 55 :71-79	2017	経口食物負荷試験を行った 174 件を対象。原因食物は卵、牛乳、小麦、ピーナッツなど。経口食物負荷試験に対する症状別の件数を整理。	日本人を対象	原著	-	医中誌Web
122	662	ウ	卵ウ乳ウ	休日・夜間診療所における即時型食物アレルギーについての前向き調査	柳田 紀之 他	日本小児アレルギー学会誌 2015; 29: 655-664.	2015	休日・夜間における急患診療所を受診した 49 例と二次病院を受診した 29 例について、原因食物や症状の程度を比較。	日本人を対象	原著	-	医中誌Web
123	660	ウ	卵ウ乳ウ	相模原市保育所における食物アレルギー疾患生活管理指導表を用いた食物アレルギーの実態調査	柳田 紀之 他	アレルギー2 016; 65: 785-793.	2016	相模原市の認可保育所の食物アレルギー疾患生活管理指導表利用者 426 名を対象に、原因食物や症状を調査。	日本人を対象	原著	-	医中誌Web
124	676	ウ	卵ウ乳ウ	食物によるアナフィラキシーショック症例の検討	吉田 晃 他	日本小児アレルギー学会誌 2008 ;22 :108-115	2008	食物アナフィラキシーショックで受診した 13 例について原因食物や発症までの時間を整理。	日本人を対象	原著	-	医中誌Web
125	657	ウ	卵ウ乳ウ	最近 2 年間に小児科で経験したアナフィラキシー	和田 英男 他	公立能登総合病院医療雑誌 2016 ;27 :12-16.	2016	2014 年 4 月～2016 年 3 月の 2 年間に小児科でアナフィラキシーと診断した 22 症例の症状や重症度分類を分析。	日本人を対象	原著	-	医中誌Web
126	219	ウ	卵ウ	Dietary advice, dietary adherence and the acquisition of tolerance in egg-allergic children: A 5-yr follow-up	Allen CW et al	Pediatr Allergy Immunol. 2009; 20: 213-8.	2009	卵アレルギーの子供の継続治療の状況を 5 年間追跡。アレルギークリニックを訪問した 261 名（うち 84 名は食物負荷試験で卵アレルギーと判断）にアンケートを配付。返答があったのは 167 名。アンケートでは食事アドバイスの実践状況やアレルギー症状などを調査。		原著	コホート	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
127	388	ウ	卵ウ	Validity of specific IgE antibodies in children with egg allergy.	Boyano Martinez T et al	Clin Exp Allergy, 2001;31: 1464-1469.	2001	卵アレルギーの疑いがある 2 歳未満の子供 81 人のコホート研究。卵白、卵黄について特異的 IgE 抗体を測定。		原著	コホート	EFSA 意見書
128	217	ウ	卵ウ	British Society for Allergy and Clinical Immunology guidelines for the management of egg allergy	Clark AT et al	Clin Exp Allergy, 2010; 40: 1116-1129	2010	英国における卵アレルギー患者のマネジメントに関するガイドライン。	症状の重症度別の対処を記載	原著	-	文献検索
129	389	ウ	卵ウ	A longitudinal study of resolution of allergy to well-cooked and uncooked egg.	Clark A et al	Clin Exp Allergy, 2011; 41: 706-12.	2011	非調理の卵を用いて食物負荷試験を実施した後、経口免疫療法を行った患者 181 名を対象に長期追跡調査を実施。症状別の割合を整理。		原著	-	Stephanie A. Leonard (2016)、Stephanie A. Leonard (2016) 2
130	527	ウ	卵ウ	A hospital-based survey on food allergy in the population of Kolkata, India	Dey D et al	Int Arch Allergy Immunol, 2014; 164: 218-21	2014	インドの食物アレルギー有病率を調査。問診と皮膚プリックテストを用いてアレルギーを診断。調査 5,161 人の患者のうち、4,160 人が 1 種類以上の食品に陽性反応を示した。バナナ (32%)、ナス (29%)、小麦 (22%)、卵 (23%) が主要なアレルゲンであった。		原著	-	文献検索
131	218	ウ	卵ウ 卵キ	Confirmed prevalence of food allergy and non-allergic food hypersensitivity in a Mediterranean population.	Gelincik A et al	Clin Exp Allergy, 2008;38: 1333-1341.	2008	トルコでの大規模な集団 (11,816 名) を対象とし、食物アレルギーに関するアンケートを実施。食物アレルギーの可能性のある回答者は DBPCFC を実施。アトピーとの関連も分析。		原著	DBPCFC	EFSA 意見書

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
132	382	ウ	卵ウ	Referrals to a regional allergy clinic - an eleven year audit	Jones RB et al	BMC Public Health. 2010; 10 : 790.	2010	地理的境界が明確な地域のアレルギークリニックへの紹介受診を11年間にわたってレビュー。アレルギーと診断された患者に対して、(i) 経時的及び背景情報的な違い、(ii) アレルギーの種類、(iii) 多重化、(iv) 地域分布を調査。1998年から2009年までの情報を抽出し、地理的な違いを示した。		原著	-	文献検索
133	749	ウ	卵ウ 卵キ	Environmental and demographic risk factors for egg allergy in a population-based study of infants.	Koplin JJ et al	Allergy. 2012; 67: 1415-1422.	2012	5,276人の乳児について皮膚プリックテストを実施、またアンケートにより卵摂取量やばく露条件についても調査。卵アレルギーの可能性のある者に対しては食物負荷試験を実施。環境因子（ペット、帝王切開、抗生物質の使用）との関係を分析。		原著	-	#592の元文献
134	236	ウ	卵ウ	Similar prevalence, different spectrum: IgE-mediated food allergy among Turkish adolescents.	Mustafayev R et al	Allergol Immunopathol (Madr). 2013; 41:387-396	2013	トルコの若年層を対象に、皮膚プリックテストの結果もしくはアレルギー症状があり、食物アレルギーの可能性あるかどうかについてアンケートを実施し、食物アレルギーの可能性ある者は電話インタビューの後、病院で負荷試験を実施。アンケート回答者は6,963名。そのうち1,162名がアレルギーの可能性があると判断され、813名に電話インタビューが行われた。食物負荷試験を受けたのは87名。		原著	-	EFSA 意見書

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
135	408	ウ	卵ウ 卵オ 卵カ	Skin prick test responses and allergen-specific IgE levels as predictors of peanut, egg, and sesame allergy in infants.	Peters RL et al	J Allergy Clin Immunol. 2013; 132: 874-80.	2013	皮膚プリックテストの膨疹サイズや食物負荷試験で食物アレルギーであることが確認された1歳の乳児の大集団ベースのコホートで、皮膚プリックテスト及びアレルギー特異的IgEによる閾値に関して陽性的中率95%の設定を検討。	オーストラリアの大規模調査。1歳児5000人以上対照の後ろ向き研究。	原著	コホート	Stephanie A. Leonard (2016) Stephanie A. Leonard (2016) 2
136	226	ウ	卵ウ	Further fatal allergic reactions to food in the United Kingdom, 1999-2006.	Pumphrey RS et al	J Allergy Clin Immunol. 2007;119: 1018-1019.	2007	英国における1999-2006年までの食物関連のアナフィラキシーでの死亡事例に関する調査。アナフィラキシーによる死亡が示唆される基準を設定しこの基準を満たす48名について、その要因を分析。		原著	その他	EFSA 意見書
137	216	ウ	卵ウ	Analysis of food-allergic and anaphylactic events in the National Electronic Injury Surveillance System	Ross MP et al	J Allergy Clin Immunol. 2008 ;121: 166-71.	2008	全米電子傷害監視システム (NEISS) のデータを分析し、食物アレルギーに起因する有害事象の規模及び重症度を評価。2ヶ月間で救急部を訪れた20,821名のうちアナフィラキシーによる訪問は2,333名、食物アレルギーによる入院520名であった。		原著	-	文献検索
138	663	ウ	卵ウ	鶏卵アレルギー患者の負荷試験誘発症状に基づく階層的クラスタ解析	伊藤 靖典 他	日本小児アレルギー学会誌 2015; 29: 270-277.	2015	鶏卵負荷試験の結果陽性反応が見られた65名について症状を9種類分類して階層別クラスタ解析を実施。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
139	638	ウ	卵ウ	出生コホートによる乳児期早期の湿疹と感作及びアレルギー疾患発症についての検討	渋谷 紀子 他	アレルギー. 2013; 62: 1598-1610	2013	317名の乳児を対象に、皮膚プリックテスト及びアンケート調査を実施し、感作及びアレルギー疾患発症のリスク因子を分析。生後早期の湿疹は食物アレルギー及び感作のリスク要因であることが示唆された。	日本人を対象	原著	コホート	医中誌 Web

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
140	117	ウ	乳ウ 乳キ	Natural course and risk factors for persistence of IgE-mediated cow's milk allergy.	Elizur A et al	J Pediatr. 2012; 161: 482-487.	2012	乳児を 48～60 ヶ月追跡調査を実施、アレルギーの自然経過を記録。出生直後の 13,019 人の集団から IgE 依存性牛乳アレルギーを有する 54 人の乳児を同定して追跡を開始。牛乳の摂取が 10ml 未満で反応、生後 1 ヶ月未満に反応、SPT 上で膨疹が大きい乳児は持続するリスクが高い。	コホート研究	原著	コホート	EFSA 意見書
141	202	ウ	乳ウ 乳オ 乳カ	World Allergy Organization (WAO) Diagnosis and Rationale for Action against Cow's Milk Allergy (DRACMA) Guidelines.	Fiocchi A et al	Pediatr Allergy Immunol. 2010; 21, 1-125.	2010	WHO の牛乳アレルギーガイドライン (DRACM) に対する根拠。		原著	-	EFSA 意見書
142	108	ウ	乳ウ	Food allergy and food allergy attitudes among college students.	Greenhawt MJ et al	J Allergy Clin Immunol. 2009;124: 323-327.	2009	大学生を対象とした食物アレルギーの傾向をアンケートにより調査。513 名が回答し、57%が食物アレルギー反応を報告。食物別の反応と症状についての報告あり。	アンケート調査	原著	-	EFSA 意見書
143	124	ウ	乳ウ	Prevalence of immediate hypersensitivity reactions to cow's milk in infants based on skin prick test and questionnaire.	Kucukosmanoglu E et al	Allergol Immunopathol (Madr).2008; 36: 254-258	2008	イスタンブール在住の乳児 (8-18 箇月齢) を対象としてアンケートと皮膚プリックテストを行い、牛乳アレルギーの有病率を調査。さらに、皮膚プリックテストの結果陽性であったもの者にはオープン経口食物負荷試験を実施。皮膚プリックテストを受けた 1,015 名のうち 6 名が牛乳アレルギーを発症、3 名が経口食物負荷試験に陽性反応を示した。	母親へのアンケート調査及びインタビューを実施	原著	-	EFSA 意見書

分類 (代表項目・詳細項目) の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
144	116	ウ	乳ウ 乳キ	National prevalence and risk factors for food allergy and relationship to asthma: Results from the National Health and Nutrition Examination Survey 2005-2006.	Liu AH et al	J Allergy Clin Immunol. 2010; 126: 798-806.	2010	米国国民健康影響調査 (NHANES) の調査対象者のうち、牛乳・卵白の特異的 IgE を有する 8,203 名を対象として、食物アレルギーの可能性を推計し、喘息との関係性を評価。	NHANES の結果を用いて評価。	原著	-	EFSA 意見書
145	120	ウ	乳ウ	Phenotypes of food hypersensitivity and development of allergic diseases during the first 8 years of life.	Ostblom E et al	Clin Exp Allergy, 2008;38: 1325-1332.	2008	アンケート調査により 2 ヶ月、1, 2,4 及び 8 歳のアレルギー疾患の状況や症状などに関するデータを入力し、最終的に 3,104 例の子供の完全なデータを入力。アレルギーの有病率と特異的 IgE の関係などを分析。また、幼児期の食物アレルギーが喘息、湿疹及びアレルギー性鼻炎のリスクを増加させることを示唆。	コホート研究	原著	コホート	EFSA 意見書
146	131	ウ	乳ウ	The prevalence of food hypersensitivity in young adults.	Osterballe M et al	Pediatr Allergy Immunol, 2009;20: 686-692.	2009	若年層における最も一般的なアレルギー誘発性食品に対する食物過敏症の有病率を推定。デンマークの成人 (20 歳代) 1,272 名を対象として、アンケート、皮膚プリックテストを実施し、食物負荷試験でアレルギーを診断。		原著	-	EFSA 意見書
147	210	ウ	乳ウ 乳キ	Incidence and natural history of challenge-proven cow's milk allergy in European children--EuroPrevall birth cohort	Schoemaker AA et al	Allergy. 2015; 70:963-972.	2015	欧州全域の 12,049 人の子供を対象として 9,336 人 (77.5%) を 2 歳まで追跡。牛乳アレルギーは 358 人の子供で疑われ、うち食物負荷試験により 55 人牛乳アレルギーであることと診断され、全体的な有病率は 0.54% (95%CI 0.41-0.70) であった。国ごとの発症率も比較。		原著	DBPCFC	文献検索

分類 (代表項目・詳細項目) の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
148	104	ウ	乳ウ	Cow's milk anaphylaxis in children first report of Iranian Food Allergy Registry	Teymourpour P et al	Iran J Allergy Asthma Immunol. 2012; 11:29-36.	2012	5年間に牛乳アナフィラキシーを経験し、イランの免疫学・喘息アレルギー研究センターに紹介された子供を対象とし、アンケートを実施。その後、イムノキャップ検査及び牛乳抽出物を用いた皮膚プリックテストを行い、総 IgE 及び牛乳特異的 IgE を測定。	アンケート調査、血中総 IgE 値測定	原著	-	文献検索
149	522	ウ	乳ウ 乳キ	Increase in anaphylaxis-related hospitalizations but no increase in fatalities: An analysis of United Kingdom national anaphylaxis data, 1992-2012	Turner PJ et al	J Allergy Clin Immunol. 2015; 135: 956-963.	2015	20年間のイングランドとウェールズにおけるアナフィラキシーによる入院と致死率の傾向を年齢、性別、及び原因別に報告。		原著	-	文献検索
150	123	ウ	乳ウ	Prevalence of self-reported food allergy in American adults and use of food labels.	Vierk KA et al	J Allergy Clin Immunol. 2007; 119: 1504-1510.	2007	FDA が 2001 年に実施した食品安全に関する調査結果を分析し、食物アレルギーの有病率を分析。		原著	-	EFSA 意見書
151	129	ウ	乳ウ 乳キ	The epidemiology of milk allergy in US children	Warren CM et al	Ann Allergy Asthma Immunol. 2013; 110: 370-4.	2013	米国の子供を対象に牛乳アレルギーの有病率を調査した研究。食物アレルギーの子供 3,218 名のうち、657 名 (19.9%) が乳アレルギーを有していた。人種ごとの有病率も見ており、重度の症状が見られた子供の割合も把握。	2009-2010 年にかけて、無作為に横断調査を実施。	原著	-	文献検索
152	650	ウ	乳ウ	メトヘモグロビン血症を合併した消化管アレルギーの 1 例	王 茂治 他	日本小児アレルギー学会誌 2011; 5: 98-103	2011	メトヘモグロビン血症を合併した消化管アレルギー男児の症例報告。アレルギー特異的リンパ球刺激試験では、牛乳タンパク (κ-カゼイン) に陽性反応がみられた。	症例報告	原著	症例報告	医中誌 Web
153	687	ウ	乳ウ	【免疫・アレルギー・川崎病】牛乳アレルギーの診断における牛乳特異的 IgE 抗体測定の意義	川口 博史 他	小児科臨床 2003; 56: 2149-2154	2003	牛乳アレルギーを疑い受診した患児 124 例に経口食物負荷試験を実施。陽性の場合の症状を整理。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
154	684	ウ	乳ウ	牛乳アレルギー児に対する食品用乳糖の経口食物負荷試験の検討	竹井 真理 他	日本小児アレルギー学会誌 2015 ; 29, 649-654,	2015	食品用乳糖の経口食物負荷試験 42 例について、陽性の場合の症状を整理。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
155	261	エ	卵エ 乳エ	Cnanadian Community Hearth Survey - Cycle 2.2, Nutrition	Statistics Canada	以下の URL より報告書を 入手可能。 http://www.statcan.gc.ca/ pub/82-620- m/82-620-m2 006002-eng. pdf	2004	カナダ国民の食生活に関する包括的な調査。卵・乳については、肉とその代替食品 (Meat and alternatives)、乳製品 (Milk products) の区分で摂取量を推計。	国民を対象とした大規模調査	公的機関 資料	食事摂取 量調査	
156	267	エ	卵エ 乳エ	Dutch National Food Consumption Survey 2007- 2010: Diet of children and adults aged 7 to 69 years	Rijksinstituut voor Volksgezond heid en Milieu bevordert de publieke gezondheid en een schoon en veilig leefmilieu : RIVM	以下の URL より報告書を 入手可能。A ppendix C に食品ごとの 摂食量データ あり。 http:// www.rivm.nl/ bibliotheek/ rapporten/35 0050006.pdf	2011	オランダ国民食生活実態調査 (Dutch National Food Consumption Survey : DNFCS) は、食事摂取量や、マクロ・ミクロの栄養の摂取状況、危害を与える可能性のある化学物質の摂取状況を把握することを目的して実施。調査では、卵及び牛乳の 1 日あたりの摂取量を年齢別に算出。	国民を対象とした大規模調査	公的機関 資料	食事摂取 量調査	

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
157	263	エ	卵エ 乳エ	Individual and national study on food consumption (INCA study) INCA II	ANSES	以下の URL より報告書を入手可能。 https://www.anses.fr/fr/system/files/PASER-Ra-INCA2.pdf (フランス語)	2006-2007	フランス国民食生活実態調査 (Etude individuelle nationale des consommations alimentaires : INCA) は、フランス国民の食事や栄養状態を把握するために実施される、公的な食事摂取量調査。卵・乳については、乳 (Lait)、生乳 (Ultra-flais laitier)、チーズ (Fromages)、卵と卵製品 (Oufs et derives) の区分で摂取量を推計。	国民を対象とした大規模調査 リンク	公的機関資料	食事摂取量調査	
158	269	エ	卵エ 乳エ	National Health and Nutrition Examination Survey : NHANES	National Center for Health Statics : NCHS	以下の URL から関連情報を取得可能。 https://www.n.cdc.gov/nchs/nhanes/ContinuousNhanes/Default.aspx?BeginYear=2013	2014	米国国民健康栄養調査 (NHANES : National Health and Nutrition Examination Survey) のうち、食事摂取に関連する調査は、WWEIA : What We Eat in America として実施されている。Dietary Intake Data Files では直近2年間の食事摂取量を整理している。	国民を対象とした大規模調査	公的機関資料	食事摂取量調査	
159	270	エ	卵エ 乳エ	National Diet and Nutrition Survey : NDNS	NatCen Social Research: NatCen, MRC Human Nutrition Research: MRC HNR, University College London Medical School: UCL	以下の URL より報告書を入手可能。 https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/594361/NDNS_Y1_to_4_UK_report_full_text_revised_February_2017.pdf	2012年	National Diet and Nutrition Survey は、英国に1.5年以上居住する国民の食品摂取量、栄養素摂取量を把握し評価するために実施されている調査。本調査では、卵・乳の摂取量として、卵と卵料理 (Eggs and egg dishes)、乳と乳製品 (Milk and milk products) のデータを推計。	国民を対象とした大規模調査	公的機関資料	食事摂取量調査	

分類 (代表項目・詳細項目) の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
160	264	エ	卵エ 乳エ	National Nutrition Survey: Selected Highlights, Australia, 1995	Australian Bureau of Statistics	以下の URL より報告書を入手可能。 http://www.ausstats.abs.gov.au/ausstats/free.nsf/0/236465EA4E9B3D2BCA25722500049629/\$File/48020_1995.pdf	1995	オーストラリア国民栄養調査 (National Nutrition Survey, NNS) は 1995 年から 1996 年に実施され、オーストラリア全ての州と特別地域の都市部及び農村地域に住む、2 歳以上の約 13,800 人が参加し食事摂取量を調査。卵・乳については、卵製品と料理 (Egg products and dishes)、乳製品と料理 (Milk products and dishes) の区分で摂取量を推計。	国民を対象とした大規模調査	公的機関資料	食事摂取量調査	
161	265	エ	卵エ 乳エ	NZ Food NZ Children Key results of the 2002 National Children's Nutrition Survey	Ministry of Health	以下の URL より報告書を入手可能。 https://www.health.govt.nz/system/files/documents/publications/nzfoodnzchildren.pdf	2002	全国小児栄養調査 (CNS2002) は子供を対象とした横断的な人口動態調査であり、ニュージーランドに居住する子供の食事摂取量等の情報を把握。卵・乳の摂取量は、肉魚と卵 (Meat, fish, poultry and egg)、乳 (Milks) の区分で推計。	2002CNS データ。国民を対象とした大規模調査。	公的機関資料	食事摂取量調査	
162	266	エ	卵エ 乳エ	NZ Food: NZ People Key results of the 1997 National Nutrition Survey	Ministry of Health	以下の URL より報告書を入手可能。 http://www.moh.govt.nz/notes/ebook/nbooks.nsf/8b635a98811e8aed85256ca8006d4e51/62c5d9d4c418c4e74c2567d9007186c2/\$FILE/nns.pdf	2009	ニュージーランド国民栄養調査 (NNS1997) は、ニュージーランド国民の食品及び栄養の摂取に関する詳細を収集することを目的として実施。卵・乳の摂取量は、日常食品 (Dairy Foods) もしくは多岐にわたる食品 (Miscellaneous Foods) の区分で推計されており、卵・乳独自では推計されていない。	国民を対象とした大規模調査	公的機関資料	食事摂取量調査	

分類 (代表項目・詳細項目) の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
163	655	エ	卵エ 乳エ	厚生労働科学研究費補助金 平成 21 年・平成 22 年度 食 品の安心・安全確保推進研究 事業 平成 23 年度 食品の 安全確保推進研究事業：加工 食品のアレルゲン含有量早見 表	宇理須 厚雄 他	以下の URL から早見表を 入手可能。ht tp://www.sa mori.or.jp/do cs/siryo002.p df	2011	卵・牛乳・小麦・大豆の総タン パク質含有量を FASTKIT エライザ Ver. II によって測定し、含有タン パク質量によってレベル別に分類 し、食品早見表を作成。		公的機関 資料	アレルゲ ン含有量 早見表	
164	262	エ	卵エ 乳エ	Estimation of food portion sizes frequently consumed by children 3-6 years old in Japan	Asakura K et al	J Nutr Sci Vitaminol (T okyo). 2014; 60: 387-96.	2014	年齢 3～6 歳の日本の子供 489 人 を対象として、1 日の半秤量式食 事記録法 (DR) を使用して食品 ポーションサイズを測定。	日本国内の学会 誌 (日本栄養・ 食糧学会) リンク https:// www.jstage.jst.g o.jp/article/jnsv/ 60/6/60_387/_pdf	原著	-	文献検索
165	327	エ	卵エ 乳エ	Effects of processing on the recovery of food allergens from a model dark chocolate matrix	Khuda SE et al	Food Chem. 2015; 168: 5 80-7.	2015	5 つの異なる抽出緩衝液を用いた ピーナッツ、卵及び乳アレルゲン の回収、及びアレルゲン特異的抗 体及びヒトアレルギー血清を用い たチョコレート中の特異的アレル ゲンタンパク質の同定方法を評価。		原著	-	文献検索
166	268	エ	卵エ 乳エ	The Korea National Health and Nutrition Examination Survey as a Primary Data Source	Park HA et al	Korean J F am Med. 20 13; 34: 79.	2013	韓国国内の食事摂取量調査。栄養 素ごとの摂取量、朝食の摂取状 況、外食の比率など経年変化での 情報を提供している。	国民を対象とし た大規模調査	原著	-	
167	271	エ	卵エ	Eatwell Guide: Modelling the dietary and cost implications of incorporating new sugar and fibre guidelines	Scarborough P et al	BMJ. 2016; 6: e013182.	2016	研究資料として、現在の英国での 食事において消費される食物量を 研究資料として提供。	食品ごとに、1 日 あたりの摂取量 を推計	原著	-	文献検索

分類 (代表項目・詳細項目) の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
168	341	オ	卵オ 卵キ 乳オ 乳キ	Debates in allergy medicine: Baked egg and milk do not accelerate tolerance to egg and milk	Dang TD et al	World Allergy Organ J. 2016 26; 9: 2.	2016	加熱調理された卵及び牛乳に耐性を持つ子供は、卵アレルギー及び牛乳アレルギーに対する耐性を発達させる可能性が高いという新たな知見に対するレビュー。寛解を予測する際の加熱した卵及び牛乳アレルギーの表現型の役割について議論し、それが疾患の表現型であることを示唆した。		レビュー	-	文献検索
169	318	オ	卵オ 乳オ	Food allergen selective thermal processing regimens may change oral tolerance in infancy	Kosti RI et al	Allergol Immunopathol (Madr).2013 ;41:407-17.	2013	主に幼児アレルギー誘発性食品に対する選択的な熱処理法の効果について、アレルギー誘発性と臨床的に関連があることから、経口耐性誘発に関わる可能性があることに焦点を当てたレビュー。		レビュー	-	文献検索
170	392	オ	卵オ 乳オ	Baked milk and egg-containing diet in the management of milk and egg allergy.	Leonard SA et al	J Allergy Clin Immunol Pract. 2015; 3:13-23. quiz 4.	2015	加熱調理した乳と卵に関する病態生理、臨床データ、及び安全性をまとめ、牛乳アレルギーや卵アレルギーの治療に関する実践的ガイドを提供。		レビュー	-	Stephanie A. Leonard (2016)
171	317	オ	卵オ 乳オ	Debates in allergy medicine: baked milk and egg ingestion accelerates resolution of milk and egg allergy	Leonard SA et al	World Allergy Organ J. 2016;26: 9:1	2016	加熱した牛乳及び卵に対する耐性について概説し、過熱されたことによって通常の牛乳や卵に対する耐性が促進されるのか検討。		レビュー	-	文献検索
172	323	オ	卵ウ 卵オ 乳ウ 乳オ	Baked Egg and Milk Exposure as Immunotherapy in Food Allergy	Leonard SA et al	Curr Allergy Asthma Rep. 2016 ;16 :32.	2016	加熱した牛乳と卵の忍容性と、牛乳や卵アレルギーに対する経口免疫療法の可能性について検討。		レビュー	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
173	699	オ	卵ウ 卵オ 乳ウ 乳オ	Advances in allergic skin disease, anaphylaxis, and hypersensitivity reactions to foods, drugs, and insects in 2011	Sicherer SH et al	J Allergy Clin Immunol. 2012 ;129: 76-85	2012	アナフィラキシー、食物、薬物及び昆虫などに対する過敏性反応、及びアレルギー性皮膚疾患について 2011 年に学術雑誌で報告されたいくつかの研究に焦点を当てたレビュー。本文中で卵・乳の焼製品による経口免疫療法について言及。		レビュー	-	文献検索
174	623	オ	卵オ 乳オ	Food processing and allergenicity	Verhoeckx KC et al	Food Chem Toxicol. 2015; 80:223-240	2015	タンパク質のアレルギー誘発性、タンパク質の抗原性 (IgG 結合性) 及び抗原性 (IgE 結合性) に対する加工 (加熱及び非加熱) の影響をレビュー。		レビュー	-	文献検索
175	347	オ	卵オ	Aspects of food processing and its effect on allergen structure	Paschke A et al	Mol Nutr Food Res. 2009; 53: 959-962	2009	保存、調製、分離、単離又は精製といった食品加工における現在の物理的及び化学的方法と熱処理、及び酵素処理に関してまとめ、食品タンパク質の性質へのそれらの影響についてまとめ、高圧処理、電場又は放射線照射などの食品加工の新しい方法及び食物アレルギーへのそれらの影響について紹介しているレビュー。		レビュー	-	文献検索
176	214	オ	卵ウ 卵オ	Advances in allergic skin disease, anaphylaxis, and hypersensitivity reactions to foods, drugs, and insects in 2012	Sicherer SH et al	J Allergy Clin Immunol. 2013 ;131:55-66.	2013	アナフィラキシー、食物、薬物及び昆虫などに対する過敏性反応、及びアレルギー性皮膚疾患について 2012 年に学術雑誌で報告されたいくつかの研究に焦点を当てたレビュー。		レビュー	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
177	303	オ	乳オ	Neoformed compounds in infant formulas: A new risk factor for allergy?	Baskara I et al	EMJ Allergy Immunol. 2017;2: 87-93.	2017	乳児用調整乳に含まれるメイラー反応の最終的な生成物 (AGEs) がアレルギー誘発に関与することを示唆する研究のレビュー。AGEs 受容体は T ヘルパー細胞の活性化に関与。		レビュー	-	文献検索
178	306	オ	乳オ	Potential use of lactic acid bacteria for reduction of allergenicity and for longer conservation of fermented foods.	El-Ghaish S et al	Trends Food Sci Technol, 2011; 22: 509-516.	2011	発酵乳製品における牛乳アレルギー性の変化についてまとめた総説。		レビュー	-	EFSA 意見書
179	315	オ	乳オ	Update on food allergy.	Sampson HA et al	J Allergy Clin Immunol, 2004;113: 805-819.	2004	米国における食物アレルギー有病率や治療法に関するレビュー。		レビュー	-	EFSA 意見書
180	697	オ	乳ウ 乳オ	Advances in allergic skin disease, anaphylaxis, and hypersensitivity reactions to foods, drugs, and insects in 2013	Sicherer SH et al	J Allergy Clin Immunol. 2014 ;133:324-34	2014	アナフィラキシー、食物、薬物及び昆虫などに対する過敏性反応、及びアレルギー性皮膚疾患について 2013 年に学術雑誌で報告されたいくつかの研究に焦点を当てたレビュー。		レビュー	-	文献検索
181	462	オ	乳オ 乳キ	Meta-analysis of the evidence for a partially hydrolyzed 100% whey formula for the prevention of allergic diseases.	Szajewska H et al	Curr Med Res Opin, 2010; 26: 423-437.	2010	部分的に加水分解した 100%乳清調製乳 (pHF) について、アレルギーリスクが高い健常児におけるアレルギーリスク低減効果に関するデータを体系的にレビュー。	メタアナリシス	メタアナリシス	-	EFSA 意見書

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
182	615	オ	乳オ	食品中に含まれるアレルギー物質の検査法開発に関する研究	宇理須 厚雄 他	厚生労働科学研究費補助金 健康安全確保総合研究 食品の安心・安全確保推進研究 平成19年度 http://mhlw-grants.niph.go.jp/niph/search/NIDD00.do?resrchNum=200734010A	2007	特定原材料に準ずる 20 品目の加工食品中アレルギー物質の検知法(検知法)を開発する。適切かつ分かりやすい表示にするための科学的知見を得ることを目的とした研究。 アレルギー物質含有食品交換表の作成を試みている。		公的機関資料	厚労科研	厚生労働科学研究データベース
183	326	オ	卵オ 乳オ	Effect of heat treatment on milk and egg proteins allergenicity	Bloom KA et al	Pediatr Allergy Immunol. 2014; 25: 740-746	2014	乳と卵タンパク質への加熱の影響を調べ、加熱された乳や卵への反応性に関して子供の抗体のアレルゲンに対する免疫標識の違いを評価。タンパク質のアレルゲン性に対する加熱の影響は、小麦の存在と温度及び時間によって影響を受けることが示唆された。	参加者の血清を利用	原著	-	文献検索
184	735	オ	卵オ 乳オ	The antigenicity and allergenicity of microparticulated proteins: Simplex.	Sampson HA et al	Clin Exp Allergy. 1992;22: 963-969.	1992	微粒子化プロセスが、卵白及び牛乳タンパク質のアレルゲン性/抗原性を出発材料に比べて変化させるかどうかを検討。微粒子化製品中の主要なアレルゲンは、出発物質である卵及び牛乳中に見られるものと同じであることが示唆された。		原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
185	404	オ	卵ウ 卵オ	Ovomucoid (Gal d 1) specific IgE detected by microarray system predict tolerability to boiled hen's egg and an increased risk to progress to multiple enviromental allergen sensitisation.	Alessandri C et al	Clin Exp Allergy.2012; 42:441-50.	2012	マイクロアレイシステムを用いた鶏卵白由来のアレルゲン分子に対する IgE 結合能と、ゆで卵食物負荷試験の適否を比較評価。Gal d 1 IgE 反応性が、鶏卵アレルギーの良い予測因子であることが示唆された。		原著	DBPCFC	Stephanie A. Leonard (2016) 2
186	411	オ	卵ウ 卵オ 卵カ	Utility of ovomucoid-specific IgE concentrations in predicting symptomatic egg allergy.	Ando H et al	J Allergy Clin Immunol. 2008; 122: 583-588.	2008	卵アレルギー児における、卵白、オボアルブミン、及びオボムコイドに対する IgE 抗体の測定の臨床的有用性及び診断付加値を評価。卵白及びオボムコイドに対する特異的 IgE 抗体の定量的測定及び、特異的 IgE による陽性及び陰性と判断する基準は卵アレルギーの診断に有用であることが示唆された。		原著	DBPCFC	Stephanie A. Leonard (2016) Stephanie A. Leonard (2016) 2
187	626	オ	卵ア 卵オ	Hydrolysed egg displays strong decrease in allergenicity and is well tolerated by egg-allergic patients	Ballmer-Weber BK et al	Allergy 2016 ;71 :728-732	2016	アレルギー誘発能を弱めた改変鶏卵を産生するため、酵素加水分解と熱処理の組み合わせを用いた技術的プロセスを検討し、臨床研究でもその効果を検討。		原著	DBPCFC	文献検索
188	405	オ	卵ウ 卵オ	Ovomucoid is not superior to egg white testing in predicting tolerance to baked egg.	Bartnikas LM et al	J Allergy Clin Immunol Pract. 2013; 1: 354-60.	2013	オボムコイドと卵白特異的 IgE 濃度、並びに卵白の皮膚プリックテストの膨疹サイズと焼き卵負荷試験の結果との関係を研究。オボムコイド sIgE は、焼き卵の負荷試験の結果を予測する上で卵白による皮膚プリックテスト結果や卵白特異的 IgE に比べると劣ることが示唆された。		原著	-	Stephanie A. Leonard (2016) Stephanie A. Leonard (2016) 2

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
189	348	オ	卵オ	Egg baked in product open oral food challenges are safe in selected egg-allergic patients	Buelow BJ et al	Allergy Rhinol (Provide nce). 2014 ; 5: e110-e112.	2014	アレルギークリニックで加熱した卵による経口食物負荷試験を受けた卵アレルギーを有する子供を評価し、負荷試験の結果の予測因子を検討。	http://www.ingentaconnect.com/content/ocean/rhino/2014/00000005/000000002/art00009	原著	-	文献検索
190	374	オ	卵ウ 卵オ	Oral immunotherapy for treatment of egg allergy in children.	Burks AW et al	N Engl J Med, 2012; 367: 233-243.	2012	卵白粉末を用いた子供に対する経口免疫療法を評価。5-11歳の55人の児童を対象にDBPCFCを実施。		原著	DBPCFC	EFSA 意見書
191	407	オ	卵ウ 卵オ	Significance of ovomucoid- and ovalbumin-specific IgE/IgG(4) ratios in egg allergy.	Caubet JC et al	J Allergy Clin Immunol. 2012;129: 739-47.	2012	卵アレルギー児における、オボアルブミン及びオボムコイドに対するIgG4抗体の重要性を検討。オボアルブミン及びオボムコイドに対するIgEとIgG4の相互作用を含むモデルは、加熱卵に対する反応を正確に予測することが示唆された。		原著	-	Stephanie A. Leonard (2016) Stephanie A. Leonard (2016) 2
192	366	オ	卵オ	In vitro determination of the allergenic potential of technologically altered hen's egg.	Hildebrandt S et al	J Agric Food Chem, 2008;56: 1727-1733.	2008	鶏卵のアレルギー誘発性を低下させるための技術的プロセスの詳細な分析を実施。卵製品の製造プロセスでの生成物、中間体、最終産物に焦点を当てて検討。		原著	-	EFSA 意見書
193	350	オ	卵オ	Changes in the antigenic and immunoglobulin E-binding properties of hen's egg albumin with the combination of heat and gamma irradiation treatment.	Kim MJ et al	J Food Prot, 2002;65: 1192-1195.	2002	加熱処理とガンマ線照射処理を組み合わせることによる、鶏卵アルブミン（オボアルブミン）のアレルゲン性及び抗原性における変化を評価。オボアルブミンが引き起こすアレルギーは、加熱処理とガンマ線照射処理を組み合わせることで、効果的に抑制できる可能性が示唆された。		原著	-	EFSA 意見書

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
194	393	オ	卵ウ 卵オ	Consumption of heat-treated egg by children allergic or sensitized to egg can affect the natural course of egg allergy: hypothesis-generating observations.	Konstantino u GN et al	J Allergy Cl in Immunol. 2008; 122: 414-5.	2008	卵アレルギーの子供に加熱卵の入った食品を導入することが、卵アレルギーの自然経過に影響を与え、耐性形成を促進するかどうかを検討。94 名の子供を対象に皮膚プリックテスト、食物負荷試験を実施。		原著	その他	Stephanie A. Leonard (2016) 2
195	349	オ	卵ウ 卵オ	Can early introduction of egg prevent egg allergy in infants? A population-based study.	Koplin JJ et al	J Allergy Cl in Immunol. 2010 ;126: 807-13.	2010	月齢 12 ヶ月の幼児の確認された卵アレルギーと授乳期間及び卵及び固形食の摂取年齢との関連性を調査。4～6 ヶ月齢での調理卵の導入は、卵アレルギーからの保護をもたらす可能性が示唆された。	集団ベースの横断研究、両親への聞き取りと皮膚検査を実施。	原著	コホート	EFSA 意見書
196	390	オ	卵ウ 卵オ	Adherence to extensively heated egg and cow's milk after successful oral food challenge.	Lee E et al	J Allergy Cl in Immunol Pract. 2015; 3: 125-127.	2015	少なくとも 4 ヶ月前に焼きマフィンによる経口食物負荷試験を受けてパスした、鶏卵アレルギー及び牛乳アレルギーの子供を対象としてアンケート調査を実施。		原著	-	Stephanie A. Leonard (2016) Stephanie A. Leonard (2016) 2
197	353	オ	卵オ	Effect of acid treatment on allergenicity of peanut and egg	Lee JO et al	J Sci Food Agric. 2017; 97:2116-2121.	2017	ピーナッツと卵のアレルゲン性が酸処理で変化するか調査。酸処理は卵白中のアルブミン又はオボムコイドに対する抗原性を低下させた。	<i>in vitro</i> 研究	原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
198	227	オ	卵ウ 卵オ	Immunologic changes in children with egg allergy ingesting extensively heated egg.	Lemon-Mule H et al	J Allergy Clin Immunol, 2008;122: 977-983.	2008	卵アレルギー児の集団における加熱卵の耐性を確認し、加熱卵耐性の臨床的及び免疫学的予測因子を評価し、加熱卵の継続的摂取に伴う免疫学的変化を特徴付け、加熱卵を含む食事に対して耐性が高いかどうかを判定。卵アレルギーを持つ幼児 117 名を対象に、経口食物負荷試験により加熱卵へアレルギー耐性を評価。	経口食物負荷試験を実施	原著	-	EFSA 意見書
199	403	オ	卵ウ 卵オ	Outcomes of 100 consecutive open, baked-egg oral food challenges in the allergy office.	Lieberman JA et al	J Allergy Clin Immunol. 2012; 129: 1682-4.	2012	ニューヨークの施設における 100 人規模の後ろ向き研究。加熱した卵でのオープン経口食物負荷試験の有用性を検証。	コントロールスタディ	原著	-	Stephanie A. Leonard (2016) R.I. Kosti et al (2013)
200	628	オ	卵オ	Food-Cooking Processes Modulate Allergenic Properties of Hen's Egg White Proteins	Liu X et al	Int Arch Allergy Immunol 2013; 160: 134-142	2013	鶏卵の卵白タンパク質のアレルゲン性に及ぼす加工の影響を調査。蒸す、香辛料処理、又は茶による煮沸による処理は、卵タンパク質のアレルゲン性を弱める可能性があることが示唆され。	原著	原著	-	文献検索
201	400	オ	卵オ	Mechanisms underlying differential food allergy response to heated egg.	Martos G et al	J Allergy Clin Immunol. 2011;127: 990-7.	2011	熱処理することで卵白アレルゲンのアレルゲン性が低下する原因となる根本的な機序を調査。マウスを用いた試験により、熱処理が、オボアルブミンとオボムコイドのアレルギー性を低下されることが示唆された。	動物実験	原著	-	Stephanie A. Leonard (2016) 2

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
202	351	オ	卵オ	Comparative studies on antigenicity and allergenicity of native and denatured egg white proteins.	Mine Y et al	J Agric Food Chem. 2002; 50: 2679-2683.	2002	卵アレルギー患者から得た IgG 及び IgE 抗体について、物理的又は化学的に処理された卵白タンパク質への結合活性を調べ、ウサギ抗卵白 IgG 抗体の結合活性と比較。		原著	-	EFSA 意見書
203	632	オ	卵ア 卵オ	Allergenicity of pasteurized whole raw Hen's egg compared with fresh whole raw Hen's egg	Netting M et al	Pediatr Allergy Immunol. 2015;26: 187-297	2015	<i>in vitro</i> で消化、又は非消化の低温殺菌された卵粉末と卵アレルギー児の血清 IgE との結合を、低温殺菌されていない新鮮な生全卵と比較。	原著	原著	-	文献検索
204	378	オ	卵オ	Randomised controlled trial of a baked egg intervention in young children allergic to raw egg but not baked egg	Netting M et al	World Allergy Organ J. 2017; 10: 22.	2017	加熱卵に耐性を持つ、卵アレルギー幼児において、加熱卵摂取後の臨床的及び免疫学的結果を比較。		原著	DBPCFC	文献検索
205	627	オ	卵オ	The Influence of the Time and Temperature of Heat Treatment on the Allergenicity of Egg White Proteins	Shin M et al	Allergy Asthma Immunol Res. 2013 ;5: 96-101.	2013	卵白タンパク質の組成及びアレルギー性に最大かつ有意な影響を及ぼす因子である、熱処理の持続時間又は温度を研究。30 分間加熱された卵白は、組成及びアレルギー性の減少の両方において最も顕著な変化を示した。		原著	-	文献検索
206	617	オ	卵オ	Kinetic analysis of pepsin digestion of chicken egg white ovomucoid and allergenic potential of pepsin fragments	Takagi K et al	Int Arch Allergy Immunol 2005; 136: 23-32	2005	オボムコイドを人工胃液中で消化し、得られた断片について、アレルギー患者由来の血清 IgE に対する反応性を調査。		原著	-	文献検索
207	391	オ	卵ウ 卵オ	Baked egg food challenges - clinical utility of skin test to baked egg and ovomucoid in children with egg allergy.	Tan JW et al	Clin Exp Allergy. 2013; 43: 1189-95.	2013	加熱卵（マフィン）及びオボムコイドに対する皮膚プリックテストは、卵アレルギー患者の加熱卵の経口食物負荷試験の結果を予測できるかどうかを検討。		原著	-	Stephanie A. Leonard (2016) Stephanie A. Leonard (2016) 2

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
208	398	オ	卵ウ 卵オ	Frequent baked egg ingestion was not associated with change in rate of decline in egg skin prick test in children with challenge confirmed egg allergy.	Tey D et al	Clin Exp Allergy. 2012; 42: 1782-90.	2012	卵アレルギーの子供における加熱した卵の摂取頻度と皮膚ブリックテストの発疹サイズの関係を調査。卵アレルギーの子供における卵皮膚ブリックテストサイズの縮小率は、加熱卵の頻繁な摂取とは関連がないことが示唆された。		原著	コホート	Stephanie A. Leonard (2016) 2
209	344	オ	卵オ	Allergenic activity of heated and ovomucoid-depleted egg white.	Urisu A et al	J Allergy Clin Immunol. 1997; 100: 171-176.	1997	卵白に対するアレルギーの発症に関連する、卵白タンパク質であるオボムコイドの重要性を調査。高血圧の被験者を対象に DBPCFC を実施、血清中の IgE 抗体レベルを調査。高 IgE 抗体価のヒトで実施。加熱したタンパク質及びオボムコイドは、加熱又は凍結させた調製物よりもアレルギー誘発性が低かった。		原著	DBPCFC	EFSA 意見書
210	373	オ	卵ウ 卵オ	Multisystem reactions during egg oral food challenges may be associated with less severe reactions on initial presentation	Vitalpur G et al	Allergy Asthma Clin Immunol. 2016; 12: 21.	2016	卵及び加熱卵での経口食物負荷試験時の多臓器反応が、過去の多臓器の反応歴と関連しているかどうかを評価。5 年間の間に卵又は加熱卵に対して経口食物負荷試験を受けた子供 120 例の記録をレビュー。		原著	-	文献検索
211	616	オ	卵ウ 卵オ	食物等によるアナフィラキシー反応の原因物質(アレルゲン)の確定、予防・予知法の確立に関する研究	海老澤 元宏 他	厚生労働科学研究	2003	鶏卵アレルギー患者を対象に、低アレルゲン化加熱脱オボムコイド卵白の連日経口摂取による鶏卵アレルギー寛解誘導における背景因子を検討。加熱脱オボムコイド卵白含有クッキーの連日摂取により、経口負荷試験の陰性化は 32 例中 17 例 (53.1%) に認め、卵白特異的 IgG4 抗体の有意な上昇が陰性化群で観察された。		原著	-	厚生労働科学研究データベース

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
212	658	オ	卵ウ 卵オ	加熱鶏卵 1 個が摂取可能にな った児に対する全卵マヨネー ズ負荷試験	小池 由美 他	日本小児アレ ルギー学会誌 2016; 30: 5 62-566.	2016	経口食物負荷試験で加熱鶏卵の摂 取が可能と判断された児が、生卵 を使用しているマヨネーズの摂取 が可能かどうかを検討。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
213	673	オ	卵ウ 卵オ	ブラインド法乾燥食品粉末食 物負荷試験に関する検討(第 1 報) 非加熱全卵・卵黄負 荷試験	小俣 貴嗣 他	アレルギー 2 009; 58: 524 -536.	2009	シングルブラインド法による非加 熱全卵/卵黄乾燥食品粉末を用いた 食物負荷試験を施行した患者を対 象とし、その患者背景、負荷試験 結果、過熱オープン負荷試験との 整合性、IgE CAP RAST 値及び 皮膚プリックテストについて臨床 的検討を実施。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
214	647	オ	卵ウ 卵オ	ゆで卵白 1.0g の摂取が可能 な鶏卵アレルギー児に対する 生の状態で取り分け加熱した 卵黄 1 個の経口負荷試験	松井 照明 他	日本小児アレ ルギー学会誌 2017; 31: 6 3-71	2017	卵黄に残留する卵白量を推定した うえで、症状誘発閾値の低い卵ア レルギー患者に対する加熱卵黄摂 取の可否について検討。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
215	372	オ	卵ウ 卵オ	全卵粉末入りジュースを用い た経口食物負荷試験の検討 (Methods of ingestion in oral food challenge tests using whole-EGG powder)	柳田 紀之 他	アレルギー. 2016; 65: 19 3-9.	2016	全卵 1/2 個に相当する全卵粉末入 りジュースを用いた負荷試験の結 果及び陰性者の自宅での鶏卵 1/2 個相当に対する摂取可否について 検討	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web/文献 検索
216	720	オ	乳オ	Reduction of immunoreactivity of bovine [Beta]-lactoglobulin upon combined physical and proteolytic treatment	Bonomi F et al	J Dairy Re s. 2003;70: 51-59.	2003	β-ラクトグロブリンを加圧し、 キモトリプシンによる加水分解し た場合のアレルギー性に与える影 響を調査。β-ラクトグロブリン の加水分解物について、牛乳中の ホエイタンパク質に対するアレル ギー小児患者の血清を用いたウェ スタンブロッティングを行った結 果、免疫反応性はβ-ラクトグロ ブリンの残留量に関連し、加圧下 で加水分解された場合、免疫反応 はなかった。		原著	-	No.301 と 同著者に よるもの

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
217	291	オ	乳オ	Effect of heat treatment on the antigenicity of bovine α -lactalbumin and β -lactoglobulin in whey protein isolate.	Bu G et al	Food Agr Immunol. 2009; 20: 195-206.	2009	乳清タンパク質単離物における α -ラクトアルブミン及び β -ラクトグロブリンの抗原性に対する熱処理の効果を、条件を 50℃~120℃、0.5 ~30 分として検討。		原著	-	EFSA 意見書
218	288	オ	乳ウ 乳オ	Determination of allergenicity to three cow's milk hydrolysates and an amino acid-derived formula in children with cow's milk allergy.	Caffarelli C et al	Clin Exp Allergy, 2002; 32: 74-79.	2002	子供における IgE 依存性牛乳アレルギーのタンパク質加水分解物又はアミノ酸由来調整乳の耐性及びアレルギー誘発性を検討。牛乳の食物負荷試験及び皮膚ブリックテストの結果陽性と判断された子供 20 名を対象に、加水分解ホエイの乳児用乳、加水分解（一部）ホエイの乳児用乳、加水分解カゼインの乳児用乳、アミノ酸由来の乳児用乳で食物負荷試験を実施。		原著	-	EFSA 意見書
219	410	オ	乳ウ 乳オ	Utility of casein-specific IgE levels in predicting reactivity to baked milk.	Caubet JC et al	J Allergy Clin Immunol. 2013; 131: 222-4.	2013	加熱乳に対するアレルギー反応を評価。カゼイン特異的 IgE の測定値が加熱乳に対する反応性を予測するための診断上の指標として有用であると示唆。		原著	その他	Stephanie A. Leonard (2016) Stephanie A. Leonard (2016) 2
220	302	オ	乳オ	Modification of IgE binding to beta-lactoglobulin by fermentation and proteolysis of cow's milk.	Ehn BM et al	J Agric Food Chem, 2005; 53: 3743-3748.	2005	全乳の乳酸菌発酵及びタンパク質加水分解による、 β -ラクトグロブリンの IgE 結合能に対する影響を、ELISA 阻害アッセイを用いて調査。成人の牛乳アレルギー患者 9 名の血清を用いてイムノブロットを実施。乳酸菌発酵による影響はなかったが、トリプシンによる分解は IgE 結合を減少させた。		原著	-	EFSA 意見書

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
221	307	オ	乳オ	Proteolysis by <i>Lactobacillus fermentum</i> IFO3956 isolated from Egyptian milk products decreases immunoreactivity of alphaS1-casein.	El-Ghaish S et al	J Dairy Res. 2011;78: 203-10	2011	エジプトの牛乳由来の <i>Lactobacillus fermentum</i> IFO3956 が作るタンパク質分解酵素が、牛乳アレルギー (α -S1-カゼイン) を加水分解した場合の影響について調査。分解の結果得られたペプチドを分析しエпитープを含む多くの部位で加水分解されたことを確認。牛乳アレルギー患者の血清を用いたイムノブロットでも IgE 結合能の低下を確認。		原著	-	EFSA 意見書
222	297	オ	乳ウ 乳オ	Hypoallergenicity of an extensively hydrolyzed whey formula.	Giampietro PG et al	Pediatr Allergy Immunol. 2001;12, 83-86.	2001	欧州小児胃腸症栄養学会 (ESPGAN) 及び欧州小児アレルギー・臨床免疫学会 (ESPACI) では牛乳アレルギーと診断された子供 32 名を対象にホエイの加水分解性物 (全て加水分解/一部加水分解) の皮膚ブリックテストと食物負荷試験を実施。		原著	-	EFSA 意見書
223	397	オ	乳オ 乳カ	Efficacy of baked milk oral immunotherapy in baked milk-reactive allergic patients.	Goldberg MR et al	J Allergy Clin Immunol. 2015; 136: 1601-6.	2015	加熱牛乳反応性の患者が加熱牛乳による経口免疫療法により改善することができ、非加熱乳からも脱感作することができるか検討。		原著	-	Stephanie A. Leonard (2016) 2
224	752	オ	乳オ	Allergic reactions to raw, pasteurized, and homogenized/pasteurized cow milk: a comparison. A double-blind placebo-controlled study in milk allergic children.	Host A et al	Allergy. 1988 ;43:113-8.	1988	牛乳に対する IgE 依存性の有害反応を有する 5 名の子供に、低温殺菌乳、ホモジナイズした低温殺菌乳、乳児用調整乳を用いて皮膚ブリックテストと食物負荷試験を実施。いずれの乳でもアレルギー反応が発生。		原著	-	#199 の引用文献

分類 (代表項目・詳細項目) の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
225	4	オ	乳ア 乳ウ 乳オ	Evaluation of an extensively hydrolysed casein formula (Damira 2000®) in children with allergy to cow's milk proteins	Ibero M et al	Allergol Immunopathol (Madr). 2010; 38: 60-68	2010	牛乳アレルギーの児童を対象に、加水分解されたカゼイン配合物のアレルギー誘発性を皮膚試験で調査している。調査の結果、67 名中 66 名が加水分解されたカゼイン化合物に耐容であった。		原著	-	文献検索
226	312	オ	乳ウ 乳オ	Safety and clinical predictors of reacting to extensively heated cow's milk challenge in cow's milk-allergic children	Mehr S et al	Ann Allergy Asthma Immunol. 2014 ;113: 425-9.	2014	十分に加水分解された新しいカゼイン調製品について、牛乳アレルギー児における <i>in vivo</i> でのアレルギー活性を評価し、製品の免疫化学的評価を実施。70 名の牛乳アレルギーの子供を対象に経口食物負荷試験を実施。		原著	コホート	文献検索
227	409	オ	乳ウ 乳オ	Tolerance to extensively heated milk in children with cow's milk allergy.	Nowak-Węgrzyn A et al	J Allergy Clin Immunol. 2008; 122: 342-7	2008	牛乳アレルギーが寛解した子供は、主に立体構造エピトープに対する牛乳特異的 IgE 抗体を有していたことに注、高温で立体構造エピトープが大きく破壊されるため、牛乳アレルギーを有している一部の子供は、広範囲に加熱された乳製品に耐性を有していると仮定して調査を実施。		原著	-	Stephanie A. Leonard (2016) Stephanie A. Leonard (2016) 2Nowak-Węgrzyn A(2009)
228	293	オ	乳オ	Evaluation of the residual antigenicity of dairy whey hydrolysates obtained by combination of enzymatic hydrolysis and high-pressure treatment.	Peñas E et al	J Food Prot. 2006 ,69, 1707-1712.	2006	低アレルギー性乳児用調製乳に適した加水分解物を生成するために、乳清タンパク質から得られた加水分解物の残存抗原性を評価。乳製品を常圧/加圧下でいくつかの酵素により加水分解し、抗乳酸菌モノクローナル抗体及び牛乳タンパク質にアレルギーのある小児患者の血清を用いた免疫ブロッティングにより、残留抗原性を評価。		原著	-	EFSA 意見書

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
229	305	オ	乳オ	Pasteurization of milk proteins promotes allergic sensitization by enhancing uptake through Peyer's patches.	Roth-Walter F et al	Allergy, 2008;63: 882-890.	2008	乳アレルギーの誘発を起こす乳タンパク質 α -ラクトアルブミン、 β -ラクトグロブリン、及びカゼインの固有の特性（ならびに低温殺菌の効果）を、マウスを用いて調査。	動物実験	原著	-	EFSA 意見書
230	725	オ	乳ウ 乳オ	Safety of casein hydrolysate formula in children with cow milk allergy.	Sampson HA et al	J Pediatr. 1991 ;118 :520-5.	1991	新規の乳児用カゼイン加水分解調製乳である Alimentum が牛乳過敏症の乳児に安全に投与可能であるか否かを。牛乳アレルギーの子供 25 名を対象とした DBPCFC により検証。		原著	DBPCFC	文献検索
231	734	オ	乳ウ 乳オ	Safety of an amino acid-derived infant formula in children allergic to cow milk.	Sampson HA et al	Pediatrics. 1992; 90: 463-465.	1992	アミノ酸、炭水化物（マルトデキストリン）、脂肪（ハイブリッドベニバナ油、大豆油、精製ココナッツ油）、ビタミン、及びミネラルから成る栄養学的に完璧な乳幼児用粉末調整乳である Neocate（Scientific Hospital Supplies 社）が牛乳にアレルギーのある子供に安全かどうかを検証。		原著	DBPCFC	文献検索
232	620	オ	乳オ	Effects of Heating and Glycation of beta-Lactoglobulin on Its Recognition by IgE of Sera from Cow Milk Allergy Patients	Taheri-Kafrani A et al	J Agric Food Chem. 2009; 57: 4974-4982	2009	ウシ β -ラクトグロブリンの熱変性が牛乳アレルギー患者由来の IgE の結合に及ぼす影響を評価するとともに、中等度の糖化が IgE による認識の程度に及ぼす影響を検討。		原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
233	463	オ	乳オ	Allergies in high-risk schoolchildren after early intervention with cow's milk protein hydrolysates: 10-year results from the German Infant Nutritional Intervention (GINI) study	von Berg A et al	J Allergy Clin Immunol. 2013; 131: 1565-73.	2013	加水分解した乳児用調整乳が学齢時のアレルギー家族歴を持つ小児のアレルギー表現型に与える影響を調査。アレルギー疾患に対し家族歴を持つ子供を対象に、出生から4ヶ月まで①母乳代用品、②加水分解された乳清配合物、③加水分解されたカゼイン式、④標準的な乳製品を与え、アレルギー疾患の累積発生率を調査。	10年間の追跡調査	原著	-	EFSA 意見書
234	674	オ	乳ウ 乳オ	ブラインド法乾燥食品粉末食物負荷試験に関する検討(第2報) 牛乳負荷試験	小俣 貴嗣 他	アレルギー 2009; 58: 779-789.	2009	相模原病院小児科でブラインド法にて行われた牛乳乾燥食品粉末を用いた食物負荷試験について臨床的検討を実施。計83試験の患者を対象に陽性の場合の症状を整理。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
235	686	オ	乳ウ 乳オ	既製の加工品を用いた牛乳、小麦経口食物負荷試験	柳田 紀之 他	小児科臨床 2014 ;67 :1699-1706	2014	既製の加工品を用い牛乳、小麦経口食物負荷試験の安全性、有用性を検討。既製の牛乳加工品を用いて168例の負荷試験を実施。陽性の場合の症状を整理。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
236	436	カ	卵オ 卵カ 乳オ 乳カ	Allergen reference doses for precautionary labeling (VITAL 2.0): Clinical implications	Allen KJ et al	J Allergy Clin Immunol. 2014;133 :156-64.	2014	製造業者による合理的なアプローチを導くために、公開されている利用できるあらゆる有効な経口食物負荷データに基づいて、一般的な11種類のアレルギー性食品の参照用量を確立。		原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
237	445	カ	卵力 乳力	Threshold dose distributions for 5 major allergenic foods in children.	Blom WM et al	J Allergy Clin Immunol. 2013; 131: 172-9.	2013	主要なアレルギー食品の閾値用量分布を導出し、アレルギー母集団の一部が反応する可能性のあるタンパク質用量を検討。DBPCFCを実施して、主要なアレルギー性を有する食品の閾値の線量分布を導き出し、タンパク質の用量を推定。		原著	DBPCFC	EFSA 意見書
238	459	カ	卵力 乳力	Specific oral tolerance induction in food allergy in children: efficacy and clinical patterns of reaction.	Staden U et al	Allergy. 2007; 62: 1261-1269.	2007	特異的経口耐性誘導と除去食を、その有効性及び臨床反応パターンについて比較。	アレルギーを持つ子供に対し無作為対照試験を実施。コントロールスタディ。	原著	-	EFSA 意見書
239	587	カ	卵オ 卵力 卵ク 乳オ 乳力 乳ク	Establishment of Reference Doses for residues of allergenic foods: Report of the VITAL Expert Panel	Taylor SL et al	Food Chem Toxicol. 2014; 63:9-17.	2014	オーストラリア・ニュージーランド・アレルギー局の VITAL (自発的なトレース量アレルギー存在表示) プログラムの一環として、アレルギー性食品の適切な基準量を確立することを目的に、専門家パネルが設立された。パネルでは 11 種のアレルギー性食品について基準用量を確立。		原著	-	EFSA 意見書
240	435	カ	卵力 卵キ 乳力 乳キ	A retrospective analysis of allergic reaction severities and minimal eliciting doses for peanut, milk, egg, and soy oral food challenges	Zhu J et al	Food Chem Toxicol. 2015; 80:92-10	2015	経口食物負荷試験に関する公表データの後ろ向き分析を行い、最小誘発用量と最小誘発用量での反応重篤度との間の潜在的関係性を評価することができるかどうかを判断する目的で、以前に公表された反応重症度分類をもとに、3 クラス (軽度、中程度、重度) の分類システムを開発。食物負荷試験から MED 及び症状を収集し、各反応を、統合分類システムを用いて評価。		原著	-	文献検索

分類 (代表項目・詳細項目) の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルギー性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
241	690	カ	卵力 乳力	食物アレルギー児に対する経口免疫療法	真部 哲治 他	小児科臨床 2013 ;66 :297-303.	2013	安全性を重視した緩徐な経口免疫療法を試み、その有用性について検討。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
242	667	カ	卵ウ 卵力 乳ウ 乳力	食物アレルギーに対する急速経口免疫療法	薬詔 紀子 他	KKR 札幌医療センター医学雑誌 2013 ;10 :48-54	2013	食物アレルギーに対する急速経口免疫療法の成績を後ろ向きに検討。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
243	455	カ	卵力	Randomized controlled trial of oral immunotherapy for egg allergy in Japanese patients	Akashi M et al	Pediatr Int. 2017 ; 59:534-539.	2017	DBPCFC を用いた確実な診断と卵の閾値用量の評価を行うため、治療前に最初の経口食物負荷試験を実施。	日本人を対象	原著	DBPCFC	文献検索
244	252	カ	卵ウ 卵力	Correlation between specific immunoglobulin E levels and the severity of reactions in egg allergic patients	Benhamou AH et al	Pediatr Allergy Immunol. 2008; 19: 173-9.	2008	標準的な卵の経口食物負荷試験のデータを分析し、IgE 値がアレルギー反応の重症度と関連するか否かを検討。		原著	-	EFSA 意見書
245	364	カ	卵オ 卵力	Home-based oral immunotherapy with a baked egg protocol	Bravin K et al	J Investig Allergol Clin Immunol. 2016; 26: 61-3	2016	加熱卵の経口免疫療法で使用される卵含有ビスケットのレシピを開発し、食物負荷試験によりこのレシピの有効性と安全性を検証。		原著	-	文献検索
246	691	カ	卵力	Rush Specific Oral Tolerance Induction in School-Age Children with Severe Egg Allergy: One Year Follow Up	Itoh N et al	Allergol Int. 2010;59: 43-51	2010	重度の卵アレルギーを患う学齢の患者のために急速特異的経口耐性誘導を実施し、この方法の安全性及び有効性を 1 年間評価。7～12 歳の IgE 依存性重症卵アレルギー患児 6 名を対象に検証を実施。	日本人を対象	原著	DBPCFC	医中誌 Web
247	251	カ	卵ウ 卵力	Baseline specific IgE levels are useful to predict safety of oral immunotherapy in egg-allergic children	Vazquez-Ortiz M et al	Clin Exp Allergy. 2014; 44: 130-141	2014	卵経口免疫療法の安全性を評価し、治療中に重篤な反応及び合併症をきたす患者を予測。5－18 歳の子供 50 名を対象に DBPCFC を実施。反応性に応じて症例対照研究を実施。最適なカットオフ値を推定。		原著	DBPCFC	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
248	692	カ	卵力	食物アレルギーに対する急速特異的経口耐性誘導法の試みとその免疫学的解析	栗原 和幸 他	こども医療センター医学誌 2009 ; 38 : 209-211	2009	重篤な症状を呈する食物アレルギー患者に、急速特異的経口耐性誘導を実施し、臨床症状の詳細な洞察によって治療の効果と安全性を評価し、また各種免疫マーカーの変動の解析によって関与する免疫学的機序を検討。	日本人を対象	原著	DBPCFC	医中誌 Web
249	689	カ	卵力	免疫療法(経口免疫療法、皮下注射免疫療法など)の作用機序の解析	栗原 和幸 他	こども医療センター医学誌 2014 ;43 :2 62-264	2014	重症食物アレルギー患者に対する急速特異的経口耐性誘導をより多くの患者、より多くのアレルギー食品について実施し、臨床知見を集積し、より安全で効果的な実施方法を検討。	日本人を対象	原著	DBPCFC	医中誌 Web
250	648	カ	卵ウ 卵オ 卵力	鶏卵アレルギーの急速経口免疫療法中にオマリズマブを投与した1例	柳田 紀之 他	日本小児アレルギー学会誌 2016; 30: 1 47-154	2016	7歳男児で、鶏卵アレルギーに対する経口免疫療法開始9か月後に気管支喘息の悪化を認め、オマリズマブの投与が開始された症例報告。	症例報告	原著	症例報告	医中誌 Web
251	98	カ	乳ウ 乳力	Adverse effects during specific oral tolerance induction: In home phase	Barbi E et al	Allergol Immunopathol (Madr). 2012; 40: 41-50	2012	重篤な牛乳アレルギーを有する小児の大規模群において、病院での「増量期」の後、オリジナルの特異的経口耐性誘導プロトコルの家庭内での有害反応の発生率及び重症度、潜在的なリスク要因、安全性及び有効性を検討。		原著	-	文献検索
252	415	カ	乳力	A new protocol for specific oral tolerance induction in children with IgE-mediated cow's milk allergy.	Caminiti L et al	Allergy Asthma Proc, 2009;30: 443-448.	2009	週毎に用量を上げていくスケジュールを用いた経口耐性誘導プロトコルの実現可能性を検討。牛乳アレルギーを有する子供を対象に、希釈した牛乳を用いてDBPCFCを実施した。10人の子供のうち、7人が牛乳(200ml)に対して耐性を有した。	牛乳に対するIgE依存性アレルギーを持つ子供を無作為に選び、DBPCFCを実施。	原著	DBPCFC	EFSA 意見書

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
253	423	カ	乳力	Double-blind placebo-controlled food challenges in children with alleged cow's milk allergy: prevention of unnecessary elimination diets and determination of eliciting doses.	Dambacher WM et al	Nutr J. 2013; 12: 22.	2013	DBPCFC により牛乳アレルギーを除外すれば、長期的に不要な除外食をしないでもすむかどうかを評価し、DBPCFC 陽性小児における牛乳タンパク質に対する急性アレルギー反応の最小誘発用量を検討。		原著	DBPCFC	EFSA 意見書
254	113	カ	乳ウ 乳力 乳キ	Incremental prognostic factors associated with cow's milk allergy outcomes in infant and child referrals: the Milan Cow's Milk Allergy Cohort study.	Fiocchi et al	Ann Allergy Asthma Immunol. 2008;101:166-173.	2008	牛乳アレルギーの精密検査の結果を共変量として、耐性を牛乳アレルギーの期間モデルにおける状態変数として用いて、無作為コホートにおける患者の耐性の予後予測因子を前向きに検討。	コホート研究	原著	DBPCFC	EFSA 意見書
255	420	カ	乳力	Cow's milk allergy in adults is rare but severe: both casein and whey proteins are involved.	Lam HY et al	Clin Exp Allergy, 2008; 38, 995-1002.	2008	成人牛乳アレルギー患者の臨床症状、誘発用量及びアレルギー認識を、牛乳に感作しているが耐性を有する対照と比較分析。アンケート、皮膚プリックテスト、DBPCFC により評価。		原著	DBPCFC	EFSA 意見書
256	419	カ	乳力	Clinical predictors for favorable outcomes in an oral immunotherapy program for IgE-mediated cow's milk allergy	Levy MB et al	Ann Allergy Asthma Immunol 2014; 112: 58-63.	2014	代替治療戦略としての乳を用いた経口免疫療法の安全性及び有効性を評価。IgE 依存性牛乳アレルギーを有する患者患者 280 名で牛乳を用いた経口免疫療法を実施。治療開始 1 日目に閾値を測定し、その後閾値を下回る用量から開始した。		原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類(代表項目)	分類(詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名・掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類(大分類)	文献種類(小分類)	情報源
257	433	力	乳力	Specific oral tolerance induction in children with very severe cow's milk-induced reactions.	Longo G et al	J Allergy Clin Immunol. 2008; 121: 343-7.	2008	重度の牛乳タンパク質誘発全身反応をきたす子供のための特異的経口耐性誘導の安全性及び有効性を評価。評価に際してはDBPCFCを実施。1年後36%が完全に寛容となり、54%の子供が5・150mlの牛乳に耐性を有した。	http://www.jacionline.org/article/S0091-6749(07)02000-3/abstract	原著	DBPCFC	EFSA 意見書
258	107	力	乳ウ 乳力	Exclusively breastfed infants at risk for false negative double blind placebo controlled milk challenge	Petrus NC et al	Eur Ann Allergy Clin Immunol. 2014; 46:43-45.	2014	牛乳アレルギーの診断にはDBPCFCが用いられることが多いが、偽陰性の報告もある。牛乳アレルギーの疑いのある乳児を対象に偽陰性のDBPCFCを2例提示。閾値などの情報あり。		原著	DBPCFC	文献検索
259	414	力	乳力	A randomized, double-blind, placebo-controlled study of milk oral immunotherapy for cow's milk allergy.	Skripak JM et al	J Allergy Clin Immunol. 2008; 122: 1154-1160.	2008	経口免疫療法が牛乳アレルギーのある子供を脱感作する上で、安全で効果的かどうかを検証。	20人の子供を無作為抽出しプラセボ試験を実施	原著	DBCFC	EFSA 意見書
260	96	力	乳ウ 乳力 乳キ	A single-center, case-control study of low-dose-induction oral immunotherapy with cow's milk	Yanagida N et al	Int Arch Allergy Immunol. 2015; 168: 131-7.	2015	経口免疫療法で従来から用いられている目標用量よりも少ない3mlの乳を用いて、低用量による経口免疫療法の有効性と安全性を検討。		原著	-	文献検索
261	187	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Role of food allergy in childhood atopic dermatitis	Campbell DE	J Paediatr Child Health. 2012; 48: 1058-1064.	2012	小児アトピー性皮膚炎における食物アレルギーの役割を明らかにし、問題のあるアトピー性皮膚炎を持つ子供の食物アレルギーの診断とアプローチのための、合理的な枠組みを概説。		レビュー	-	文献検索
262	163	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Food allergy in atopic dermatitis: How, when and why do we test?	Gray CL et al	Curr Allergy Clin Immunol. 2014;27: 82 - 86	2014	アトピー性皮膚炎患者の食物アレルギー検査の選択、方法等に関するレビュー。		レビュー	-	文献検索

分類(代表項目・詳細項目)の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
263	193	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	The role of food allergy in atopic dermatitis	Hauk PJ	Curr Allergy Asthma Re p. 2008; 8: 188-94.	2008	アトピー性皮膚炎の子供における食物アレルギーの影響に関するレビュー。		レビュー	-	文献検索
264	467	キ	卵キ 乳キ	Genetics of food allergy.	Hong X et al	Curr Opin Pediatr, 200 9;21: 770-77 6.	2009	食物アレルギーの遺伝要因に関する最近の研究についてのレビュー。		レビュー	-	EFSA 意見書
265	470	キ	卵キ 乳キ	Update on risk factors for food allergy	Lack G et al	J Allergy Clin Immunol, 2012; 129: 1 187-1197.	2012	食物アレルギーを発症するリスク要因とメカニズムに関するレビュー。		レビュー	-	EFSA 意見書
266	518	キ	卵キ 乳キ	Update on early nutrition and food allergy in children	Lee SE et al	Yonsei Med J. 2016; 57: 542-548.	2016	妊娠中又は幼児期の栄養摂取と小児の食物アレルギー発症との関連性を調査するために蓄積された疫学研究のレビュー。		レビュー	-	文献検索
267	186	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Risk factors for food allergy	Rijksinstituut voor Volksgezondheid en Milieu bevordert de publieke gezondheid en een schoon en veilig leefmilieu : RIVM	RIVM Report 340007001 /2010 (http://www.rivm.nl/bibliotheek/rapporten/340007001.pdf)	2010	RIVM が実施した食物アレルギーの発症要因に関連する文献調査の結果。RIVM は微生物、環境毒性、食生活及び生活習慣が食物アレルギーの発症に及ぼす影響を調査。		レビュー	-	
268	472	キ	卵キ 乳キ	Food allergy: temporal trends and determinants.	Shoshan BM et al	Curr Allergy Asthma Re p,2012; 12: 346-372.	2012	食物アレルギーの有病率の経時的トレンド及び食物アレルギーの発症に関連する要因となる可能性のあるものについて考察している研究のレビュー。		レビュー	-	EFSA 意見書

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
269	706	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Advances in allergic skin disease, anaphylaxis, and hypersensitivity reactions to foods, drugs, and insects.	Sicherer SH et al	J Allergy Clin Immunol. 2005;116: 153-63.	2005	アナフィラキシー、食物、薬物及び昆虫などに対する過敏性反応、及びアレルギー性皮膚疾患について 2004 年に学術雑誌で報告されたいくつかの研究に焦点を当てたレビュー。		レビュー	-	文献検索
270	642	キ	卵キ 乳キ	エピジェネティクスの観点から可能性を探る	滝沢 琢己 他	日本小児アレルギー学会誌 2016; 30: 21-26	2016	エピジェネティクスのアレルギー疾患への関与に関するレビュー。		レビュー	-	医中誌 Web
271	705	キ	乳ウ 乳キ	Advances in allergic skin disease, anaphylaxis, and hypersensitivity reactions to foods, drugs, and insects	Sicherer SH et al	J Allergy Clin Immunol. 2006 ;118: 170-7	2006	アナフィラキシー、食物、薬物及び昆虫などに対する過敏性反応、及びアレルギー性皮膚疾患について 2005 年に学術雑誌で報告されたいくつかの研究に焦点を当てたレビュー。		レビュー	-	文献検索
272	97	キ	乳ウ 乳キ	Advances in allergic skin disease, anaphylaxis, and hypersensitivity reactions to foods, drugs, and insects in 2010	Sicherer SH et al	J Allergy Clin Immunol. 2011 ;127:326-35	2011	アナフィラキシー、食物、薬物及び昆虫などに対する過敏性反応、及びアレルギー性皮膚疾患について 2010 年に学術雑誌で報告されたいくつかの研究に焦点を当てたレビュー。		レビュー	-	文献検索
273	503	キ	乳オ 乳キ	Nutrition and allergic diseases	van Neerven RJJ et al	Nutrients. 2017;9: 762.	2017	栄養とアレルギー疾患の発症と、管理に関係する最近の進捗を総括。		レビュー	-	文献検索
274	536	キ	卵キ 乳キ	Food hypersensitivity in Mexican adults at 18 to 50 years of age: A questionnaire survey	Bedolla-Barajas M et al	Allergy Asthma Immunol Res. 2014 ;6: 511-6.	2014	メキシコの成人における食物過敏症の有病率、臨床的特徴、及び及び症状を引き起こす代表的食物について調査。	1,126 人を横断調査	原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
275	509	キ	卵キ 乳キ	Atopic dermatitis and disease severity are the main risk factors for food sensitization in exclusively breastfed infants	Carsten F et al	J Invest Dermatol. 2014;134: 345-350	2014	フィラグリンの突然変異の遺伝、皮膚バリアの障害及びアトピー性皮膚炎が、食物へのアレルギー性感作の素因となるかどうかを調査。食物感作とアトピー性疾患の重症度との間には強い関連性があった。	3ヵ月齢の乳児616人に対し、アトピー性皮膚炎及び疾患重症度(SCORアトピー性皮膚炎 SCORAD)を調査。	原著	-	文献検索
276	740	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Natural History of Food-Triggered Atopic Dermatitis and Development of Immediate Reactions in Children	Chang A et al	J Allergy Clin Immunol Pract.2016; 4: 229-36	2016	食物誘発性アトピー性皮膚炎を有する子供を対象に、再導入後の食物への即時反応性を調査。卵と牛乳が即時型反応を引き起こす一般的な食品であり、食品の回避は、その食品への食事反応を発症するリスクの増加と関連していた。		原著	-	委員推薦
277	708	キ	卵キ 乳キ	Incidence and risk factors for food hypersensitivity in UK infants: Results from a birth cohort study	Grimshaw KE et al	Clin Transl Allergy. 2016;26: 6:1.	2016	英国における食物過敏症の有病率やその発症に関する要因を出生コホート研究により調査。2歳までの食物過敏症の累積発生率を整理し、食物過敏症の予測因子として、喘息、母体のアトピー性疾患、妊娠期間の延長、固形物を摂取した際の年齢及び食事パターンを調査。		原著	DBPCFC	文献検索
278	173	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	IgE food sensitizations amongst children with Atopic Eczema	Ho MHK et al	HK J Paediatr. 2011;16: 155-163	2011	香港のアトピー性湿疹児における湿疹の重篤度とIgE依存性の食品感作との関連性を調査した横断研究。		原著	コホート	文献検索
279	570	キ	卵キ 乳キ	Transforming growth factor beta (TGFβ1) in breast milk and indicators of infant atopy in a birth cohort	Joseph CL et al	Pediatr Allergy Immunol. 2014; 25: 257-263	2014	乳児の食物タンパク質に対する免疫反応と母親の母乳中のTGFβ1レベルの関連を調査。		原著	コホート	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
280	181	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Prevalence and clinical impact of IgE-mediated food allergy in school children with asthma: A double-blind placebo-controlled food challenge study	Krogulska A et al	Allergy Asthma Immunol Res. 2015; 7:547-556.	2015	DBPCFC を実施し、喘息を有する就学児童における IgE 依存性食物アレルギーの有病率及び臨床的影響を評価。		原著	DBPCFC	文献検索
281	539	キ	卵キ 乳キ	SENSITIZATION PATTERN AND CLINICAL PECULARITIES OF FOOD ALLERGY IN GEORGIA	Lomidze N et al	Georgian Med News. 2016 ;253: 72-7	2016	ジョージアの異なる年齢群のアトピー患者における食物アレルギーに対する感作パターンを調査し、食物感作とアレルギーマーチとなるアレルギー疾患の臨床症状との関連性を評価。		原著	-	文献検索
282	248	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Point prevalence and risk factors for food allergy in a cohort of 386 children with atopic dermatitis attending a multidisciplinary dermatology/paediatric allergy clinic	Mailhol C et al	Eur J Dermatol. 2014; 24: 63-9.	2014	総合小児科アレルギークリニックに通院しているアトピー性皮膚炎を有する小児コホートにおける、食物アレルギーの有病率及び危険因子を調査。386 人の子供（男児 50.8%、年齢中央値 4 歳）を対象とした。	コホート研究	原著	コホート	文献検索
283	139	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Assessment of IgE-mediated food allergies in children with atopic dermatitis	Mavroudi A et al	Allergol Immunopathol (Madr). 2017;45:77-81	2017	アトピー性皮膚炎を持つ生後 3 ヶ月から 7 歳の小児の集団（58 名）において、臨床症状を伴う食物アレルギーの有病率を調査。アレルギー性は経口食物負荷試験で診断。26.13%で食物アレルギーが認められた。		原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
284	532	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Influence of early-life exposures on food sensitization and food allergy in an inner-city birth cohort	McGowan EC et al	J Allergy Cl in Immunol. 2015 ;135: 171-8.	2015	「都市環境及び小児喘息」出生コホートの子供を、生後5年間を通じて追跡調査。家庭でのばく露、食事、臨床歴、身体計測結果を毎年評価。食物アレルギーは1年目の反復性喘鳴、湿疹、空気アレルギー感作、男性性別、母乳摂取及び低エンドトキシンばく露と関連していた。	出生・5歳まで追跡調査を実施	原著	コホート	文献検索
285	554	キ	卵キ 乳キ	Changes in Food-Specific IgE Over Time in the National Health and Nutrition Examination Survey (NHANES)	McGowan EC et al	J Allergy Cl in Immunol Pract. 2016; 4:713-20	2016	1988年～1994年期から、2005年～2006年期までの期間で米国内の子供の食物アレルギーに対する感作性が増加したか、また、人種や民族で傾向が異なるか調査。牛乳及び卵アレルギーに感作に有意な差はみられなかった。	米国国民健康栄養調査 (NHANESIII : 1988-1994) の被験者の結成を用いている	原著	-	文献検索
286	557	キ	卵キ 乳キ	Racial/ethnic and socioeconomic differences in self-reported food allergy among food-sensitized children in National Health and Nutrition Examination Survey III	McGowan EC et al	Ann Allergy Asthma Immunol. 2016; 117: 570-572.	2016	米国国民健康栄養調査結果 (NHANESIII) を用いて、食物アレルギー患者の人種、民族、社会経済的な差異を調査。		原著	-	文献検索
287	741	キ	卵キ 乳キ	Randomized controlled trial of early regular egg intake to prevent egg allergy	Palmer DJ et al	J Allergy Cl in Immunol. 2017;139:1600-1607	2017	遺伝性のリスクを有するが湿疹のない幼児を対象に、4～6ヶ月児に卵タンパク質を定期的に摂取することにより特異的IgE依存性卵アレルギーの発症リスクを低下させるか検討。ランダム化比較試験を行い、12ヶ月齢で低温殺菌した卵を用いた食物負荷試験及び感作性を調査。	ランダム比較試験	原著	ランダム比較試験	委員推薦

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
288	491	キ	卵キ 乳キ	Randomized Trial of Introduction of Allergenic Foods in Breast-Fed Infants	Perkin MR et al	N Engl J Med 2016; 374:1733-1743	2016	母乳栄養乳児の食事へのアレルギー誘発性食品の早期導入が食物アレルギーの発症を予防するかどうか評価。	生後3ヶ月の乳児を対象に、3歳まで追跡。	原著	-	文献検索
289	733	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Natural history of food hypersensitivity in children with atopic dermatitis.	Sampson HA et al	J Pediatr. 1989;115: 23-7.	1989	アトピー性皮膚炎及び食物過敏症の患者を対象に、DBPCFCを繰り返し実施し、主要なアレルゲンに対する食物アレルゲンの損失率を測定した。これは食物アレルギーのフォローアップとして実施し、1年度に5つの主要アレルゲン（卵、乳を含む）の臨床過敏性が減少した。		原著	DBPCFC	文献検索
290	722	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Utility of food-specific IgE concentrations in predicting symptomatic food allergy.	Sampson HA	J Allergy Clin Immunol. 2001;107: 891-896.	2001	95%以上の確率で卵及び乳の臨床反応性を予測することができる食品別の特異的IgE濃度の有用性を評価。子供及び青年100人の血清を用いて検討、血清中の特異的IgE濃度を定量化することができた。よって食物アレルギーの診断に有効であることを示唆された。		原著	-	文献検索
291	206	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	The natural history of egg allergy in an observational cohort	Sicherer SH et al	J Allergy Clin Immunol. 2014; 133:492-499.	2014	乳児を対象に卵アレルギーの発症までの経過を記述し、早期予後マーカーを調査。3-15ヶ月齢の子供を対象としたコホート研究を実施。卵アレルギーのコホートは213人の子供から成る。卵アレルギーは、中央値72カ月齢で105人（49.3%）の子供で解消された。多変量解析により、ベースラインの卵特異的IgEレベル及び初期反応特性が、分解能力と強く関連していることが確認された。	3-15ヶ月の乳児を対象に皮膚検査及び追跡調査を実施	原著	コホート	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
292	653	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Food allergy and asthma morbidity in children	Simpson AB et al	Pediatr Pulmonol. 2007; 42:489-495.	2007	卵、牛乳、魚、及びピーナッツへのアレルギーが、喘息の小児における入院回数と、全身性ステロイド薬の利用回数に与える影響をそれぞれのアレルギー別に調査。		原著	-	文献検索
293	559	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Low Food Allergy Prevalence Despite Delayed Introduction of Allergenic Foods-Data from the GUSTO Cohort	Tham EH et al	J Allergy Clin Immunol Pract. 2017; 19	2017	「健康に向けたシンガポール発育研究」(Growing Up in Singapore Towards healthy Outcome, GUSTO) 研究において、アレルギー誘発性食品の導入時期と幼児の食物アレルギーとの関連性を調査。	アジア人(中国人、マレー人、インド人)を対象に検証	原著	コホート	文献検索
294	185	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Recurrent reactions to food among children at paediatric emergency departments: Epidemiology of Allergic Disease	Vetander M et al	Clin Exp Allergy. 2014; 44: 113-120.	2014	食物アレルギーにより小児緊急医療部門に来院したことのある子供について、食物アレルギー反応による来院再発の発生頻度と考えられるリスク要因について調査。	調整された Cox 比例ハザードモデルを使用	原著	-	文献検索
295	172	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	IgE antibody responses in young children with atopic dermatitis	Wahn U et al	Pediatr Allergy Immunol. 2008; 19: 332-6.	2008	アトピー性皮膚炎の子供 2,184 名を対象に食物アレルギーに対する血清 IgE 抗体を調査。陽性 IgE 反応の頻度は疾患の重篤度に関連していることを示唆。		原著	-	文献検索
296	530	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Food allergy and related risk factors in 2540 preschool children: an epidemiological survey in Guangdong Province, southern China	Zeng GQ et al	World J Pediatr. 2015; 11: 219-25	2015	中国南部の広東省における未就学児童の食物アレルギーの有病率、臨床症状、アレルギーの種類、及び FA に関連する危険因子を調査。	広東省の 12 都市から 24 の幼稚園を選択、児童の保護者にアンケート調査を実施	原著	-	文献検索
297	516	キ	卵キ 乳キ	Prevalence of IgE mediated cow's milk and egg allergy in children under 2 years of age in Sanliurfa, Turkey: The city that isn't almost allergic to cow's milk	Zeyrek D et al	Minerva Pediatr. 2015, 67: 465-72	2015	皮膚プリックテスト及び経口食物負荷試験の結果に基づいて、牛乳及び卵アレルギーの頻度を推定。		原著	-	文献検索

分類(代表項目・詳細項目)の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
298	681	キ	卵キ 乳キ	乳児アトピー性皮膚炎における食物アレルギーの検討 卵白抗原について	芦澤 かがり 他	アレルギー 2003;52:999-1005.	2003	アトピー性皮膚炎 370 例を対象に食物アレルギーの関与を卵白抗原で検討した。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
299	644	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	乳幼児のアレルギー疾患発症に関する疫学的研究	稲田浩 他	日本小児アレルギー学会誌 2001; 15: 534-539	2001	保健所をフィールドに、乳幼児アレルギー疾患の発症頻度、危険因子、及びアレルギーマーチの実態について検討するため、前向きコホート研究を実施。	日本人を対象	原著	コホート	医中誌 Web
300	677	キ	卵キ 乳キ	遷延する食物アレルギーの検討	今井 孝成 他	アレルギー 2007 ;56 :1285-1292	2007	食物アレルギーの耐性獲得因子について調査。アトピー性皮膚炎病歴、アナフィラキシーショック既往歴等と関連があることが示唆された。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
301	679	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	小児アレルギー疾患におけるアレルギー感作の全国調査	西間 三馨 他	日本小児アレルギー学会誌 2006 ;20 :109-118	2006	小児アレルギー疾患患者 589 例を対象に、近年問題となっている 35 種類のアレルゲンに対する特異的 IgE 抗体を測定し、これらのアレルギー感作を年齢別、疾患別に検討。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
302	573	キ	卵キ	Persistent Food Allergy and Food Allergy Coexistent with Eczema Is Associated with Reduced Growth in the First 4 Years of Life	Beck C et al	J Allergy Clin Immunol. 2016; 4 :248-256.	2016	IgE 依存性の食物アレルギーと湿疹との関連を 1 歳と 4 歳の身体測定と比較。		原著	コホート	文献検索
303	220	キ	卵ウ 卵キ	Egg allergy in patients over 14 years old suffering from atopic eczema	Celakovská J et al	Int J Dermatol. 2011; 50:811-818.	2011	アトピー性湿疹に罹患した 14 歳以上の患者における卵アレルギーの存在を評価することであり、特に卵アレルギーがアトピー性湿疹の経過を悪化させるかどうかを評価。		原著	-	文献検索
304	578	キ	卵ウ 卵キ	Food allergy in South African children with atopic dermatitis	Gray CL et al	Pediatr Allergy Immunol. 2014 ;25: 572-9.	2014	アトピー性皮膚炎を有する南アフリカの乳児における IgE 依存食物アレルギーの有病率及び危険因子を調査。		原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
305	574	キ	卵ウ 卵キ	Egg sensitization, allergy and component patterns in African children with atopic dermatitis	Gray CL et al	Pediatr Allergy Immunol. 2016 ;27: 709-715.	2016	南アフリカのアトピー性皮膚炎を有する小児における卵アレルギーの有病率、アレルゲンコンポーネントのパターン及び卵アレルギーのスクリーニング検査の予測値を検討。		原著	-	文献検索
306	576	キ	卵キ	Which infants with eczema are at risk of food allergy? results from a population based study	Martin PE et al	Clin Exp Allergy. 2015 ; 45: 255-64.	2015	一般母集団の湿疹のある幼児において、負荷試験で証明される食物アレルギーのリスクについて解析。湿疹のある乳児はアレルギーを発症するリスクが高いことを示唆。		原著	-	文献検索
307	412	キ	卵ウ 卵キ	The natural history and clinical predictors of egg allergy in the first 2 years of life: A prospective, population-based cohort study	Peters RL et al	J Allergy Clin Immunol. 2014; 133: 485-491.	2014	卵アレルギーの自然経過を評価し、一般集団に基づくコホートにおける持続性の卵アレルギーの臨床予測因子を検討。		原著	コホート	Stephanie A. Leonard (2016)
308	224	キ	卵ウ 卵キ	Epidemiology of atopy patch tests with food and inhalant allergens in an unselected population of children.	Ronchetti R et al	Pediatr Allergy Immunol, 2008;19: 599-604.	2008	無作為抽出の児童グループを対象として、食物アレルギーあるいは吸入アレルギーに対するアトピーパッチテスト陽性率を評価。また、食物アレルギーあるいは吸入アレルギーについてアトピーパッチテスト陽性の反応と皮膚プリックテスト、循環血液中の好酸球数、ヒスタミン皮膚反応との関連を評価。対象はイタリアローマに住む9又は13歳の380人の子供。		原著	-	EFSA 意見書
309	239	キ	卵ウ 卵キ	The natural history of egg allergy.	Savage JH et al	J Allergy Clin Immunol, 2007;120: 1413-1417.	2007	卵アレルギーを発症する卵アレルギーの子供の割合を推定し、耐性発達の予測因子を検討。高IgE患者は寛解しないことを示唆。		原著	コホート	EFSA 意見書

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文 献 名	著 者 名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文 献 概 要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
310	572	キ	卵キ	First study of pattern of anaphylaxis in a large tertiary care hospital in Saudi Arabia	Sheikh F et al	Asia Pac Allergy. 2015 ; 5:216-21.	2015	サウジアラビア王国リヤドの大型の三次医療病院においてアナフィラキシーの治療を受けた患者の兆候、症状、原因、背景情報パターンについて検討。	成人と子供にわけ、調査を実施	原著	-	文献検索
311	742	キ	卵ウ 卵キ	A randomized trial of egg introduction from 4 months of age in infants at risk for egg allergy	Wei-Liang Tan J et al	J Allergy Clin Immunol. 2017; 139: 1621-1628	2017	アレルギーのリスクのある乳幼児で、月齢4か月から6か月までの間に食事への卵の導入が、卵への感作を低下させる効果があるか否かを評価。		原著	ランダム比較試験	委員推薦
312	645	キ	卵ウ 卵キ	卵白未摂取アトピー性皮膚炎乳幼児に対するオボムコイド減量加熱全卵ベビーフードの安全性	犬尾 千聡 他	日本小児アレルギー学会誌 2017; 31: 135-140	2017	オボムコイドを減量した加熱全卵を含むベビーフードのアトピー性皮膚炎の乳幼児に対する安全性を評価。	横断調査、日本人を対象	原著	-	医中誌Web
313	688	キ	卵キ	妊娠中/授乳中の母親の鶏卵摂取が乳児期の感作へ与える影響についての検討	渋谷 紀子 他	日本小児アレルギー学会誌 2015; 29: 701-708.	2015	乳児への卵白抗原感作の機序を明らかにするため、妊娠中から生後早期の母親の鶏卵摂取量及び母乳量を調査し、児の感作と食物アレルギー発症への影響を検討。	日本人を対象	原著	コホート	医中誌Web
314	668	キ	卵ウ 卵キ	鶏卵アレルギー経口負荷試験結果を予測する因子について：病院とクリニックにおける負荷試験症例比較による解析	杉本 真弓 他	日本小児アレルギー学会誌 2013 ;27 :188-195,	2013	病院とクリニックでアレルギー専門医が実施した経口食物負荷試験結果を比較することにより、経口食物負荷試験の結果を予測する因子を検討。	日本人を対象	原著	-	医中誌Web
315	525	キ	乳キ	Prevalence of cow's milk allergy in children under 3 years of age in Constantine (Algeria)	Boughellout H et al	Rev Fr Allergol. 2015; 55:288-292	2015	アルジェリアのコンスタンティン地方の小児集団を対象に、牛乳タンパク質アレルギーの有病率を推定。また、このアレルギー発症に関連した様々な危険因子も研究	フランス語	原著	-	文献検索
316	209	キ	乳ウ 乳キ	Food dependant exercise induced anaphylaxis a retrospective study from 2 allergy clinics in Colombo, Sri Lanka	de Silva NR et al	Allergy Asthma Clin Immunol. 2015; 11: 22.	2015	2011年から2015年の間に、スリランカの2ヶ所のアレルギークリニックを受診した食物依存性運動誘発アナフィラキシー患者についての後ろ向き研究。		原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
317	551	キ	乳キ	Early-life antibiotic use and subsequent diagnosis of food allergy and allergic diseases	Hirsch AG et al	Clin Exp Allergy. 2017; 47: 236-244	2017	生後初期での抗生物質の使用と、その後の食物アレルギー発症及び幼児期でのその他のアレルギー発症との関連性を、電子的診断記録データを用いて評価。	7歳までの30,060人を調査。	原著	-	文献検索
318	493	キ	乳キ	Cohort Profile: Melbourne Atopy Cohort study (MACS)	Lowe AJ et al	Int J Epidemiol. 2017; 46:25-26.	2017	メルボルンのアトピー・コホート研究。アレルギー性疾患（湿疹、食物アレルギー、喘息及びアレルギー性鼻炎）の自然経過、原因及び結果に焦点を当てており、計620名の子供の状態と家族履歴を長期にわたり調査。	J Allergy Clin Immunol 2011;128:360-65.、J Pediatr 2014;164:289-94 e1-2.、MACSの文献	原著	コホート	文献検索
319	486	キ	乳キ	Prevalence of adverse reactions following a passed oral food challenge and factors affecting successful re-introduction of foods. A retrospective study of a cohort of 199 children	Miceli Sopo S et al	Allergol Immunopathol (Madr). 2016; 44: 54-8.	2016	経口食物負荷試験パス後に対象食物の食事を再導入することに関し、その安全性を評価。		原著	コホート	文献検索
320	106	キ	乳ウ 乳キ	Eosinophilia as a predictor of food allergy in atopic dermatitis	Noh G. et al	Allergy Asthma Proc. 2010 ;31: 18-24.	2010	アトピー性皮膚炎において食物アレルギーとしての遅発性湿疹反応の予測因子として、好酸球増加の臨床的意義を調査。		原著	-	文献検索
321	721	キ	乳キ	Evaluation of the presence of bovine proteins in human milk as a possible cause of allergic symptoms in breast-fed children.	Restani P et al	Ann Allergy Asthma Immunol. 2000;84: 353-360.	2000	母乳中のウシタンパクの存在を評価したが、母乳中のウシタンパクの存在を確認できなかった。		原著	-	No.301 と同著者によるもの
322	115	キ	乳ウ 乳キ	Maintenance of tolerance to cow's milk in atopic individuals is characterized by high levels of specific immunoglobulin G4.	Ruiter B et al	Clin Exp Allergy,2007; 37: 1103-1110.	2007	種々の年齢グループのアレルギー、アトピー、非アトピーの個人を対象とした牛乳へのアレルギーと耐性に関する抗体反応の差異を分析。年代によって反応するアレルギーが異なることが示唆された。	血漿中のIgEレベルを測定。	原著	-	EFSA 意見書

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
323	127	キ	乳ウ乳キ	The natural history of IgE-mediated cow's milk allergy.	Skripak JM et al	J Allergy Clin Immunol, 2007;120: 1172-1177.	2007	牛乳アレルギーの自然経過を定義するとともに、牛乳アレルギーを持つ子供の大規模な参照母集団中に存在する、転帰を最もよく予測する因子を検討。経口免疫療法後も症状が残った患者では喘息やアレルギー性鼻炎を持つ割合が有意に高いことが示された。		原著	-	EFSA 意見書
324	128	キ	乳ウ乳キ	The natural history of milk allergy in an observational cohort.	Wood RA et al	J Allergy Clin Immunol, 2013; 131: 805-812.	2013	牛乳アレルギーを有する子供 293 名のコホート研究。経口免疫療法実施後の寛容状況を追跡、寛容に与える要因を分析。アトピー性皮膚炎への罹患が影響を与えることを示唆している。		原著	コホート	EFSA 意見書
325	640	キ	乳キ	乳清部分加水分解乳によるアレルギー発症予防効果の検討	秋本 憲一 他	アレルギー. 1997; 46: 1044-1051	1997	乳児期の乳清部分加水分解乳（ネスレ ナン・エイチ・エー）の飲用によるアレルギー発症予防効果を検討。アトピー性皮膚炎発症を予防する可能性が示唆された。	比較試験、日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
326	629	キ	乳ア乳キ	日本人牛乳アレルギー児における好塩基球活性化試験を用いたβ-カゼインの即時型アレルギー性についての検討	伊藤 靖典 他	アレルギー 2014; 63: 1330-1337	2014	日本人牛乳アレルギー患者におけるβ-カゼインの即時型アレルギー性について検証。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
327	751	キ	乳キ	ヨーグルト・乳酸菌飲料摂取によるアレルギーの発症抑制	榎本 雅夫 他	アレルギー 2006; 55: 1394-1399	2006	和歌山県下の中学 1 年生を対象に、ヨーグルトや乳酸菌飲料、納豆の摂取習慣と血清総 IgE 値、特異的 IgE 抗体量、各種アレルギー疾患の有無について調査。		原著	-	医中誌 Web

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文 献 名	著 者 名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文 献 概 要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
328	637	キ	乳ウ 乳キ	遷延する牛乳アレルギーの予 後に関する因子の検討	高岡有理 他	アレルギー. 2010; 59: 15 62-1571	2010	牛乳アレルギー児の予後とそれ に関連する因子を検討。牛乳ア レルギーと診断され2歳未満で耐性 を獲得しなかった幼児60名を対 象に、5歳未満における少量の牛 乳の摂取可否と関連する因子を 後ろ向きに調査。	原著、日本人を 対象	原著	-	医中誌 Web
329	589	ク	卵ク 乳ク	Food production and processing considerations of allergenic food ingredients: A review	Alvarez PA et al	J Allergy (C airo). 2012; 2012: 74612 5.	2012	食品表示の重要性とアレルギー の検出方法に関する総論。		レビュー	-	文献検索
330	746	ク	卵ク 乳ク	Development and evolution of risk assessment for food allergens	Crevel RW et al	Food Chem Toxicol. 201 4; 67: 262-2 76	2014	食物アレルギーのリスク評価に 関する総論。集団レベルでの反 応リスクを定量化することを可 能としたMEDの投与量分布モデル と確率的リスク評価アプローチ の、長所及び限界を説明。モデ ルを適用することで得られた洞 察を報告。	Invited Review	レビュー	-	食品安全 委員会推 薦
331	592	ク	卵ク 乳ク	Risk factors for the development of egg allergy: Progress to date and future directions	Nwaru BI et al	Allergy.2012; 67:1325-132 6	2012	乳幼児の卵アレルギー発現につ いて環境面及び背景属性面での リスク要因を調査することを目 的とした研究のレビュー。		レビュー	-	文献検索
332	593	ク	卵ク 乳ク	What's new in the diagnosis and management of food allergy in children?	Turner PJ et al	Asia Pac All ergy.2013; 3: 88-95.	2013	子供のIgE依存性食物アレルギー の診断及び管理における最近の 進捗を概説。		レビュー	-	文献検索
333	580	ク	乳ク	Advisory food labels: Consumers with allergies need more than "traces" of information	Turner PJ et al	BMJ. 2011; 343: d6180.	2011	アレルギー反応を引き起こす可 能性がある食品の表示の安全性 に関するレビュー。		レビュー	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文 献 名	著 者 名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文 献 概 要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
334	607	ク	卵ク 乳ク	Food Industry Guide to Allergen Management and labelling	Australian Food & Grocery Council	以下の URL からガイドラインを入手可能。 http://allergenbureau.net/wp-content/uploads/2013/11/Allergen_Guide_2007.pdf	2007	オーストラリア及びニュージーランドの食品規格コードで規制されているアレルギー性食品の管理・表示に関するガイドライン。		公的機関 資料	ガイドラ イン	
335	608	ク	卵ク 乳ク	Guidelines on Additional Labelling Regarding the Potential Presence of Allergens Due to Cross-contamination	Federatie Nederlandse Levensmiddelen Industrie (FNLI)	以下の URL からガイドラインを入手可能。 http://www.foodnet.cz/soubor.php?id=8822&kontrola=cc5b669a8448bca8c133de00d93d65&foodnet=451e70a5	2005	EU の表示法、HACCP 分析で考慮すべき点、及びアレルギーに関するアドバイザリー声明を網羅したガイドライン。		公的機関 資料	ガイドラ イン	
336	606	ク	卵ク 乳ク	The VITAL® Program	The Allergen Bureau's	以下の URL から関連情報を取得可能。 http://allergenbureau.net/vital/	ー	オーストラリアのアレルゲン局のラベリングシステム。製造者は製品のアレルゲン成分や処理条件を見直すことができる。		公的機関 資料	アレルギー 表示	

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
337	610	ク	卵ク 乳ク	REGULATIONS AMENDING THE FOOD AND DRUG REGULATIONS (1220 - ENHANCED LABELLING FOR FOOD ALLERGEN AND GLUTEN SOURCES AND ADDED SULPHITES)	Health Canada	以下の URL からガイドラインを入手可能。 http://gazette.gc.ca/rp-pr/p2/2011/2011-02-16/html/sor-dors28-eng.html#archived	2011	カナダのアレルゲン物質又はグルテンの表示に関する規制。	HP の URL	公的機関資料	アレルギ一表示	
338	612	ク	卵ク 乳ク	アレルギ一表示に関する情報	消費者庁食品表示規格課	消費者庁 アレルギ一表示に関する情報 (http://www.caa.go.jp/foods/index8.html)	2013	アレルギ一表示に関する情報。	消費者庁 HP	公的機関資料	アレルギ一表示	消費者庁 HP
339	604	ク	卵ク 乳ク	食品表示基準について (平成 27 年 3 月 30 日消食表第 139 号) 別添 添加物関係	消費者庁	日本	2015	添加物の一覧表。品名、基原・製法・本質、用途などの一覧。		公的機関資料	添加物リスト	
340	468	ク	卵ク 乳ク	Guidelines for the diagnosis and management of food allergy in the United States: summary of the NIAID- Sponsored Expert Panel Report	Boyce JA et al	J Allergy Clin Immunol 2010; 126: 1105-1118.	2010	米国における、食物アレルギーの診断と管理のためのガイドライン		原著	-	EFSA 意見書
341	180	ク	卵ク 乳ク	Predictive values for food challenge-induced severe reactions: Development of a simple food challenge score	Cianferoni A et al	Isr Med Assoc J. 2012 ; 14:24-8.	2012	経口食物負荷試験に対する重度の反応のリスクを予測するために、皮膚プリックテスト、食物特異的 IgE レベル及び臨床歴を考慮するスコアを作成。	卵、牛乳、ピーナッツに経口食物負荷試験を受けた子供 983 例について、5 年間の追跡調査を行った。	原著	-	文献検索

分類 (代表項目・詳細項目) の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文 献 名	著 者 名	書誌情報(雑 誌名・掲載 号・頁)	発行年	文 献 概 要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
342	232	ク	卵ク 乳ク	Primary Prevention of Allergic Disease Through Nutritional Interventions.	Fleischer DM et al	J Allergy Cl in Immunol Pract. 2013; 1: 29-36	2013	米国の喘息・免疫学会がアレルギー疾患の一次予防に関する推奨事項を作成。		原著	-	EFSA 意見書
343	439	ク	卵ク 乳ク	Allergic consumers' information and food labelling: News	Kanny G et al	Rev Fr Allergol .2015;55:483-491	2015	アレルギー表示に関する国際的な動向、情報について報告。		原著	-	文献検索
344	743	ク	卵ク 乳ク	An Australian Consensus on Infant Feeding Guidelines to Prevent Food Allergy: Outcomes From the Australian Infant Feeding Summit	Netting MJ et al	J Allergy Cl in Immunol Pract. 2017 5:1617-1624.	2017	オーストラリアで開催された乳幼児用食品に対するサミットでの審議事項とその結果。		原著	-	委員推薦
345	595	ク	卵ク	Survey of undeclared egg allergen levels in the most frequently recalled food types (including products bearing precautionary labelling)	Khuda SE et al	Food Addit Contam. 2016; 33: 1265-73.	2016	未表示のアレルゲンに関する多数のリコールは、通常ベーカーリーやスナック食品に関連していることから、これら多数の製品における卵アレルギーの検出頻度を、2種類の ELISA を用いて決定。アレルギーの検出方法と適切なアレルギー表示が消費者のリスク軽減に重要な役割を果たしていることを示唆。	パンやスナック中のアレルギー物質（卵タンパク質等）を測定。	原著	-	文献検索
346	594	ク	卵ク	Precautionary allergen labelling following new labelling practice in Australia	Zurzolo GA et al	J Paediatr Child Health. 2013 ;49: 306-10.	2013	一般的な食物アレルギーを対象に、当該アレルギーが成分として挙げられていない製品パッケージについて、これらの食物アレルギーに関する注意表記の内容の普及率と種類を評価するとともに、オーストラリアで開発された新たなリスク管理ツールである Voluntary Incidental Trace Allergen Labelling 「偶発的痕跡量アレルギーに関する自主表示」の実施状況を調査。		原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルギー性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文 献 名	著 者 名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文 献 概 要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
347	25	ク	乳ア 乳ウ 乳ク	Evaluation of scientific criteria for identifying allergenic foods of public health importance	van Bilsen JH et al	Regul Toxicol Pharmacol. 2011; 60: 281-9.	2011	刊行された研究報告に基づき、提案された、公衆衛生上重要なアレルギー誘発性食品の同定に関する基準の適用について評価。	公的資料、データベースをもとに検討。	原著	-	文献検索
348	602	ケ	卵ケ 乳ケ	哺乳類の進化	遠藤秀樹 著	東京大学出版会 出版	2002	哺乳類の系譜を形態学、古生物学、遺伝学、生態学の観点から整理。	書籍	書籍	-	
349	600	ケ	卵ケ 乳ケ	世界家畜品種事典	正田 陽一 監修、畜産技術協会 編集	東洋書林 出版	2006	世界の主要な家畜約 1,000 種を紹介。原産地や遺伝的特性、性能、主な生息地域などを詳説。	書籍	書籍	-	
350	603	ケ	卵ケ 乳ケ	品種改良の世界史 家畜編	正田 陽一 編著、松川 正、伊藤 晃、楠瀬 良、角田 健司、天野 卓、三上 仁志、田名部 雄一 著	悠書館 出版	2010	改良品種がつくられた時代背景と品種成立による社会への影響を述べている。	書籍	書籍	-	
351	597	ケ	卵ケ 乳ケ	COMMISSION REGULATION (EU) No 1129/2011	EU	以下の URL から文書入手可能。http://eur-lex.europa.eu/legal-content/EN/ALL/?uri=CELEX%3A32011R1129	2011	EU が定める使用が認可された食品添加物に関する規制及び添加物のリスト。		公的機関資料	添加物リスト	

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
352	598	ケ	卵ケ 乳ケ	Food Additive Status List	FDA	以下の URL から関連情報を取得可能。 https://www.fda.gov/Food/IngredientsPackagingLabeling/FoodAdditivesIngredients/ucm091048.htm	2017	21 CFR に従い、添加物をアルファベット順に整理したリスト。		公的機関資料	添加物リスト	
353	599	ケ	卵ケ 乳ケ	The Australia New Zealand Food Standards Code	FSANZ	オーストラリア、ニュージーランド	2017	Standard 1.1.1 及び 1.1.2-11(3) で食品添加物を定義しており、Schedule 16 には食品添加物として使用することができる物質の種類が記載されている。		公的機関資料	添加物リスト	
354	601	ケ	卵ケ 乳ケ	別紙 1 特定原材料等由来の食品添加物についての表示例	消費者庁	日本	2015	食品表示法に基づき、表示すべき添加物のリスト。		公的機関資料	添加物リスト	
355	273	ケ	乳オ 乳ケ	A Limited Survey of Dark Chocolate Bars Obtained in the United States for Undeclared Milk and Peanut Allergens	Bedford Bet al	J Food Prot. 2017 ;80: 692-702	2017	カカオ分 88%、78%のダークチョコレート・バーにおける未表示の牛乳とピーナッツの含有状況を調査。		原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

4.3 除外文献等のリスト

3.3 で検索及びリストアップされたものの、3.4において抽出されなかった文献は、表 4-3 に示す通りである。

表 4-3 除外文献等

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
356	22	ア	卵ア 乳ア	臨床アレルギー学 第3版	宮本 明正 監修 牧野莊 平、馬場實、 奥田稔、廣瀬 俊一、伊藤幸 治、中川武正 編集	南江堂 出版	2007	疫学、アレルギー学の基礎、アレルギー疾患の臨床、さらには自己免疫疾患、免疫異常による疾患までの広範な領域をカバー。今改訂では基礎・臨床ともに最新の知見を追加。		書籍	-	
357	21	ア	卵ア 乳ア	総合アレルギー学 第2版	福田 健 編	南山堂 出版	2010	アレルギー疾患診療に携わる全科の医師向けの診療実用書の改訂2版。		書籍	-	
358	149	ア	卵ア 卵ウ 乳ア 乳ウ	Differentiating food allergies from food intolerances	Guandalini S et al	Curr Gastroenterol Rep. 2011;13:426-34	2011	IgE 依存性、非 IgE 依存性など様々なタイプの食物に起因するアレルギーや免疫疾患に関するレビュー。		レビュー	-	文献検索
359	33	ア	卵ア	Systematized contact dermatitis and montelukast in an atopic boy	Castanedo-Tardan MP et al	Pediatr Dermatol. 2009; 26:739-43.	2009	9歳の白人男児の症例報告。人工甘味料のアスパルテームの代謝より生成されたアルデヒドと全身接触性皮膚炎との関連。		原著	症例報告	文献検索
360	26	ア	卵ア	An Inactivated Cell-Culture Vaccine against Yellow Fever	Monath TP et al	N Engl J Med. 2011;364:1326-33	2011	黄熱病の生ワクチンのアレルギー性を調査。		原著	DBPCFC	文献検索
361	32	ア	卵ア	Molecular and immunological characterization of β 1-component (Onc k 5), a major IgE-binding protein in chum salmon roe	Shimizu Y et al	Int Immunol. 2014;26:139-47.	2014	鮭が持つ β 1'-component (Onc k 5) に対して構造情報及び免疫学特性を調査。		原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
362	34	ア	卵ア	The human skin/chick chorioallantoic membrane model accurately predicts the potency of cosmetic allergens	Slodownik D et al	Exp Dermatol. 2009 Apr;18(4):409-13.	2009	アレルギー性接触皮膚炎の感作性をヒトの皮膚細胞を用いて定量化できるか調査。美容アレルギーに対する接触性皮膚炎の感作性をヒト皮膚細胞を移植したヒヨコ卵の漿尿膜で調査。		原著	-	文献検索
363	28	ア	卵ア	Comparison between ovalbumin and ovalbumin peptide 323-339 responses in allergic mice: Humoral and cellular aspects	Sun LZ et al	Scand J Immunol. 2010;71:329-35	2010	オボアルブミンのペプチドであるOVA323-339とオボアルブミンの影響を比較。OVA323-339はOオボアルブミンでは免疫応答に違いがあることが示唆されたが、オボアルブミンのエピトープはOVA323-339だけではないことも示している。		原著	-	文献検索
364	1	ア	乳ア	Eliciting Th1 immune response using casein (Alpha S1)-loaded Dendritic Cells	Daneshmandi S et al	Iran J Allergy Asthma Immunol. 2017;16:159-168.	2017	マウスを用いてカゼインを負荷したDC（樹状細胞）の効力を評価。カゼインを負荷したDCは、リンパ球の増殖を誘導し、多量のIFN- γ と、ある程度のIL-10、TGF- β を産生するように刺激するが、IL-4分泌は誘導しない。	動物実験	原著	-	文献検索
365	6	ア	乳ア	Identification of a serine protease as a major allergen (Per a 10) of Periplaneta americana	Sudha VT et al	Allergy. 2008;63:768-76.	2008	ゴキブリアレルギーのタンパク質分解活性、アレルギー性を特定することを目的として、ゴキブリから単離されたプロテアーゼに、酵素結合免疫吸着アッセイ、免疫ブロット、皮内試験等を実施しその特性を評価。		原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
366	9	ア	乳ア 乳キ	Sensitising capacity and allergenicity of enzymatically cross-linked sodium caseinate in comparison to sodium caseinate in a mouse model for cow's milk allergy	van Esch BC et al	Toxicol Lett. 2013;218:50-55	2013	食品の粘度増加のために利用されるトランスグルタミナーゼ架橋カゼイン塩が牛乳アレルギーに与える影響を、マウスを用いて調査。結果としてトランスグルタミナーゼ架橋カゼイン塩は牛乳アレルギーには影響を与えないとしている。	動物実験	原著	-	文献検索
367	59	イ	乳イ	Mammalian milk allergy: clinical suspicion, cross-reactivities and diagnosis.	Jarvinen KM et al	Curr Opin Allergy Clin Immunol. 2009; 9: 251-258.	2009	牛乳アレルギーの診断及び他の哺乳類動物種の乳のアレルゲンについての知見を述べている。レビュー文献であり、牛乳アレルギーの診断方法や治療法、ヒツジとヤギとの間に交差性があること、馬とロバとは交差性は低いことなどが述べられている。		レビュー	-	EFSA 意見書
368	281	イ	卵イ 卵キ 乳イ 乳キ	Can cross-allergic reactions to food antigens be the cause of recurrent pancreatitis in children with food allergies?	Subbotina OA et al	Vopr Pitan. 2014;83:55-60.	2014	食物アレルギーを持つ28名子供を対象に、アレルギー児童での膵炎再発に関しての食物アレルギー食材と交差性を持つ薬剤の摂取の関係を調査。	https://www.atgchecker.com/pubmed/25059057	原著	-	文献検索
369	634	イ	卵ア 卵イ 乳ア 乳イ	食物アレルギーにおけるアレルゲンの特徴	下条直樹	アレルギー 2007;56:445-449	2007	牛乳及び鶏卵の食物タンパク質について、アレルゲンの特長について考察、食物以外のたんぱく質との交差性に関する動向を報告		原著	-	医中誌Web
370	89	イ	卵イ	Immunochemical characterization of edible bird 's nest allergens.	Goh DL et al	J Allergy Clin Immunol. 2001; 107: 1082-1088.	2001	ツバメの巣が持つアレルゲンの免疫科学的特性を調査。		原著	-	EFSA 意見書

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
371	51	イ	乳イ	Early-Childhood Membranous Nephropathy Due to Cationic Bovine Serum Albumin	Debiec H et al	N Engl J Med 2011; 364:2101-2110	2011	特発性膜性腎症と二次的な膜性腎症に関与する抗原の性質を調査。膜性腎症の患者 50 例及び対照 172 例から得られた血清と、ウシ血清アルブミン及びウシ血清アルブミンに対する抗体を用いてイムノブロットを実施。	陽イオン性ウシ血清アルブミンがアニオン性糸球体毛細管壁への結合及び免疫複合体の in situ 形成を介して病原性であることを示唆。	原著	-	文献検索
372	65	イ	乳イ	Position document: IgE-mediated cow's milk allergy	Martorell-Aragonés A et al	Allergol Immunopathol (Madr). 2015;43:507-26.	2015	牛アレルギーを持つ患者を管理するための推進事項を報告。臨床での情報、診断方法について述べている。		原著	-	文献検索
373	95	ウ	卵ウ 乳ウ	What is the prevalence of food allergy in New Zealand?	Allergy new zealand	以下の URL より報告書を取得可能。http://www.allergy.org.nz/site/allergynz/What%20is%20the%20prevalence%20of%20food%20allergy%20in%20New%20Zealand.pdf	2010	ニュージーランドの食物アレルギーに関する総論。乳・卵アレルギーに関する言及部分は少なく、内容も一般的な知見に留まる。		レビュー	-	
374	162	ウ	卵ウ 乳ウ	Food allergy in adolescence and adulthood	Ballmer-Weber BK et al	Chem Immunol Allergy. 2015;101:51-8	2015	青年期から成人にかけての食物アレルギー反応についての総論。		レビュー	-	文献検索
375	189	ウ	卵ウ 乳ウ	Serological IgE Analyses in the Diagnostic Algorithm for Allergic Disease	Hamilton RG et al	J Allergy Clin Immunol Pract. 2015; 3:833-40.	2015	アレルギー疾患を特定する IgE レベルについての総論。		レビュー	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
376	192	ウ	卵ウ 乳ウ	The changing CARE for patients with food allergy	Jones SM et al	J Allergy Clin Immunol. 2013;131:3-11.	2013	臨床ケア、アドボカシー、研究、及び教育を含む、食物アレルギーを有する患者へのケアを改善する食物アレルギーへの全体的なアプローチに関するレビュー		レビュー	-	文献検索
377	207	ウ	卵ウ 卵力 乳ウ 乳力	The Use of Omalizumab in Food Oral Immunotherapy	Labrosse R et al	Arch Immunol Ther Exp (Warsz). 2017;65:189-199.	2017	これまでの研究をレビューし、オマリズマブが有効とされた経口免疫療法に関連する潜在的な利点と問題について検討。オマリズマブ（抗IgE抗体薬）併用による食物アレルギーの経口免疫療法。		レビュー	-	文献検索
378	164	ウ	卵ウ 乳ウ	Food allergy in children: Focus on IgE-mediated food allergy	Lee SY et al	J Korean Med Assoc. 2017;60:242-248.	2017	食物アレルギーの発症機序、有病率、共通する原因となる食品、診断と管理の詳細な概要を紹介し、韓国の乳幼児の一般的な原因となる食品に関する最近のデータを報告するレビュー。	韓国語：HP link : https://synapse.koreamed.org/search.php?where=asummary&id=9200&code=0119JKMA	レビュー	-	文献検索
379	179	ウ	卵ウ 乳ウ	Position document: IgE-mediated allergy to egg protein	Martorell A et al	Allergol Immunopathol (Madr). 2013;41:320-36.	2013	スペインにおける小児の卵アレルギーに関するレビュー。		レビュー	-	文献検索
380	175	ウ	卵ウ 乳ウ	Introduction to special issue on food allergy	Nagler CR et al	Semin Immunopathol. 2012;34:615-6.	2012	食物アレルギーに関する最近の研究のレビュー。		レビュー	-	文献検索
381	201	ウ	卵ウ 卵オ 乳ウ 乳オ	Food Allergy: Common Causes, Diagnosis, and Treatment	Patel BY et al	Mayo Clin Proc. 2015;90:1411-9.	2015	食物アレルギーの診断、治療法についてのレビュー。		レビュー	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
382	195	ウ	卵ウ 乳ウ	What's new in pediatric allergology in 2007-2008? Part 3: Skin, food and drug allergies (A review of the international literature from October 2007 to September-October 2008)	Ponvert C et al	Rev Fr Allergol. 2009;49:383-396.	2009	皮膚、食物、薬物に対する国際的なレビュー。	フランス語	レビュー	-	文献検索
383	165	ウ	卵ウ 乳ウ	Food allergy overview in children	Ramesh S et al	Clin Rev Allergy Immunol. 2008;34:217-30.	2008	小児におけるアレルギーの原因、診断、治療等についての総合的な報告。		レビュー	-	文献検索
384	736	ウ	卵ウ 乳ウ	Infantile colic and food allergy: fact or fiction?	Sampson HA	J Pediatr. 1989;115:583-4.	1989	乳児疝痛と食物アレルギーの関連を検討。		レビュー	-	文献検索
385	729	ウ	卵ア 卵ウ 乳ア 乳ウ	Food allergy. Part 1: immunopathogenesis and clinical disorders.	Sampson HA	J Allergy Clin Immunol. 1999;103:717-28.	1999	食物過敏症、アナフィラキシー、食物アレルギーに対する総論。各国の有病率や発症率の高い食品等について整理。		レビュー	-	文献検索
386	196	ウ	卵ウ 卵オ 乳ウ 乳オ	Food allergy: Epidemiology, pathogenesis, diagnosis, and treatment	Sicherer SH et al	J Allergy Clin Immunol. 2014;133:291-307.	2014	食物アレルギーの原因、診断、治療等に関する総合的なレビュー。		レビュー	-	文献検索
387	154	ウ	卵ウ 乳ウ	Epidemiology of food allergy	Venter C et al	Pediatr Clin North Am. 2011;58: 327-349	2011	診断、予防及び治療を改善、リスク要因、有病率及び自然経過に関する洞察等に関する報告。		レビュー	-	文献検索
388	158	ウ	卵ウ 乳ウ	Food allergies and asthma	Wang J et al	Curr Opin Allergy Clin Immunol. 2011; 11: 249-254.	2011	食物アレルギーと喘息の関連を調査。		レビュー	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
389	228	ウ	卵ウ	Molecular diagnosis of egg allergy.	Caubet JC et al	Curr Opin Allergy Clin Immunol. 2011;11:210-215.	2011	卵アレルギー患者の臨床管理と判定試験に資する文献のレビュー。	http://journals.lww.com/co-allergy/Abstract/2011/06000/Molecular_diagnosis_of_egg_allergy.10.aspx	レビュー	-	EFSA 意見書
390	223	ウ	卵ウ	Egg-allergic patients can be safely vaccinated against influenza	Des Roches A et al	J Allergy Clin Immunol. 2012;130:1213-1216.e1.	2012	卵アレルギー患者へのインフルエンザワクチン接種についてのレビュー。一部の論文はレベル重症の患者について言及。		レビュー	その他	文献検索
391	111	ウ	乳ウ	Food Protein-Induced Enterocolitis Syndrome, Allergic Proctocolitis, and Enteropathy	Feuille E et al	Curr Allergy Asthma Rep. 2015;15:50	2015	主に牛乳タンパクにより誘発される非 IgE 型の食物タンパク質誘発性腸炎 (FPIES)、アレルギー性直腸炎 (FPIAP)、及び腸疾患 (FPE) について、その病態と治療法の総論。		レビュー	-	文献検索
392	105	ウ	乳ウ	Emerging Approaches to Food Desensitization in Children	Hamad A et al	Curr Allergy Asthma Rep. 2017;17:32.	2017	食物アレルギーを持つ子供の食物脱感作のための各種免疫療法についてのレビュー		レビュー	-	文献検索
393	110	ウ	乳ウ	Food protein-induced enterocolitis syndrome	Nowak-Węgrzyn A et al	J Investig Allergol Clin Immunol. 2017;27:1-18.	2017	食物タンパク質誘発性腸炎症候群 (FPIES) に関する総論。誘発食物として牛乳、大豆、米などが挙げられているており、臨床症状のパターンについても言及。FPIS は非 IgE 依存性アレルギー。		レビュー	-	文献検索
394	132	ウ	乳ウ	What's new in pediatric allergy in 2014? Epidemiology, early diagnosis, treatment, anaphylaxis, food, drug and insect allergy: A review of the 2014 international literature	Ponvert C et al	Rev Fr Allergol. 2015;55:413-433.	2015	小児アレルギーに関するレビュー。	感作性、早期診断、治療、重症度等に関する文献	レビュー	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
395	99	ウ	乳ウ	Anaphylaxis in children: What pediatricians should know	Pouessel G et al	Arch Pediat r. 2016;23:1 307-1316.	2016	子供のアナフィラキシーショック についての総論。主に治療方法に ついて言及。		レビュー	-	文献検索
396	103	ウ	乳ウ	Could T cell component- resolved diagnosis differentiate between food sensitization and food allergy?	Turcanu V. et al	Clin Exp Al lergy. 2010;4 0:531-3.	2010	総説。食品に感作してるのみ(症 状は示さない) か、アレルギー症 状を出すレベルであるかを、負荷 試験や皮膚プリックテストより迅 速に、IgE と高精製アレルゲンの 評価で診断できるか検証。一部、 牛乳に関する記述もあるが詳細に は触れていない。		レビュー	-	文献検索
397	213	ウ	乳ウ 乳オ 乳キ 乳ク	Can we identify patients at risk of life-threatening allergic reactions to food?	Turner PJ et al	Allergy. 201 6;71:1241-5 5.	2016	様々な食物に対する重度のアレル ギー反応を取り巻く概念に関する レビュー。重度の食物アレルギー を発生するリスクのある患者の特 定方法や、加工乳及び卵の IgE 結 合能について述べている。		レビュー	-	文献検索
398	137	ウ	卵ウ 乳ウ	Allergy and Immune Diseases in Australia (AIDA) Report 2013	Allergy and Immune Diseases in Australia:AI DA	以下の URL から報告書を 取得可能。ht tps://www.all ergy.org.au/a scia-reports/ allergy-and-i mmune-dise ases-in-austr alia-2013	2013	オーストラリアのアレルギー疾患 に関する総合的なレポート。食物 誘発性アナフィラキシーは過去 1 0 年間で 2 倍になり、幼児の 10% が食物アレルギーに直面してい る。	国民を対象とし た大規模調査の 結果を用いてい る	公的機関 資料	-	

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
399	141	ウ	卵ウ 乳ウ	Australian Health Survey: Nutrition First Results - Food and Nutrients, 2011-12	Australian Bureau of Statistics	以下の URL から報告書を取得可能。http://www.ausstats.abs.gov.au/Ausstats/subscriber.nsf/0/4683FD7315DFDFDBCA257D080014F9E0/\$File/australian%20health%20survey%20nutrition%20first%20results%20-%20food%20and%20nutrients,%202011-12.pdf	2014	2011－1012 年までの国民栄養調査（NNPAS）の結果。食物アレルギーなどを理由に忌避する食品があるかを調査。3,700 万人のうち 17%が食物アレルギー等を理由に忌避する食品があるとしておりこのうち 7%は宗教的・文化的・倫理的な理由によるものとしている、忌避する食品は牛乳が最も多いとしている。	国民を対象とした大規模調査の結果を用いている	公的機関資料	-	
400	151	ウ	卵ウ 乳ウ	Epidemiology and Etiology of Eosinophilic Esophagitis	Chehade M et al	Gastrointest Endosc Clin N Am. 2008;18:33-44.	2008	好酸球性食道炎（EE）の疫学と病因に関する研究。		原著	-	文献検索
401	156	ウ	卵ウ 乳ウ	Feeding during the first months of life and prevention of allergy	Chouraqui JP et al	Arch Pediatr. 2008;15:431-42	2008	母乳のメリットと離乳食としてのアレルギーを含む食事の導入に関する調査。		原著	-	文献検索
402	94	ウ	卵ウ 乳ウ	The changing epidemiology of food allergy-implications for New Zealand	Crooks C et al	N Z Med J. 2008;121:1271.	2008	食物アレルギーに関する疫学データを要約、ニュージーランド国内の患者への影響を議論。乳・卵アレルギーに関する言及部分は少なく、内容も一般的な知見に留まる。		原著	-	

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
403	250	ウ	卵ウ 乳ウ	Will we be able to desensitize food allergies by either injection or oral immunotherapy?	Firszt R et al	Curr Allergy Asthma Re p. 2011;11:273-6	2011	経口免疫療法を皮下、又は粘膜経由で実施する方法を研究。ピーナツについて皮下接種 6 名。		原著	-	文献検索
404	150	ウ	卵ウ 乳ウ	Duration of a cow-milk exclusion diet worsens parents' perception of quality of life in children with food allergies	Indinnimeo L et al	BMC Pediatr. 2013;13:203.	2013	IgE 依存性アレルギーを持つ子供の 96 名に QOL に関するアンケートを実施。アンケートでは重症度についても把握。	イタリアの子供を対象とした横断研究	原著	-	文献検索
405	170	ウ	卵ウ 乳ウ	Health-related quality of life, assessed with a disease-specific questionnaire, in Swedish adults suffering from well-diagnosed food allergy to staple foods	Jansson SA et al	Clin Transl Allergy. 2013;3:21.	2013	外来患者 79 名（男性 28 名、女性 51 名、平均年齢 41 歳）にアンケートを実施し、スウェーデンの卵、牛乳、小麦アレルギーを持つ成人の QOL に影響を与える要因を調査。		原著	-	文献検索
406	537	ウ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Food protein-induced enterocolitis syndrome in Australia: A population-based study, 2012-2014	Mehr S et al	J Allergy Clin Immunol. 2017;140:1323-1330.	2017	オーストラリアの乳児を対象に、食物タンパク質誘発腸炎症候群（FPIES）の発生率及び臨床的特徴を調査。	2012-2014 年に 全域調査を実施	原著	-	文献検索
407	133	ウ	卵ウ 乳ウ	Agreement of specific IgE and skin prick test in an unselected cohort of two-year-old children.	Ro AD et al	Eur J Pediatr. 2012;171:479-484.	2012	353 人の 2 歳児のコホートにおいて、特定の IgE（sIgE）の皮膚試験（SPT）での判定を実施、総 IgE 濃度とアレルギー関連障害との関連性を評価。ピーナツの場合は、皮膚プリックテストと特異的 IgE の間には相関があるが、牛乳アレルギーの場合は相関が弱いことを示唆。	コホートを 2 年 間追跡。	原著	コホート	EFSA 意見書

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
408	737	ウ	卵ウ 乳ウ	Comparison of results of skin tests, RAST, and double-blind, placebo-controlled food challenges in children with atopic dermatitis.	Sampson HA et al	J Allergy Clin Immunol. 1984;74:26-33.	1984	アトピー性皮膚炎を有する子供を対象に、DBPCFCを実施し、食物過敏症の臨床的症狀について評価。		原著	DBPCFC	文献検索
409	730	ウ	卵ウ 乳ウ	Food hypersensitivity and atopic dermatitis: evaluation of 113 patients.	Sampson HA et al	J Pediatr. 1985;107(5):669-75.	1985	重篤なアトピー性皮膚炎を呈した患者を対象に、経口食物試験を用いて食物過敏症について調査。食物過敏症がアトピー性皮膚炎を有する一部の子供での病原性の役割を果たしており、適切な処置を行うことで皮膚症状の改善に繋がることを実証。		原著	-	文献検索
410	732	ウ	卵ウ 乳ウ	Food hypersensitivity as a pathogenic factor in atopic dermatitis.	Sampson HA	N Engl J Med. 1986;7:511-9.	1986	アトピー性皮膚炎の病因に対する食物過敏症の役割を検討するために、重篤なアトピー性疾患を呈する132人の子供を対象にDBPCFCを用いて評価した。		原著	DBPCFC	文献検索
411	738	ウ	卵ウ 乳ウ	Fatal and near-fatal anaphylactic reactions to food in children and adolescents.	Sampson HA et al	N Engl J Med. 1992;327:380-4.	1992	食物に対するアナフィラキシーで死亡した6人の子供及び青年の症例を報告。		原著	症例報告	文献検索
412	728	ウ	卵ウ 乳ウ	Relationship between food-specific IgE concentrations and the risk of positive food challenges in children and adolescents.	Sampson HA et al	J Allergy Clin Immunol. 1997;100:444-51.	1997	食物アレルギーを有する子供及び青年を対象に、特異的IgE 仲介性食物過敏症の診断にCAP システム FEIA(Pharmacia Diagnostics, Uppsala, Sweden)が有用であるか検討。血清を用いて卵及び乳に対する特異的IgE 抗体を分析し、皮膚プリックテストの結果と比較。		原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
413	134	ウ	卵ウ 乳ウ	Allergen Component Testing in the Diagnosis of Food Allergy	Schussler E et al	Curr Allergy Asthma Rep. 2015;15:55.	2015	食物アレルギーを診断する臨床的な検査方法に関する研究。		原著	-	文献検索
414	533	ウ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Is abnormal liver function correlated with food sensitisation in adults? US NHANES, 2005-2006	Shiue I	Allergol Immunopathol (Madr). 2015;43:361-8.	2015	肝機能、血清総量及び食物特異的 IgE 濃度の関連性を調査。米国国民健康栄養調査調査 (NHANES) (2005-2006) の結果を使用。	人口統計、肝臓状態検査、バイオマーカー、生活習慣因子、及び血清総量及び食物特異的 IgE 濃度を含む米国国民健康栄養調査調査 (2005-2006) からデータを収集、t 検定、カイ二乗検定、及び測量加重回帰分析を実施。	原著	-	文献検索
415	148	ウ	卵ウ 乳ウ	Differences in empowerment and quality of life among parents of children with food allergy	Warren CM et al	Ann Allergy Asthma Immunol. 2015;114:117-25.	2015	食物アレルギーが及ぼす QOL への影響と、食物アレルギーを持つ子供の両親のエンパワーメントについて調査。食物アレルギーを持つ 875 名の子供を対象。皮膚プリックテストや特異的 IgE 値によりアレルギー性を判断、アレルギーの重症度も把握。		原著	コホート	文献検索
416	240	ウ	卵ウ 卵イ	The prevalence and distribution of food sensitization in European adults.	Burney PG et al	Allergy. 2013;69:365-71.	2013	共通のプロトコルを用いて欧州各地の食物アレルギー関連の IgE 感受性を評価。		原著	-	EFSA 意見書

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
417	222	ウ	卵ウ	Egg white specific IgE levels in serum as clinical reactivity predictors in the course of egg allergy follow-up.	Montesinos E et al	Pediatr Allergy Immunol. 2010;21: 634-639.	2010	卵アレルギーを有する 2.5 歳未満の子供が耐性を有する可能性を判定し、卵白特異的 IgE レベルを経時的にモニターすることが予測因子として使用できるかどうかを分析。卵アレルギーと診断された 42 名の患者を対象に調査を実施。		原著	-	EFSA 意見書
418	235	ウ	卵ウ	Safety of live attenuated influenza vaccine in young people with egg allergy: Multicentre prospective cohort study	Turner PJ et al	BMJ. 2015; 351	2015	卵アレルギーの子供 779 人へのインフルエンザワクチン接種の報告。長期観察し、接種後の症状を統計。卵アレルギー患者でのインフルエンザワクチン接種によるアレルギーリスクを評価。	英国の国家規模調査。	原著	-	文献検索
419	215	ウ	卵ウ	Allergic reactions after egg-free recombinant influenza vaccine: Reports to the US vaccine adverse event reporting system	Woo EJ	Clin Infect Dis. 2015;60:777-780.	2015	インフルエンザワクチン摂取後のアレルギー反応と卵タンパク質との関連を調査。	個人の症状別に掲載	原著	-	文献検索
420	651	ウ	卵ウ	好酸球性胃腸炎の小児 2 例	山崎 晋 他	日本小児アレルギー学会誌 2016;30:120-126	2016	9 歳男児と 4 歳男児の症例。9 歳男児は鶏卵の摂取量制限と抗アレルギー薬の内服加療を行い、検査値、症状ともに改善した。	症例報告	原著	症例報告	医中誌 Web
421	112	ウ	乳ウ	Hospital admissions for food-induced anaphylaxis in Italian children.	Canani RB et al	Clin Exp Allergy. 2012; 42:1813-1814.	2012	救急病院に来院したアナフィラキシーショックを起こした子供の症例報告。		原著	症例報告	EFSA 意見書
422	121	ウ	乳ウ	Predictors of health-related quality of life of European food-allergic patients	Saleh-Langenberg J et al	Allergy. 2015;70:616-24.	2015	食物アレルギー患者の HRQL (health-related quality of life) に影響を与える予測因子について 648 名の欧州の食物アレルギー患者を対象としたアンケート結果をもとに分析。	多変量回帰分析を用いて結果を解析	原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
423	114	ウ	乳ウ 乳キ	Leptin and Atopic Dermatitis in Korean Elementary School Children	Seo S et al	Iran J Allergy Asthma Immunol. 2016;15:138-44.	2016	血中のレプチン濃度は、レベル重度のアトピー性皮膚炎児童より、非アトピー性皮膚炎又は、軽度～中程度の児童で有意に高い。韓国小学生、227 件の調査。		原著	-	文献検索
424	713	ウ	乳ウ	Reintroduction failure is common among adolescents after double-blind placebo-controlled food challenges	Strinnholm Å et al	Acta Paediatr. 2017;106:282-287	2017	過去に食物アレルギーの DBPCFC を行ったことがある思春期の少年を対象に面接調査を実施。青少年は DBPCFC に対し、潜在的な反応への恐怖と食物を再導入することができる希望という複雑な経験を有していることが判明した。		原著	DBPCFC	文献検索
425	125	ウ	乳ウ	Safety and predictors of adverse events during oral immunotherapy for milk allergy: Severity of reaction at oral challenge, specific IgE and prick test	Vázquez-Ortiz M et al	Clin Exp Allergy. 2013;43:92-102	2013	牛乳の経口免疫療法の長期的な安全性を検討するために、有害事象の臨床的/免疫学的予測因子を検討。81 人の経口免疫療法を受けた子供を対象に 1 年後の臨床データ、皮膚プリックテスト結果、特異的 IgE 測定結果を収集し分析。	縦断的介入研究。5-18 歳の子供を対象に皮膚の感作性を調査	原著	-	文献検索
426	100	ウ	乳ウ	Approach to food allergy diagnosis and management by nonspecialty practitioners	Welch K et al	Ann Allergy Asthma Immunol. 2016;116: 585-588	2016	食物アレルギーの診断と管理に関する報告。		原著	-	文献検索
427	646	ウ	乳ウ	生児-乳児消化管アレルギー、クラスター分類について	野村 伊知郎	日本小児アレルギー学会誌 2016;30:27-32	2016	生児-乳児消化管アレルギーの様々な病変について、いくつかのグループに分かれるのではないかと仮説を立て、クラスター分析を実施。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
428	260	エ	卵エ 乳エ	Canadian Community Health Survey - Nutrition (CCHS)	Statistics Canada	未公表	2017	2015 年のカナダ国民の栄養に関する包括的な調査。	国民を対象とした大規模調査	原著	-	

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
429	272	エ	卵エ	Obesity susceptibility loci and dietary intake in the Look AHEAD Trial	McCaffery JM et al	Am J Clin Nutr. 2012;95:1477-86.	2012	食事摂取量と肥満遺伝子の関連について調査。遺伝子解析の前の論文で摂取量を調査 リンク http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC2804253/	食品ごとに、食事 1 回あたりの摂取量をアンケート調査している。	原著	-	文献検索
430	301	オ	乳オ	Milk allergens: chemical characterization, structure modifications and associated clinical aspects. In: Immunochemistry in dairy research.	Restani P et al	Immunochemistry in dairy research (Ed. Pizzano R) Research Signpost, Kerala, 61-76.	2006	書籍のためアブストラクトなし	書籍概要 https://air.unimi.it/handle/2434/43158#.WldVda66-JA	書籍	-	EFSA 意見書
431	625	オ	卵オ 乳オ	Aspects of food processing and its effect on allergen structure	Angelika Paschke et al	Molecular Nutrition & Food Research 2009;53(8):952-962	2009	高圧処理や照射処理などの食品加工方法及びそれらの食物アレルギーへの影響のレビュー。		レビュー	-	文献検索
432	332	オ	卵オ 乳オ	Long-term follow-up of IgE-mediated food allergy: Determining persistence versus clinical tolerance	Burks AW et al	Ann Allergy Asthma Immunol. 2014;112:200-206.	2014	既知の食物アレルギーにおける最近の進歩のレビュー。		レビュー	-	文献検索
433	406	オ	卵オ 乳オ	Re-defining food allergy phenotypes and management paradigm: is it time for individualized egg allergy management?	Leonard SA et al	Clin Exp Allergy. 2011;41:609-11.	2011	英国アレルギー及び臨床免疫学協会 (BSACI) のガイドラインの検証など、加熱した卵、牛乳で患者の QOL を改善できた研究を挙げる。患者の選択、論拠の少なさなど問題点にも言及。		レビュー	-	Stephanie A. Leonard (2016) Stephanie A. Leonard (2016) 2
434	325	オ	卵オ 乳オ	Baked Milk and Egg Diets for Milk and Egg Allergy Management	Leonard SA et al	Immunol Allergy Clin North Am. 2016;36:147-159	2016	熱処理した卵及び乳に関するアレルギー反応性に関するレビュー。		レビュー	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
435	335	オ	卵オ 乳オ	Rare, medium, or well done? The effect of heating and food matrix on food protein allergenicity.	Nowak- Wegrzyn A et al	Curr Opin Allergy Clin Immunol. 2 009;9:234-7.	2009	食物アレルギー処理の分野におけ る最近の進歩及びタンパク質アレ ルゲン性への影響に関するレビュー ー。		レビュー	-	EFSA 意 見書
436	337	オ	卵オ 乳オ	Risk Assessment of Trace and Undeclared Allergens in Processed Foods.	Remington BC et al	以下の URL から取得可 能。https://d igitalcommo ns.unl.edu/c gi/viewconte nt.cgi?refere r=https://ww w.google.co.j p/&httpsredi r=1&article= 1032&context =foodscidiss	2013	加工食品のアレルゲンのリスク評 価に関するレビュー。加工された 食品中の 13 のアレルゲンのリス クを整理。		レビュー	-	EFSA 意 見書
437	333	オ	卵オ 乳オ	Orphan immunotherapies for allergic diseases	Ridolo E et al	Ann Allergy Asthma Im munol. 201 6;116:194-19 8	2016	アレルギー疾患のオーファン免疫 療法について MEDLINE を用い て、英語の記事の医学文献を検索 しレビュー。		レビュー	-	文献検索
438	328	オ	卵オ 乳オ	Electrochemical Affinity Biosensors Based on Disposable Screen-Printed Electrodes for Detection of Food Allergens	Vasilescu A et al	Sensors (Ba sel). 2016;1 6: 1863	2016	アレルゲンタンパク質の検出に関 するレビュー。		レビュー	-	文献検索
439	321	オ	卵オ 乳オ	Allergens and molecular diagnosis	Vuruputoor VS et al	RJPBCS. 20 17;8: 37-48	2017	アレルゲンに対する食品加工の影 響と主要な 8 種類のアレルゲンを 検出ツールに関するレビュー。		レビュー	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文 献 名	著 者 名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文 献 概 要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
440	357	オ	卵オ	Egg introduction: Differential allergic responses	Dosanjh A	J Asthma A llergy. 2017; 10:109-110.	2017	乳児に対する卵（全卵、卵白、卵 黄）の感作に対する検討結果をレ ビュー。早期で食事に卵を導入し たグループ又は食物負荷試験を行 っているグループでは、臨床的な 反応が見られるとし、全卵・卵 白・卵黄の比較。		レビュー	-	文献検索
441	355	オ	卵オ	Effect of Processing technologies on the allergenicity of food products,	Jiménez- Saiz R et al	Crit Rev Fo od Sci Nutr. 2015;55:190 2-17.	2015	アレルゲンを変化させる食品加工 （熱処理及びメイラード反応、高 圧処理、マイクロ波、食品照射な ど）に関するレビュー。		レビュー	-	S.Benede (2015)
442	360	オ	卵オ	Food allergen selective thermal processing regimens may change oral tolerance in infancy	Kosti RI et al	Allergol Im munopathol (Madr). 201 3;41:407-17.	2013	幼児のアレルギー誘発食品に対す る熱処理の効果に関するレビュー ー。	リンク http://w ww.sciencedirec t.com/search?pu b=Allergologia% 20et%20Immuno pathologia&volu me=41&issue=6 &page=407&sho w=25&sortBy=r elevance&origin =jrnl_home&z one=search&public ationTitles=2777 22	レビュー	-	文献検索
443	380	オ	卵オ	Recent advances in the understanding of egg allergens: basic, industrial and clinical perspectives.	Mine Y et al	J Agric Foo d Chem. 20 08;56:4874-4 900.	2008	卵アレルギーについての総論。発 症機序、生卵、加熱卵の摂取療 法、アレルゲン加水分解物摂取の 考察など。		レビュー	-	文献検索
444	386	オ	卵オ	Thermal processing and allergenicity of foods.	Wal JM et al	Allergy, 200 3;58:727-72 9.	2003	食品の熱処理とアレルギーに関す る総説。温度によるタンパク質構 造の変化について解説。		レビュー	-	EFSA 意 見書
445	280	オ	乳オ	Bioactive Peptides in Animal Food Products	Albenzio M et al	Foods. 2017 May 9;6(5). pii: E35.	2017	動物に由来する酵素消化物などの 生活性ペプチドの食品での有用性 についてのレビュー。		レビュー	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文 献 名	著 者 名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文 献 概 要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
446	304	オ	乳オ	On the supposed influence of milk homogenization on the risk of CVD, diabetes and allergy	Michalski MC	Br J Nutr. 2007;97:598-610.	2007	乳製品や加工乳のアレルギーに与える影響に関するレビュー	http://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0924224411000926	レビュー	-	文献検索
447	199	オ	乳ウ 乳オ 乳キ	An evolutionary perspective on intestinal lymphatic fat absorption, the industrialization of food, and allergy	Miller JD et al	Ann Allergy Asthma Immunol. 2014;113:339-42.	2014	腸管リンパ系での脂肪の吸収とアレルゲンとの関係をレビュー。牛乳のホモジナイズ化がアレルゲン性に与える影響について触れている。		レビュー	-	文献検索
448	310	オ	乳オ	Proteomics in food: Quality, safety, microbes, and allergens	Piras C et al	Proteomics. 2016;16:799-815	2016	過去数年間のプロテオミクスの応用を、動物起源の食品に焦点を当てた食品科学に関するレビュー。		レビュー	-	文献検索
449	295	オ	乳オ	Got milk? Understanding the farm milk effect in allergy and asthma prevention	Yu JE et al	J Allergy Clin Immunol. 2016;137:1707-8.	2016	非加工牛乳のアレルギー及び喘息予防の効果についての総論。Ω3不飽和脂肪酸(ω-3-PUFAs)、マイクロ RNA などの非加工乳の成分に注目。		レビュー	-	文献検索
450	329	オ	卵オ 乳オ	Food allergen detection by mass spectrometry: the role of systems biology	Croote D et al	NPJ Syst Biol Appl. 2016;2:16022	2016	食品中のアレルギー性タンパク質を定量のための標的質量分析のワークフローに関する研究。		原著	-	文献検索
451	338	オ	卵オ 乳オ	Streamlining the analytical workflow for multiplex MS/MS allergen detection in processed foods	Piloll R et al	Food Chem. 2017;221:1747-1753.	2017	加工食品中におけるアレルゲン物質の検出方法についての検討。クッキー対象に全卵、脱脂粉乳、大豆粉、挽きヘゼルナッツ及び粉砕ピーナッツを検出。		原著	-	文献検索
452	319	オ	卵オ 乳オ	Advances in ultra-high performance liquid chromatography coupled to tandem mass spectrometry for sensitive detection of several food allergens in complex and processed foodstuffs	Planque M et al	J Chromatogr A. 2016;1464:115-123	2016	熱処理された食品中の乳（カゼイン、ホエイタンパク質）、卵（卵黄、白）、大豆及びピーナッツアレルゲンの同時検出方法の検討。タンデム質量分析計結合超高速液体クロマトグラフィーを使用。		原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
453	369	オ	卵オ	Is cooked whole egg really less allergenic than pasteurized raw whole egg powder?	Calvani M et al	J Allergy Clin Immunol. 2014;133:601.	2014	滅菌した非加熱の全卵のパウダーを過熱した全卵と比較し、非加熱でも、加熱した卵よりアレルギー反応が高くはならないことを調査。		原著	-	文献検索
454	354	オ	卵オ	Effect of fertilization on structural and molecular characteristics of hen egg ovalbumin	Duan X et al	Food Chem. 2017;221:1340-1345.	2017	受精卵を恒温処理する過程でのタンパク質の変化に関する研究。		原著	-	文献検索
455	375	オ	卵ウ 卵オ	Oral immunotherapy with low allergenic hydrolysed egg in egg allergic children	Giavi S et al	Allergy. 2016;71:1575-1584.	2016	低アレルギー加水分解卵の DBPCFC を実施。		原著	DBPCFC	文献検索
456	365	オ	卵オ	Impact of irradiation and thermal processing on the immunochemical detection of milk and egg allergens in foods	Gomaa A et al	Food Res Int. 2015;74:275-283.	2015	小麦製品（パン、加熱済みパスタ）を試料として、ガンマ線照射と加熱した抗原の抗原性を、プラズマ表面波、ELISA など で評価。		原著	-	文献検索
457	363	オ	卵オ	Glycation of a food allergen by the Maillard reaction enhances its T-cell immunogenicity: role of macrophage scavenger receptor class A type I and II	Ilchmann A et al	J Allergy Clin Immunol. 2010;125:175-183.	2010	食品の加熱によるメイラード反応産物のアレルギーへの関与を、オボアルブミンによる糖化産物により T 細胞免疫活性で評価。メイラード反応は食物アレルギーの T 細胞免疫に重要な役割を果たすことを示唆。		原著	-	S.Benede (2015)
458	395	オ	卵ウ 卵オ	Dietary baked milk accelerates the resolution of cow's milk allergy in children.	Kim JS et al	J Allergy Clin Immunol. 2011;128:125-31.	2011	加熱した牛乳（マフィン）による経口免疫療法の長期追跡。		原著	-	Stephanie A. Leonard (2016) R.I. Kost et al (2013) Stephanie A. Leonard (2016) 2

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルギー性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
459	394	オ	卵ウ 卵オ	Dietary baked egg accelerates resolution of egg allergy in children.	Leonard SA et al	J Allergy Clin Immunol. 2012;130:473-80.	2012	過熱した卵を用いた経口免疫療法により、通常の卵への耐性を得ることができるか追跡調査を実施。経口免疫療法を実施した群は対照群よりも耐性を獲得するのが早かった。		原著	-	Stephanie A. Leonard (2016)
460	402	オ	卵オ	Oral immunotherapy induces local protective mechanisms in the gastrointestinal mucosa.	Leonard SA et al	J Allergy Clin Immunol. 2012;129:1579-87.	2012	加熱卵による経口免疫療法を、マウスの腸炎モデルで評価。腸粘膜における遺伝子発現にも変化が起こる。	動物実験	原著	-	Stephanie A. Leonard (2016)
461	352	オ	卵オ	Does the amount of egg protein and type of preparation influence tolerability of baked egg products and potential development of regular egg tolerance in egg-allergic children?	Leonard SA	Ann Allergy Asthma Immunol. 2016;116:381-382	2016	加工卵の量と処理方法が卵アレルギーの耐性に与える影響を研究。患者が食べられそうな加工卵の形状についても検討。		原著	-	文献検索
462	383	オ	卵オ	Sensitizing and Eliciting Capacity of Egg White Proteins in BALB/c Mice As Affected by Processing	Pablos-Tanarro A et al	J Agric Food Chem. 2017;65:4500-4508.	2017	高圧処理した卵白と熱処理した卵白をマウスに摂取させた研究。熱処理卵白では Th1 誘導、感作は低減。高圧処理卵白では Th2 反応が刺激されアレルギーが亢進。	動物実験	原著	-	文献検索
463	362	オ	卵オ	Food entries in a large allergy data repository	Plasek JM et al	J Am Med Inform Assoc. 2016;23:79-87.	2016	大規模な食品に関するデータを用いて、既存の標準用語がアレルギーの概念の広い範囲をカバーしているか検証。		原著	-	文献検索
464	359	オ	卵オ	Filament-producing mutants of influenza A/Puerto Rico/ 8/1934 (H1N1) virus have higher neuraminidase activities than the spherical wild-type	Seladi-Schulman J et al	PLoS One. 2014; 10:9:e112462.	2014	フィラメント産生変異型インフルエンザ A/Puerto Rico/8/1934 (H1N1) ウィルスに関する研究。		原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- (ア) アレルゲンの特徴 (エ) 摂取量 (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因
 (イ) 交差性 (オ) 加工等による影響 (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況
 (ウ) 疫学調査等 (カ) 閾値 (ケ) その他

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
465	376	オ	卵オ	Ovalbumin modified by gamma irradiation alters its immunological functions and allergic responses.	Seo JH et al	Int Immunopharmacol.2007; 7: 464-472.	2007	アレルギー、オボアルブミンの化学的及び免疫学的特性に対するガンマ線照射の効果を調査。		原著	-	EFSA 意見書
466	278	オ	乳オ	Antigenicity of hydrolyzed rice formula in animal model (Balb/c mice)	Brahim AC et al	Int J Pharm Sci.2014;6:352-354	2014	牛乳アレルギーに有効な代替品を検討。	動物実験	原著	-	文献検索
467	316	オ	乳オ	ω -3 fatty acids contribute to the asthma-protective effect of unprocessed cow's milk	Brick T et al	J Allergy Clin Immunol. 2016;137:1699-1706.	2016	農場の非加工乳が加工乳に比べ喘息を防ぐ効果に注目し、欧州 634 件で検証した研究。非加工乳には ω 3 多価不飽和脂肪酸が多い。		原著	-	文献検索
468	292	オ	乳オ	Effect of raw milk on allergic responses in a murine model of gastrointestinal allergy	Hodgkinson AJ et al	Br J Nutr. 2014;112:390-7.	2014	各種加工乳摂取が卵アレルギーにどう影響するか、動物モデルで検討。マウスに生乳、未処理の生乳、ガンマ滅菌乳、過熱乳、対照の水を与えた後、卵白アルブミンで免疫反応を亢進し、血清の抗体、マスト細胞を分析し、消化管アレルギーの場合の反応と比較。	動物実験	原著	-	文献検索
469	311	オ	乳オ	Reduction of the Antigenicity of Whey Proteins by Lactic Acid Fermentation.	Jedrychowski L et al	Food Agr Immunol.1999; 11: 91-99.	1999	ホエイタンパク質の抗原性を低下させる乳酸菌の効果を調査。		原著	-	EFSA 意見書
470	300	オ	乳オ 乳キ	MicroRNA in native and processed cow's milk and its implication for the farm milk effect on asthma	Kirchner B et al	J Allergy Clin Immunol. 2016;137:1893-1895.	2016	生乳及び加工乳中のマイクロ RNA が喘息やアレルギーに与える影響についての研究。生乳及び様々な加工乳（脱脂粉乳、熱処理乳、ホモジナイズ乳など）のマイクロ RNA を調査。		原著	-	文献検索
471	286	オ	乳オ	Consumption of unprocessed cow's milk protects infants from common respiratory infections	Loss G et al	J Allergy Clin Immunol. 2015;135:56-62.	2015	欧州の 983 名の幼児の追跡調査を行い、非加工牛乳と幼児の一般的呼吸器疾患の関係を分析。		原著	コホート	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
472	654	オ	乳ウ 乳オ 乳キ	Clinical effectiveness of amino acid formula in infants with severe atopic dermatitis and cow's-milk protein allergy	Nyankovsky S et al	Pediatrics 2016;91:521-527	2016	重度の牛乳タンパク質アレルギー及びアトピー性皮膚炎の管理において100%遊離アミノ酸を含むアミノ酸ベースの乳による食事介入の臨床効果を評価。		原著	-	文献検索
473	298	オ	乳オ	Infant formulas for food allergy treatment and prevention	Parekh H et al	Pediatr Ann. 2016;45:150-6.	2016	乳児用調整乳について、乳の加水分解物、人工アミノ酸乳、さらにアレルギー性が低いプロバイオティクスに関する研究。		原著	-	文献検索
474	285	オ	乳オ	Comparison of two oral probiotic preparations in a randomized crossover trial highlights a potentially beneficial effect of Lactobacillus paracasei NCC2461 in patients with allergic rhinitis	Perrin Y et al	Clin Transl Allergy. 2014;4:1.	2014	アレルギー性鼻炎に対して効果があるとされる乳酸菌の <i>L. paracasei</i> について、 <i>L.acidophilus</i> と <i>Bifidobacterium lactis</i> の併用の比較。		原著	-	文献検索
475	309	オ	乳オ	Proteomic characterization of intermediate and advanced glycation end-products in commercial milk samples	Renzzone G et al	J Proteomics. 2015;117:12-23.	2015	市販の牛乳の糖化中間産物及び糖化最終産物のプロテオミクスの解析。		原著	-	文献検索
476	287	オ	乳オ	Cross-linking of β -lactoglobulin enhances allergic sensitization through changes in cellular uptake and processing	Stojadinovic M et al	Toxicol Sci. 2014;140:224-35.	2014	フェノール酸化酵素ラッカーゼ処理により作成した架橋 β -ラクトグロブリンと通常 β -ラクトグロブリンをマウスに感作し、抗体とサイトカインを測定した研究。架橋 β -ラクトグロブリンの方が通常のものに比べて感作性が高いことが示唆された。	動物実験	原著	-	文献検索
477	442	カ	卵力 乳カ	Food specific oral immunotherapy: A potential treatment for food allergy	Burbank AJ et al	Expert Rev Gastroenterol Hepatol. 2015;9:1147-59.	2015	経口免疫療法に対するレビュー。経口免疫療法の脱感作性や閾値を上昇させることのほか、最近の研究報告に焦点を当てている。		レビュー	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
478	441	カ	卵力 乳力	Clinical studies in oral allergen-specific immunotherapy: Differences among allergens	Sato S et al	Int Arch Allergy Immunol. 2014;164:1-9.	2014	経口免疫治療の安全性、有効性に関するレビュー。		レビュー	-	文献検索
479	437	カ	卵オ 卵力 卵キ 乳オ 乳力 乳キ	Understanding food allergen thresholds requires careful analysis of the available clinical data	Taylor SL et al	J Allergy Clin Immunol. 2015;135:583-4.	2015	食物アレルギーの閾値を理解するために、経口閾値線量に関する様々なデータをレビュー。		レビュー	-	文献検索
480	424	カ	乳力	Immunotherapy in food allergy: Towards new strategies	Sato S et al	Asian Pac J Allergy Immunol. 2014;32:195-202.	2014	新規のアレルギー治療等に関するレビュー。閾値についても検討。		レビュー	-	文献検索
481	449	カ	卵力	Comparison of novel protein chip and enzyme-linked fluorescent assay for detecting allergen-specific IgE	Lu XY et al	Journal of Clinical Dermatology. 2016;45:164-167.	2016	特異的 IgE を検出する抗体検出キット（タンパク質チップ法）の有効性を調査。456 件の血清サンプルを用いて調査。		原著	-	文献検索
482	427	カ	乳力	Oral desensitization in children with milk and egg allergies obtains recovery in a significant proportion of cases. A randomized study in 60 children with cow's milk allergy and 90 children with egg allergy.	Morisset M et al	Eur Ann Allergy Clin Immunol. 2007; 39: 12-19.	2007	卵及び牛乳アレルギーを有する子供を対象として経口脱感作プロトコルを検証。DBPCFC は牛乳 200ml、卵白 7g で実施。	(原著入手不可)	原著	DBPCFC	EFSA 意見書
483	168	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Food intolerance and childhood asthma: What is the link?	Beausoleil JL et al	Paediatr Drugs. 2007;9:157-63.	2007	食物アレルギーと幼少期の喘息の関連性及び食物アレルギー診断に関するレビュー。		レビュー	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
484	568	キ	卵キ 乳キ	Prevention of food allergy	duToit G et al	J Allergy Clin Immunol. 2016;137:998-1010.	2016	食事操作による IgE 依存性食物アレルギーの予防について、最新の介入研究について報告したレビュー。		レビュー	-	文献検索
485	499	キ	卵キ 乳キ	Maternal Influences over Offspring Allergic Responses	Joan M. Cook-Mills	Curr Allergy Asthma Rep. 2015; 15: 501.	2015	喘息と食物アレルギーとの関係、親から子供への遺伝について動物実験の結果をレビュー。	動物実験	レビュー	-	文献検索
486	515	キ	卵キ 乳キ	Food Allergy: Epidemiology and Natural History	Savage J et al	Immunol Allergy Clin North Am. 2015;35: 45-59.	2015	食物アレルギーの診断、治療、予防に関するレビュー。		レビュー	-	文献検索
487	512	キ	卵キ 乳キ	Does atopic dermatitis cause food allergy? A systematic review	Tsakok T et al	J Allergy Clin Immunol. 2016;137:1071-1078	2016	アトピー性皮膚炎と食物アレルギーとの関連を皮膚炎の重症度、発症年齢に対する食物アレルギーの影響、及び時間的関係を検討したレビュー。		レビュー	-	文献検索
488	495	キ	乳キ	Epidemiology of food allergy and food-induced anaphylaxis: Is there really a Western world epidemic?	Koplin JJ et al	Curr Opin Allergy Clin Immunol. 2015;15:409-116.	2015	アレルギーと遺伝要因に関するレビュー。		レビュー	-	文献検索
489	520	キ	乳キ	Epidemiology of food protein-induced enterocolitis syndrome	Mehr S et al	Curr Opin Allergy Clin Immunol. 2014;14:208-16.	2014	食物タンパク質誘発性腸炎症候群 (FPIES) に関するレビュー。		レビュー	-	文献検索
490	492	キ	乳キ	Allergy and asthma prevention 2014	Nieto A et al	Pediatr Allergy Immunol. 2014;25:516-33.	2014	2014 年アレルギー、喘息治療の総説。食事療法、薬物療法は一定の効果があるが、さらに遺伝的、エピジェネティックな要因と環境の関連の解明に更なる進歩を見出すことができる可能性あり。		レビュー	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
491	485	キ	乳キ	Maternal dietary intake in pregnancy and lactation and allergic disease outcomes in offspring	Venter C et al	Pediatr Allergy Immunol. 2017;28:135-143	2017	母親の妊娠時の食事、授乳と出生児のアレルギー出現に関するレビュー。		レビュー	-	文献検索
492	717	キ	乳キ	Impact of elimination diets on nutrition and growth in children with multiple food allergies	Venter C et al	Curr Opin Allergy Clin Immunol. 2017;17:220-226	2017	アトピー性疾患を有する子供の食物の回避と成長及び栄養摂取に関するレビュー。		レビュー	-	文献検索
493	540	キ	卵キ 乳キ	Sensitization to milk, egg and peanut from birth to 18 years: A longitudinal study of a cohort at risk of allergic disease	Alduraywish SA et al	Pediatr Allergy Immunol. 2016;27:83-91	2016	幼児期から 18 歳までの牛乳、卵、ピーナッツ感作の経過を調査し、早期の食品感作から思春期の食物アレルギーを予測することが可能か評価。早期湿疹を呈した男児は、フォローアップ期間中、牛乳及び卵の感作の有病率が最も高かった。		原著	-	文献検索
494	535	キ	卵キ 乳キ	Eczema and sensitization to common allergens in the United States: a multiethnic, population-based study	Fu T et al	Pediatr Dermatol. 2014;31:21-26	2014	特異的 IgE が高レベルで測定された食物アレルギー及び環境アレルギーに対する感作が、湿疹リスクと関連するか検討。湿疹と診断された 1-17 歳の患者の血清から IgE 値を測定。		原著	-	文献検索
495	564	キ	卵キ 乳キ	Atopic phenotypes identified with latent class analyses at age 2 years	Havstad S et al	J Allergy Clin Immunol. 2014;134:722-727.	2014	人種差のあるコホート内の 2 歳児のアレルギー特異的血清 IgE 測定値を用いて、アトピー性皮膚炎及びその他の疾患の発症について調査。		原著	コホート	文献検索
496	750	キ	卵キ 乳キ	Food-induced anaphylaxis: mast cells as modulators of anaphylactic severity	Hogan SP et al	Semin Immunopathol. 2012; 34: 643-653.	2012	食物誘発性アナフィラキシーの重篤度と免疫経路の関係についてマウスを用いて評価。	動物実験	原著	-	

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
497	322	キ	卵ア 卵キ 乳ア 乳キ	Associations between Milk and Egg Allergens and the HLA-DRB1/DQ Polymorphism: A Bioinformatics Approach	Ivan Dimitrov & Irini Doytchinova et al	Int Arch Allergy Immunol 2016;169:33-39	2016	ヒト白血球抗原 (HLA) II 型の多型と卵・乳のアレルゲンの関係を調査。HLA の多型と抗原との結合に関するパイオインフォマティクスのデータであり実験データはない。	アルゴリズムを開発し、遺伝子のアレルギーから受ける影響を調査	原著	-	文献検索
498	529	キ	卵オ 卵キ 乳オ 乳キ	Socioeconomic evaluation of well-characterized allergy to staple foods in adults	Jansson SA et al	Allergy. 2014;69:1241-7.	2014	アレルギー疾患による社会的影響を調査。	年齢及び性別を一致させた症例対照研究	原著	-	文献検索
499	464	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Early complementary feeding and risk of food sensitization in a birth cohort.	Joseph CL et al	J Allergy Clin Immunol. 2011;127:1203-1210	2011	出生コホートを対象に、補助食物の摂取が卵、牛乳、ピーナッツの感作及びアレルギーの発症に与える影響を調査。子供の母親にインタビューを実施。また、感作性を評価するために 2-3 歳で採血を実施。親が喘息又はアレルギー歴を持つ子供にのみ補助食品の摂取がピーナッツ（おそらく卵）の感作性のリスク低下と関連。		原著	コホート	EFSA
500	555	キ	卵キ 乳キ	Exploring racial differences in IgE-mediated food allergy in the WHEALS birth cohort	Joseph CL et al	Ann Allergy Asthma Immunol. 2016;116:219-224.	2016	出生コホートにおける IgE 依存性食物アレルギーの人種差を調査。多民族に対して卵及び牛乳 IgE 依存性食物アレルギーの同定を試みた。喘息及びアレルギーの格差を調査する際には、感作の人種/民族の違いを考慮する必要性を示唆。	36 ヶ月齢まで乳児の病歴、症状、臨床データが利用可能であった多民族の出生コホートにおいて、卵、乳、又はピーナッツに対する IgE-FA を調査	原著	コホート	文献検索
501	480	キ	卵キ 乳キ	Serum IgE levels and allergic spectra in immigrants to Sweden.	Kalyoncu AF et al	Allergy, 1992; 47: 277-280.	1992	アジア、アフリカ、中東、南米からの 134 人の移民のアレルギー症状を評価。		原著	-	EFSA 意見書

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
502	511	キ	卵キ 乳キ	Cohort Profile: The HealthNuts Study: Population prevalence and environmental/genetic predictors of food allergy	Koplin JJ et al	Int J Epidemiol. 2015 ; 44:1161-71.	2015	出生コホートによる食物アレルギーの人口有病率及び環境、遺伝的予測因子を調査する横断研究について報告。	親へのアンケート、皮膚プリックテストを実施	原著	コホート	文献検索
503	465	キ	卵キ 乳キ	Early Life Eczema, Food Introduction, and Risk of Food Allergy in Children.	Kumar R et al	Pediatr Allergy Immunol Pulmonol, 2010;23: 175-182.	2010	子供を対象に食物摂取のタイミングとアレルギーの発症について調査。		原著	-	EFSA 意見書
504	504	キ	卵オ 卵キ 乳オ 乳キ	Predictors of allergen sensitization in Singapore children from birth to 3 years	Loo EX et al	Allergy Asthma Clin Immunol. 2016;12:56.	2016	シンガポールの出生コホートで出生からの3年間のアレルギー感作の予測因子を調査。人口統計、家族歴、社会的及び生活習慣要因、子供の健康に関する情報を収集。アレルギー感作の危険因子を評価するために、皮膚プリックテスト(SPT)を実施。		原著	コホート	文献検索
505	719	キ	卵キ 乳キ	アレルギー症状による過去の食物回避が学齢期の成長に及ぼす影響(The Effect of Past Food Avoidance Due to Allergic Symptoms on the Growth of Children at School Age)	Mukaida K et al	Allergol Int. 2010;59:369-374	2010	幼児期のアレルギー症状のため卵、牛乳、小麦を回避した学童の経過を検討するため、アレルギー性疾患の有無と現在の身長、体重に関する質問票を学童14,669名の親に記入してもらいそのデータを分析。		原著	-	医中誌Web
506	477	キ	卵キ 乳キ	Socio-economic status, geographic remoteness and childhood food allergy and anaphylaxis in Australia.	Mullins RJ et al	Clin Exp Allergy. 2010;40:1523-1532	2010	オーストラリアにおいて、社会経済的地位、地理的遠隔性と子供の食物アレルギーとの関連性を検討。		原著	-	EFSA 意見書

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
507	489	キ	卵キ 乳キ	Assessment of children's nutritional attitudes before oral food challenges to identify patients at risk of food reintroduction failure: a prospective study	Polloni L et al	Allergy 2017;72:731-736	2017	経口食物負荷試験の結果、陰性化した子供を対象に、母親の不安や食事内容について調査。81 人の子供の母親を対象としてコホート研究を実施。		原著	コホート	文献検索
508	212	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Household costs associated with objectively diagnosed allergy to staple foods in children and adolescents	Protudjer JL et al	J Allergy Clin Immunol Pract. 2015; 3:68-75	2015	食物アレルギーを持つ子供及び青年の、食事に係る費用を調査。	アンケートを用いて調査	原著	-	文献検索
509	538	キ	卵キ 乳キ	Relationship between physique and food avoidance in infants: A study conducted in a community setting in Japan	Saruwatari A et al	The Journal of Medical Investigation.2015;62	2015	日本の 3 大アレルゲン食品である卵、牛乳、小麦のいずれかを避けた乳児の発育を評価するため、出産手帳に記録された 4 回の健康診断の結果を用い、アレルギー疾患、身長、体重に関するアンケートを実施。		原著	-	文献検索
510	152	キ	卵ウ 卵キ 乳ウ 乳キ	Epidemiology and treatment pattern of atopic dermatitis in patients attending a tertiary care teaching hospital	Scaria S et al	International Journal of Research in Pharmaceutical Sciences. 2011;2:38-44	2011	2010 年 1 月から 2010 年 5 月まで、高知医科大学に通うアトピー性皮膚炎患者について、観察調査、前向き調査を実施、有病率や症状等を調査。		原著	-	文献検索
511	541	キ	卵キ 乳キ	Special diets are common among preschool children aged one to five years in south-east Sweden according to a population-based cross-sectional survey	Servin C et al	Acta Paediatr. 2017;106: 634-638	2017	スウェーデンの自治体における就学前児童（1・5 歳）を対象に横断調査を実施。どのような特別食が導入されているか調査。		原著	-	文献検索
512	577	キ	卵キ 乳キ	Common methodologies in the evaluation of food allergy: Pitfalls and prospects of food allergy prevalence studies	Shu SA et al	Clin Rev Allergy Immunol. 2014; 46: 198-210	2014	食物アレルギーの評価をするための標準的な方法論を検討。		原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
513	711	キ	卵キ 乳キ	Dietary habits and prevalence of allergic rhinitis in 6 to 7-year-old schoolchildren in Turkey	Tamay Z et al	Allergol Int. 2014;63:553-62	2014	トルコの 6-7 歳の子供を対象に、アレルギー性鼻炎の有病率と食事習慣及びその他の因子について調査。	合計 11,483 人を対象とした横断研究	原著	-	文献検索
514	479	キ	卵キ 乳キ	The social determinants of child health: variations across health outcomes - a population-based cross-sectional analysis.	Victorino CC et al	BMC Pediatr. 2009; 9: 53.	2009	社会経済的地位、両親の精神衛生、家族構成等が、子供の健康状態に与える影響を調査。	多変量ロジスティック回帰モデルを用いて推計。	原著	-	EFSA 意見書
515	588	キ	卵キ 卵ク 乳キ 乳ク	Children with atopic dermatitis show clinical improvement after Lactobacillus exposure	Wang IJ et al	Clin Exp Allergy. 2015;45:779-787	2015	アトピー性皮膚炎を持つ 220 人の子供を対象に DBPCFC を実施し、アトピー性皮膚炎の治療におけるプロバイオティクスの役割、効果を検討。また、生活の質及び免疫バイオマーカーに及ぼす影響を評価。		原著	DBPCFC	文献検索
516	563	キ	卵キ 乳キ	Association between Vitamin D levels and allergy-related outcomes vary by race and other factors	Wegienka G et al	J Allergy Clin Immunol. 2015;136:1309-1314.	2015	アレルギー性喘息とビタミン D レベルの関連をコホートで分析。妊娠時の母親、臍帯血、2 歳児の採血を行い、ロジスティックモデルを用いて結果を検討。ビタミン D レベルとアレルギー感作の関連を調査。		原著	コホート	文献検索
517	517	キ	卵キ 乳キ	Prevalence of self-reported food allergy and food intolerance and their associated factors in 3 - 12 year-old children in 9 areas in China	Zhang Y et al	Journal of Hygiene Research. 2015; 44:226-31	2015	中国の子供を対象に、アレルギー疾患の有病率を調査。両親の教育や経済状況を含む社会要因、遺伝要因の関連が示唆された。		原著	-	文献検索
518	641	キ	卵キ 乳キ	食物アレルギーの発症予防	松本建治	日本小児アレルギー学会誌 2016;30:574-579	2016	食物抗原特異的な IgE 抗体の産生を阻止する一次予防のためには、主要な感作経路である乳幼児期の湿疹（アトピー性皮膚炎）の発症予防、適切な治療を行うことが重要である。	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
519	718	キ	卵キ 乳キ	鶏卵・牛乳アレルギー児における除去解除後の食生活実態調査(第5報)	榎村 春江 他	日本小児アレルギー学会誌 .2015;29: 691-700	2015	鶏卵・牛乳アレルギーであった児の除去解除が進み、完全解除が許可された時点における食生活の実態を評価。大量摂取や卵低加熱料理については、未だに症状誘発に対する恐怖感、不安感を持っていた。食事調査の結果からは、一日あたりの鶏卵、牛乳そのものの摂取は過半数の患児が鶏卵 1/2 個、牛乳 100ml 以下であり、牛乳アレルギー児は、カルシウムの摂取量が目標量を下回っていた。除去食生活の長期化による食べないことの習慣化や保護者の不安などが要因となり、多くの患児にとって「真の解除」を得ることが困難である実態が明らかとなった。		原著	-	医中誌 Web
520	639	キ	卵キ 乳キ	アトピー素因の判定に必要なアレルギー数種の検討	服部健史 他	アレルギー. 2008;57:543-551	2008	アトピー素因を持つ抗原に対して特異的 IgE 抗体が陽性と定義した際に、検討する抗原の下図がアトピー素因の判定に与える影響を検討	日本人を対象	原著	-	医中誌 Web
521	29	キ	卵ア 卵キ	Failure to induce oral tolerance in mice is predictive of dietary allergenic potency among foods with sensitizing capacity	Bowman CC et al	Toxicol Sci. 2008;106:435-443.	2008	ピーナッツ、卵白、ホウレン草、鶏肉、ブラジルナッツを対象として、耐性を生じやすい食材と生じにくい食材の違いを胃消化酵素と腸管消化酵素に対する反応性で調査。マウスを用いて各食品の消化性と溶解性が経口免疫寛容に与える影響を分析。	動物実験	原著	-	文献検索
522	571	キ	卵キ	Epidemiology of atopic dermatitis in Japan	Takeuchi S et al	J Dermatol. 2014;41:200-4.	2014	アトピー性皮膚炎の有病率、発症率等について報告。また、石垣島の出生コホート研究から、最新の知見を提供。	出生コホートでは性別による有病率の差異を調査	原著	コホート	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
523	544	キ	乳キ	Effect of feeding pattern on infant illness in Chinese cities	Cai L et al	Public Health Nutr. 2016;19:1252-9.	2016	乳児を対象に、疾患の発症と食事内容について調査。中国の8つの大都市で1,654人の乳児を調査。		原著	-	文献検索
524	521	キ	乳キ	Growth parameters impairment in patients with food allergies	Costa LC et al	J Allergy (Cairo). 2014;98:735.	2014	アレルギー疾患患者の身体的なデータを分析。食物アレルギーを持つ患者の身体的特徴を報告。		原著	-	文献検索
525	204	キ	乳ウ 乳カ 乳キ	Tryptase levels in children presenting with anaphylaxis: Temporal trends and associated factors	De Schryver S et al	J Allergy Clin Immunol. 2016;137:1138-42.	2016	アナフィラキシーを患う子供のトリプターゼレベルを評価し、上昇したトリプターゼレベルの予測因子を調査。	トリプターゼレベルと危険因子との間の関連性を評価するために、多変量線形及びロジスティック回帰分析を実施。	原著	-	文献検索
526	528	キ	乳オ 乳キ	Impact of IgE-mediated food allergy on parental quality of life in Iranian patients	Fathi SM et al	Iran J Allergy Asthma Immunol. 2016;15:372-380.	2016	IgEを介する食物アレルギーがイランの患者の親のQOLに及ぼす影響を評価し、有効なペルシア語でのアンケート調査を開発するために調査を実施。		原著	-	文献検索
527	709	キ	乳キ	Food allergies can persist after myeloablative hematopoietic stem cell transplantation in dedicator of cytokinesis 8-deficient patients	Happel CS et al	J Allergy Clin Immunol. 2016;137:1895-1898.	2016	DOCK8が欠損した患者が骨髄移植手術後も食物アレルギーを発症するか検証。ドナーから移植を受けた患者を後ろ向き及びコホートで評価した結果、食物アレルギーがHSCT後に必ずしも治癒するとは限らないことを観察した。		原著	コホート	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
528	7	キ	乳ア 乳キ	Influence of the route of administration on immunomodulatory properties of bovine β -lactoglobulin-producing <i>Lactobacillus casei</i>	Hazebrouck S et al	Vaccine. 2009;27:5800-5.	2009	牛乳の主要なアレルゲンである β -ラクトグロブリン (BLG) を産生する乳酸菌株の組換え株を開発。BLG に感作したマウスに、この組換え乳酸菌株を鼻腔及び経口投与した場合の免疫調整効力を調査。組換え乳酸菌株を経口投与した場合、BLG 特異的 IgE 産生を阻害していた。	動物実験	原著	-	文献検索
529	497	キ	乳キ	Genetic susceptibility for cow's milk allergy in Dutch children: The start of the allergic March?	Henneman P et al	Clin Transl Allergy. 2016;6:7.	2016	牛乳アレルギーの遺伝的関連を、一塩基遺伝子多型の例と、角質内のフィラグリンタンパク質の変異型から研究。オランダの出生コホートで対照研究を実施。牛乳アレルギーと有意に関連する塩基を見出した。		原著	コホート	文献検索
530	534	キ	乳キ	Early-life farm exposures and adult asthma and atopy in the Agricultural Lung Health Study	House JS et al	J Allergy Clin Immunol. 2017;140:249-256.	2017	農作業時のばく露と喘息及びアトピー疾患との関連を調査。米国の高齢の農業従事者 1746 人とその配偶者 1555 人のデータを分析。	横断調査	原著	-	文献検索
531	508	キ	乳キ	The effect of childhood cow's milk intake and HLA-DR genotype on risk of islet autoimmunity and type 1 diabetes: the Diabetes Autoimmunity Study in the Young	Lamb MM et al	Pediatr Diabetes. 2015;16:31-8.	2015	臍島自己免疫 (IA) 及び 1 型糖尿病 (T1D) の発症への牛乳の影響を調査。牛乳アレルギーを持つ 1,835 人の子供の遺伝子を分析。		原著	-	文献検索
532	483	キ	乳キ	Food consumption and risk of childhood asthma	Lumia M et al	Pediatr Allergy Immunol. 2015 Dec;26(8):789-96.	2015	食物摂取 (牛乳を含まない) とアトピー性及び非アトピー性喘息との関連を検討。3 日間の食事記録を用いて喘息を持つ子供と対照群の食事を測定。		原著	コホート	文献検索

分類 (代表項目・詳細項目) の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
533	715	キ	乳キ	Fussy eating and feeding difficulties in infants and toddlers consuming a cows' milk exclusion diet	Maslin K et al	Pediatr Allergy Immunol. 2015;26:503-8.	2015	牛乳アレルギーにより牛乳を除去した食事を摂取している子がいる親子と、制限の無い食事を摂取している親子で対照試験を実施。除外した食事を摂取している参加者は、制限のない食事を摂取している参加者よりも、摂食障害及び複雑な食事のスコアが高かった。しかし、参加者のスコアの大部分は正常範囲内であり、子供の成長に影響を与えなかった。		原著	-	文献検索
534	716	キ	乳キ	Cows' milk exclusion diet during infancy: Is there a long-term effect on children's eating behaviour and food preferences?	Maslin K et al	Pediatr Allergy Immunol. 2016;27:141-6.	2016	幼児期の食事制限はその後の摂食行動に影響を与える可能性がある。牛乳を除去した食事が、乳幼児の食生活に影響を与えるか調査。		原著	-	文献検索
535	500	キ	乳キ	The canadian healthy infant longitudinal development birth cohort study: Biological samples and biobanking	Moraes TJ et al	Paediatr Perinat Epidemiol. 2015;29:84-92.	2015	カナダの幼児長期調査(CHILD) 3,624 家族を対象に、妊娠中期から 5 年にわたり、聞き取り、観察、生体サンプル採取。		原著	-	文献検索
536	487	キ	乳キ	Probabilistic modelling to assess exposure to three artificial sweeteners of young Irish patients aged 1-3 years with PKU and CMPA	O'Sullivan AJ et al	Food Addit Contam Part A Chem Anal Control Expo Risk Assess. 2016;33:1660-1671.	2016	人工甘味料の摂取と 1-3 歳児のフェニルケトン尿症と牛乳アレルギーの関連を調査。		原著	-	文献検索
537	523	キ	乳キ	Inter-Relationship between Rhinitis and Conjunctivitis in Allergic Rhinoconjunctivitis and Associated Risk Factors in Rural UK Children	Perkin MR et al	PLoS One. 2015;10: e0143651	2015	英国の農村部の子供たちを対象に、鼻炎と結膜炎の相互関係と、これらの病態の疫学的リスク要因を調査。年齢、性別、母乳育児、アレルギーの家族歴、兄弟姉妹の人数を調整し、オッズ比を調査。		原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
538	488	キ	乳キ	A History of Cow' s Milk Allergy Is Associated with Lower Vitamin D Status in Schoolchildren	Rosendahl J et al	Horm Res P aediatr. 2017;88:244-250.	2017	学童におけるビタミンDの状況と牛乳アレルギーの関連の調査。10歳児171名。牛乳アレルギー児は血中ビタミンDが低い傾向。性別、人種も関連。		原著	-	文献検索
539	498	キ	乳キ	Interactions between innate immunity genes and early-life risk factors in allergic rhinitis	Seo JH et al	Allergy Asthma Immunol Res. 2015;7:241-248.	2015	9-12歳1,828人を横断的調査。皮膚プリックテスト、TLR4のCD14の遺伝子多型を調査。		原著	-	文献検索
540	552	キ	乳キ	Factors influencing the infant gut microbiome at age 3-6 months: Findings from the ethnically diverse Vitamin D Antenatal Asthma Reduction Trial (VDAART)	Sordillo JE et al	J Allergy Clin Immunol. 2017;139:482-491	2017	3-6か月の乳児のコホートを対象に腸内微生物とアレルギー疾患の関連を調査。333人の便試料を用いて16S rRNA遺伝子配列を分析。		原著	コホート	文献検索
541	550	キ	乳キ	Ethnic and diet-related differences in the healthy infant microbiome	Stearns JC et al	Genome Med. 2017;9:32	2017	乳児の腸内の微生物が、母親のばく露状況、民族性、人種、等で異なるか検討。		原著	-	文献検索
542	507	キ	乳オ 乳キ	Innate Immunity and Asthma Risk in Amish and Hutterite Farm Children	Stein MM et al	N Engl J Med. 2016;375:411-421	2016	農業習慣が異なる米国2つの集団を対象に、喘息の有病率における著しい格差を示し、これらの格差の根底にある免疫応答について調査。	動物実験	原著	-	文献検索
543	484	キ	乳キ	Maternal diet during pregnancy and lactation and cow's milk allergy in offspring	Tuokkola J et al	Eur J Clin Nutr. 2016;70:554-9.	2016	妊婦の乳製品摂取と出生児のアレルギーの関連について調査。非牛乳アレルギー妊婦の牛乳摂取は出生児の牛乳アレルギーを防ぐことを示唆。		原著	-	文献検索
544	519	キ	乳キ	Early weaning is beneficial to prevent atopic dermatitis occurrence in young children	Turati F et al	Allergy. 2016;71:878-88.	2016	早期の離乳とアトピー性皮膚炎の発生の関係を調査。乳児を対象に症例対照研究を実施。ロジスティック回帰分析を用いて推定。		原著	症例対照	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献番号	管理番号	分類 (代表項目)	分類 (詳細項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑誌名、掲載号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
545	506	キ	乳キ	Association of Early Exposure of Probiotics and Islet Autoimmunity in the TEDDY Study	Uusitalo U et al	JAMA Pediatr. 2016;170:20-8.	2016	プロバイオティクスの早期投与が1型糖尿病ハイリスク遺伝型の乳児の膵島自己免疫反応を軽減するか検討。	乳児の血清をサンプリング、性別や出生順位、授乳様式などの項目を用いて結果の調整を実施。	原著	-	文献検索
546	8	キ	乳ア 乳キ	Influence of the route of exposure and the matrix on the sensitisation potency of a major cows' milk allergen	Wavrin S et al	Clinical and Translation al Allergy. 2015;5:3.	2015	β-ラクトグロブリンを事前に非胃腸ばく露（皮膚など）させた場合に、その後の経口ばく露に及ぼす影響をマウスを用いて調査。事前に皮膚でばく露させると、その後の経口ばく露による感作が促進される。	動物実験	原著	-	文献検索
547	502	キ	乳キ	Transfer of intestinal bacterial components to mammary secretions in the cow	Young W et al	PeerJ. 2015;3:e888.	2015	牛乳中に存在するバクテリアや細菌成分が、アレルギー疾患のリスクを軽減するために免疫システムを調節する役割を果たしているか調査。		原著	-	文献検索
548	496	キ	乳キ	Filaggrin gene loss-of-function variants modify the effect of breast-feeding on eczema risk in early childhood	Ziyab AH et al	Allergy. 2016;71:1371-3.	2016	早期離乳が乳児の湿疹の発症リスクを減少させるか、2011年から2014年の間に収集された子供のデータを用いて症例対照研究を実施。		原著	症例対照	文献検索
549	591	ク	卵ク 乳ク	Recent advances in the management of food allergy	Anagnostou K et al	Clin Pract.2014;11: 639-647	2014	食物アレルギーの管理に対する最近の研究結果を報告。これまでのリスク評価と管理アプローチについて言及。		レビュー	-	文献検索
550	584	ク	卵ク 乳ク	Active management of food allergy: An emerging concept	Anagnostou K et al	Arch Dis Child. 2015;100:386-90.	2015	食物アレルギーの管理についてのレビュー。潜在的なアレルギー誘発食品の早期導入、予測検査、能動的モニタリング、食物アレルギーに対する脱感作及び能動的リスク管理を含む。		レビュー	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名・掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
551	590	ク	卵ク 乳ク	Is advising food allergic patients to avoid food with precautionary allergen labelling out of date?	Zurzolo GA et al	Curr Opin Allergy Clin Immunol. 2016;16:272-7	2016	食品業界、医療従事者、食物アレルギーの消費者による食物アレルギーに関するラベルの使用及び解釈に関する最新の知見を報告。		レビュー	-	文献検索
552	596	ク	卵ク 卵力 卵キ	Advances in the risk management of unintended presence of allergenic foods in manufactured food products - An overview	Hattersley S et al	Food Chem Toxicol. 2014;67:255-61.	2014	食物アレルギーのリスクアセスメント法の開発と最新の知見を報告したレビュー		レビュー	-	文献検索
553	581	ク	乳ク	Allergic diseases among children: Nutritional prevention and intervention	Hendaus MA et al	Ther Clin Risk Manag. 2016;12:361-72.	2016	アレルギー疾患の疫学と有病率、患者やその家族への社会的影響について検討したレビュー文献		レビュー	-	文献検索
554	582	ク	乳ク	IgE-mediated food allergy- diagnosis and management in New Zealand children	Sinclair J et al	N Z Med J. 2013;126:57-67.	2013	ニュージーランドの子供を対象とした IgE 依存性食物アレルギーの診断方法とその管理についてレビュー。		レビュー	-	文献検索
555	609	ク	卵ク 乳ク	Guide des bonnes pratiques pour la reduction des presences fortuites d'allergenes majeurs	Association Nationale des Industries Alimentaires (ANIA)	以下の URL から情報を取得可能。 http://www.academia.edu/29762982/GUIDE_DES_BONNES_PRACTIQUES_POUR_LA_REDUCTION_DES_PRESENCES_FORTUITES_D_ALLERGENES_MAJEURS	2005	食品産業におけるアレルゲン管理について記載。	フランス語	公的機関資料	ガイドライン	

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
556	339	ク	乳ク	Mechanistic correlates of clinical responses to omalizumab in the setting of oral immunotherapy for milk allergy	Frischmeyer -Guerrero PA et al	J Allergy Cl in Immunol. 2017;140:10 43-1053.	2017	経口免疫療法でオマリズマブが免疫を調節するメカニズムを調査し、オマリズマブの効果を受ける可能性が高い患者グループを予測するベースラインバイオマーカーを同定。		原著	-	文献検索
557	724	-	-	Improving in-vitro tests for the diagnosis of food hypersensitivity.	Sampson HA	Curr Opin Allergy Clin Immunol. 2 002;2:257-6 1.	2002	食物過敏症の診断、検査方法に対する <i>in vitro</i> 試験の技術進展に対する総論。		レビュー	-	文献検索
558	707	-	-	Advances in allergic skin disease, anaphylaxis, and hypersensitivity reactions to foods, drugs, and insect stings	Sicherer SH et al	J Allergy Cl in Immunol. 2004;114:11 8-24	2004	アレルギー性皮膚疾患、アナフィラキシー、及び食品、薬物、及び昆虫毒に対する過敏反応の研究の進歩のうち、2003 年の間にアレルギー及び臨床免疫学のジャーナルに報告された研究の進歩を報告している。		レビュー	-	文献検索
559	703	-	-	Advances in allergic skin disease, anaphylaxis, and hypersensitivity reactions to foods, drugs, and insects in 2007.	Sicherer SH et al	J Allergy Cl in Immunol. 2008 ;121:1 351-8	2008	アレルギー性皮膚疾患、アナフィラキシー、及び食品、薬物、及び昆虫毒に対する過敏反応の研究の進歩のうち、2007 年の間にアレルギー及び臨床免疫学のジャーナルに報告された研究の進歩を報告している。		レビュー	-	文献検索
560	701	-	-	Advances in allergic skin disease, anaphylaxis, and hypersensitivity reactions to foods, drugs, and insects in 2009.	Sicherer SH et al	J Allergy Cl in Immunol. 2010;125:85 -97.	2010	アレルギー性皮膚疾患、アナフィラキシー、及び食品、薬物、及び昆虫毒に対する過敏反応の研究の進歩のうち、2009 年の間にアレルギー及び臨床免疫学のジャーナルに報告された研究の進歩を報告している。		レビュー	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

文献 番号	管理 番号	分類 (代表 項目)	分類 (詳細 項目)	文献名	著者名	書誌情報(雑 誌名、掲載 号・頁)	発行年	文献概要	その他重要な情報	文献種類 (大分類)	文献種類 (小分類)	情報源
561	696	-	-	Advances in allergic skin disease, anaphylaxis, and hypersensitivity reactions to foods, drugs, and insects in 2014.	Sicherer SH et al	J Allergy Cl in Immunol. 2015;135:357-67	2015	アレルギー性皮膚疾患、アナフィラキシー、及び食品、薬物、及び昆虫毒に対する過敏反応の研究の進歩のうち、2014 年の間にアレルギー及び臨床免疫学のジャーナルに報告された研究の進歩を報告している。		レビュー	-	文献検索
562	731	-	-	Food hypersensitivity and dietary management in atopic dermatitis.	Sampson HA	Pediatr Der matol. 1992; 9:376-9.	1992	アトピー性皮膚炎を有する子供の 3 分の 1 が食欲不振に関する研究。		原著	-	文献検索

分類（代表項目・詳細項目）の凡例

- | | | |
|--------------|--------------|----------------------------------|
| (ア) アレルゲンの特徴 | (エ) 摂取量 | (キ) その他アレルゲン性に影響を与える要因 |
| (イ) 交差性 | (オ) 加工等による影響 | (ク) 諸外国等のリスク評価・リスク評価を踏まえたリスク管理状況 |
| (ウ) 疫学調査等 | (カ) 閾値 | (ケ) その他 |

卵及び乳アレルギーに係る食品表示についての食品健康影響評価のための調査報告書
(平成 30 年 2 月)

エム・アール・アイリサーチアソシエイツ株式会社